

## 岩盤の亀裂・風化状態と透水性の関係についての調査

(動力炉・核燃料開発事業団 契約業務報告書)

1998年3月

株式会社 ダイヤコンサルタント

複製又はこの資料の入手については、下記にお問い合わせください。

〒509-5102 岐阜県土岐市泉町定林寺 959-31

動力炉・核燃料開発事業団

東濃地科学センター

技術開発課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:

Exploration and Mining Tecnology Development Section. Tono Geoscience Center

Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation

959-31 Jorinji Izumi-machi Toki-shi Gifu-ken 509-5102 Japan

公開資料

PNC TJ7308 98-008

1998年3月

岩盤の亀裂・風化状態と透水性の関係についての調査

伊熊 俊幸\*

久保内明彦\*

浜出 智\*

要旨

日本に分布する岩種について亀裂や風化の状態と透水性との関係を把握するために、既存資料を対象とした調査を実施し、各岩種における条件ごと（深度、亀裂や風化の状態、試験方法、試験区間長など）にデータを分類した。

対象としたデータは、文献透水試験データベース、東濃地区原位置試験データ、釜石地区原位置試験データおよびトンネル湧水量調査である。

文献透水試験データベースおよび東濃地区原位置試験データの解析から、風化が進んだ岩盤は透水係数が高くなることが判明した。

釜石地区原位置試験データの解析から、開口割れ目のある岩盤では、開口割れ目のない岩盤と比べて透水係数が10<sup>1</sup>オーダー高くなることが判明した。

トンネル湧水量調査データの解析から、破碎帯の多いトンネルでは、破碎帯の少ないトンネルと比べて透水係数が10<sup>1</sup>オーダー高くなることが判明した。

---

本報告書はダイヤコンサルタントが動力炉・核燃料開発事業団の委託により実施した調査の成果である。

契約番号 09C1145

事業担当部課室および担当者：東濃地科学センター 地質環境研究室

坪田 浩二

\* 株式会社ダイヤコンサルタント名古屋支店

PNC TJ7308 98-008

March, 1998

Research on the relation between crack and weathering, and permeability about rock

Toshiyuki Ikuma\*

Akihiko Kubouchi\*

Satoshi Hamade\*

It is enforced the investigation that with an object to grasp a crack and a state of weathering and relation with permeability about rock mass distributed over Japan, and classified data in every condition in each rock seed (depth, a crack and a state of weathering, examination method, the head between examination wards).

An object and data done are literature water permeance examination database, Tono district original position examination data, Kamaishi district original position examination data and quantity of tunnel spring water investigation.

It became clear that water permeance coefficient became high as for the rock mass that weathering progressed from analysis of literature water permeance examination database and the Tono district original position examination data.

From analysis of Kamaishi district original position examination data, it became clear water permeance of rock mass with open crack is  $10^1$  order higher than that of no open crack.

From analysis of quantity of tunnel spring water investigation data, it became clear quantity of springwater permeance at a tunnel with many fracture zone is  $10^1$  order higher than that with few fracture zone.

---

Work performed by Dia Consultants Co.,Ltd. under construct with Power Reactor Nuclear Fuel Development Corporation

PNC Liaison:Tono Geoscience Center, Geological Environment Research Section

Koji Tsubota

\*Dia Consultants Co., Ltd., Nagoya Office

## 目 次

1. 調査概要 .....	1
2. 調査方法 .....	2
2. 1. 透水係数データベースの再整理 .....	3
2. 2. 東濃地区データの整理 .....	3
2. 3. 釜石地区データの整理 .....	5
2. 4. トンネル湧水量に関する資料の整理 .....	5
3. データベースの内容 .....	6
3. 1. 文献資料透水係数データベースの内容 .....	6
3. 2. 東濃地区データベースの内容 .....	8
3. 3. 釜石地区データベースの内容 .....	8
3. 4. トンネル湧水量データベースの内容 .....	10
4. 文献資料透水係数データベースによる透水性の検討 .....	11
4. 1. 解析データの概要 .....	11
4. 2. 各岩種の風化状態による透水係数分布 .....	11
4. 3. 断層破碎帯の透水係数分布 .....	28
5. 東濃地区データベースによる透水性の検討 .....	38
5. 1. 解析データの概要 .....	38
5. 2. 東濃地区風化状態毎の透水係数分布 .....	38
5. 3. 龜裂状態の違いによる透水係数分布 .....	48
5. 4. 割れ目の数と透水性との関係 .....	57
5. 5. 深度と透水性との関係 .....	61
5. 6. 試験方法の相違による透水係数の関係 .....	75
6. 釜石地区原位置試験結果による透水性の検討 .....	77
6. 1. 龜裂本数別透水係数分布 .....	77
6. 2. 龜裂の本数と透水係数の相関関係 .....	77
7. トンネル湧水量データベースによる透水性の検討 .....	100
7. 1. 解析データの概要 .....	100
7. 2. 各岩種毎の破碎状況の違いによる湧水量 .....	100
7. 3. トンネル湧水量の一般的傾向 .....	101
7. 4. トンネル湧水量と透水係数の関係 .....	113
8. まとめ .....	120

## 1. 調査概要

- 1)調査件名：岩盤の亀裂・風化状態と透水性の関係についての調査
- 2)調査目的：日本に分布する岩種について亀裂や風化の状態と透水性との関係を把握するために、既存資料を対象とした調査を実施し、各岩種における条件ごと（深度、亀裂や風化の状態、試験方法、試験区間長など）にデータを分類する。また、東濃及び釜石における原位置試験のデータについても同様の作業を実施する。
- 3)調査内容：(1)既存資料の調査、原位置試験データの整理  
                  (2)各岩種における条件ごとの分類
- 4)調査期間：  自：平成9年12月24日  
                  至：平成10年3月6日
- 5)委託者：動力炉・核燃料事業団
- 6)受託者：株式会社ダイヤコンサルタント

## 2. 調査方法

調査の流れを図2-1に示す。

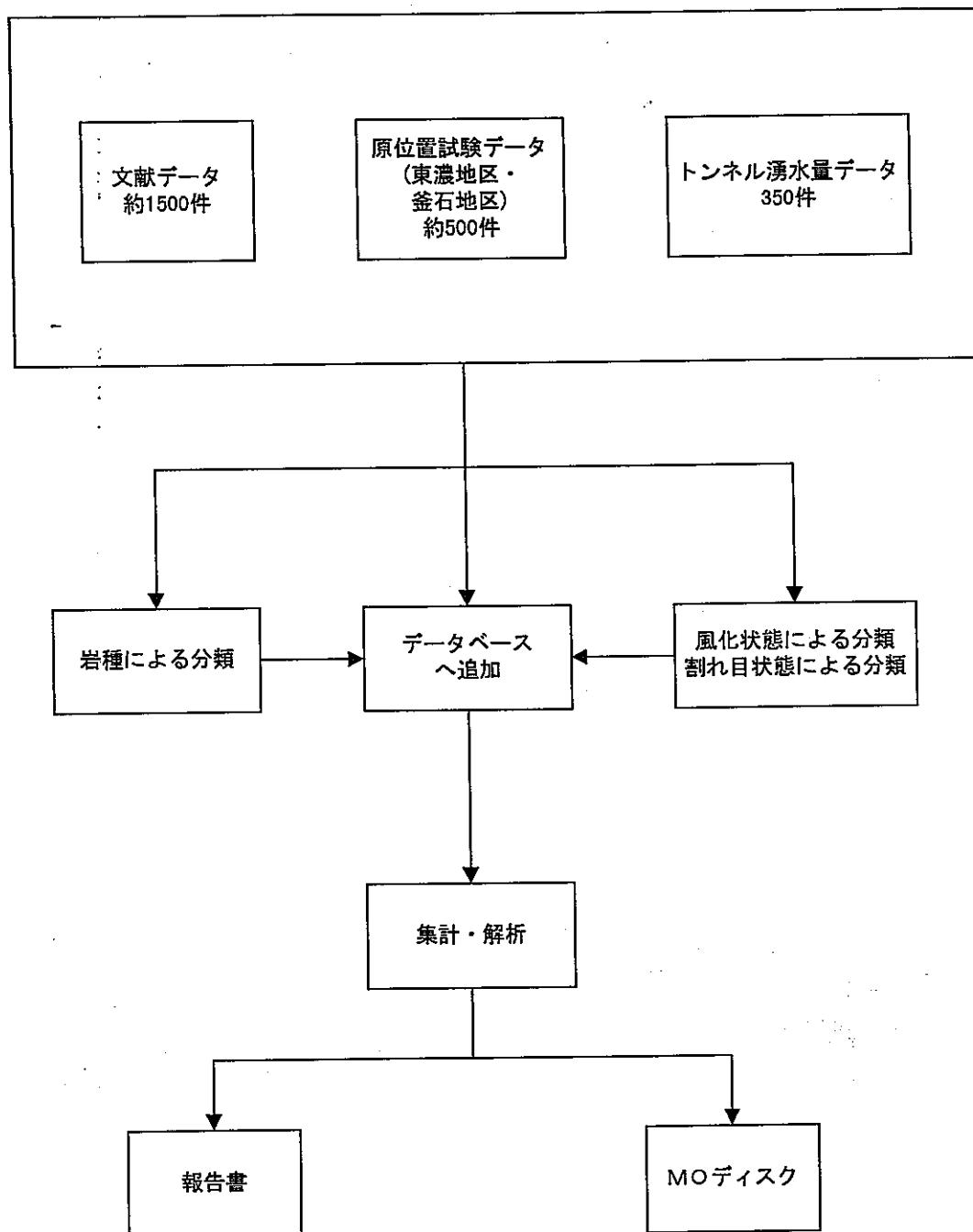


図2-1 調査の流れ

## 2.1. 透水係数データベースの再整理

平成6年度までに作成した透水係数データベースについて、以下の項目について再整理を行った。

岩種区分については以下の7岩種に分類した。

- (1)結晶質岩（酸性岩）
- (2)結晶質岩（塩基性岩）
- (3)新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）
- (4)新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
- (5)古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）
- (6)古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
- (7)その他の岩類

複数の岩種にまたがるもの、安山岩類、結晶片岩類、砂泥互層などはその他岩類に区分した。

風化区分、断層破碎帯の項目については既存のデータベースの内容をそのまま踏襲した。

## 2.2. 東濃地区データの整理

東濃地区の原位置試験のデータを、岩種、風化区分、亀裂状態で区分した。

岩種は次の4岩種に分類した。

- (1)花崗岩
- (2)砂質岩
- (3)泥質岩
- (4)その他の岩類

風化区分は柱状図に記載されているJACICの風化区分を用い以下の通り区分した。試験区間に複数の風化区分がある場合には、長い方を以て代表した。

- $\beta$  新鮮岩
- $\gamma$  弱風化岩
- $\delta$  風化岩
- $\varepsilon$  強風化岩

健全部、亀裂部の区分については、柱状図に記載されているJACICのRQDの指標に従い区分した。試験区間にRQDが50以下の区間が過半数を占める場合には亀裂部、試験区

間のRQDが50以上の区間が過半数を占める場合には健全部とみなした。

表2-1(1) 風化区分一覧表（結晶質岩）

記号	風化の程度
$\alpha$	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
$\beta$	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
$\gamma$	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質（白色化）がある。
$\delta$ -	風化している。有色鉱物が黃金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
$\varepsilon$	強風化している石英および一部の長石をのぞきほとんど変質し原岩組織は失われている。

表2-1-(2) 風化区分一覧表（堆積岩）

記号	風化の程度
$\alpha$	非常に新鮮である。
$\beta$	新鮮である。層理面、片理面にそってわずかに変色があり、割れやすい。
$\gamma$	弱風化している。層理面、片理面にそって風化している。
$\delta$	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
$\varepsilon$	強風化している。黄褐色化し、指先で簡単に壊すことができる。

図2-2 RQDと岩盤良好度

RQD (%)	岩盤良好度の表示
0~25	非常に悪い
25~50	悪い
50~75	普通
75~90	良い
90~100	非常に良い

## 2.3. 釜石地区データの整理

釜石地区の透水係数データに、割れ目の本数に関するデータを追加し、解析用データベースを作成した。

## 2.4. トンネル湧水量に関する資料の整理

解析資料として以下のものを用いた。

大島洋志ほか(1985)：鉄道トンネルの湧水量調査. 鉄道技術研究速報, NoA-85-195.

石井政次ほか(1977)：トンネル湧水の地形・地質的分類. 鉄道技術研究報告, NO1041.

岩種区分については以下の通りとした。

- (1)結晶質岩（酸性岩）
- (2)結晶質岩（塩基性岩）
- (3)新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）
- (4)新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
- (5)古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）
- (6)古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
- (7)その他の岩類

岩種が複数にまたがるものや砂泥互層についてはその他の岩類に区分した。

亀裂状態については、石井(1977)のデータをもとに、破碎帶の少ないものと破碎帶の多いものに区分した。

### 3. データベースの内容

#### 3.1. 文献資料透水係数データベースの内容

既往のデータベースに「岩種番号」、「風化番号」を追加し、以下の34項目からなるデータベースを作成した。

表3-1(1) 文献資料透水係数データベースの項目

1	番号
2	枝番
3	緯度
4	経度
5	位置精度
6	地方名
7	県名
8	地質時代
9	地層名
10	岩質
11	風化状況
12	その他
13	試験方法
14	17図示単位
15	岩種コード
16	風化コード
17	地質構造区
18	透水係数（最小値）
19	透水係数（最大値）
20	透水係数（平均値）
21	Lu値
22	密度
23	有効間隙率
24	湧水量
25	深度（以浅）
26	深度（以深）
27	深度（平均）
28	調査目的
29	表題
30	著者
31	雑誌名
32	年.月
33	巻.号.頁
34	備考

表3-1(2) 文献資料透水係数データベースの項目

岩種番号	
1	結晶質岩（酸性岩）
2	結晶質岩（塩基性岩）
3	新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）
4	新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
5	古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）
6	古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）
99	その他の岩類

風化番号	
1	新鮮
2	弱風化
3	風化
4	強風化
51	破碎帶（破碎質部）
52	破碎帶（断層粘土）

### 3.2. 東濃地区データベースの内容

以下の24項目からなるデータベースを作成した

表3-2 東濃地区データベースの内容

1	測定結果番号
2	孔名
3	上限深度(m)
4	下限深度
5	測定区間長
6	代表深度
7	代表標高
8	地層名
9	岩種番号
10	岩相1
11	岩相2
12	割れ目状況
13	RQD
14	風化状況
15	割れ目の数(開口)
16	割れ目の数(剥離)
17	割れ目の数(密着)
18	割れ目の数(充填)
19	備考
20	間隙水頭h
21	間隙水圧p
22	透水係数
23	試験方法
24	解析方法

RQD 1 健全部, 2 龜裂部

### 3.3. 釜石地区データベースの内容

以下の17項目からなるデータベースを作成した。

表3-3 釜石地区データベースの内容

1	孔番
2	実施年度
3	上限
4	下限
5	代表深度
6	試験区間長
7	地表からの深度
8	海拔
9	岩種
10	亀裂総数
11	開口亀裂数
12	RQD
13	透水係数 (cm/sec)
14	試験方法
15	初期間隙水圧 (kgf/cm <sup>2</sup> )
16	区間状況
17	備考

### 3.4. トンネル湧水量データベースの内容

以下の19項目からなるデータベースを作成した。

表3-4 トンネル湧水量データベースの内容

1	番号
2	線名
3	駅間
4	トンネル名
5	延長
6	形式
7	竣工年月
8	岩種コード
9	岩種
10	重複の有無
11	破碎帯の有無
12	断層の数
13	土被り(max)
14	土被り(ave)
15	総湧水量(前回)
16	総湧水量(今回)
17	キロ当たり湧水量(前回)
18	キロ当たり湧水量(今回)
19	備考

岩種番号は表3-1(2)に同じ

## 4. 文献資料透水係数データベースによる透水性の検討

### 4.1. 解析データの概要

解析データの概要を以下の表4-1に示す。文献データベースに収録されたもののうち、風化に関する記載のあるものを解析の対象とした。

表4-1 岩種区分別解析データ数

	新鮮	弱風化	風化	強風化	計
結晶質岩（酸性岩）	26	20	39	50	135
結晶質岩（塩基性岩）	1	1	1	0	3
新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）	2	1	1	0	4
新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	5	1	6	2	14
古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）	7	4	10	2	23
古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	5	10	12	5	32
その他の岩種	26	12	23	11	72

### 4.2. 各岩種の風化状態による透水係数分布

#### (1) 結晶質岩（酸性岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは135件である。透水係数の平均値は、新鮮岩で $1.10 \times 10^{-5}$ cm/sec、弱風化岩で $3.21 \times 10^{-5}$ cm/sec、風化岩で $1.23 \times 10^{-4}$ cm/sec、強風化岩で $1.23 \times 10^{-4}$ cm/secである。透水係数は風化が進むほど高くなる傾向が顕著に認められ、新鮮岩（CH級岩盤）と弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）と強風化岩（D級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

#### (2) 結晶質岩（塩基性岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは3件である。データが少ないため統計解析は不可能であるが、透水係数は新鮮岩（CH級岩盤）と弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

#### (3) 新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは4件である。データが少ないので統計解析は不可能である。透水係数の平均値は新鮮岩（CH級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）では $10^{-3}$ cm/secオーダーである。

#### (4) 新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは14件である。弱風化岩と強風化岩はデータ数が少なく、統計解析が不可能である。透水係数の平均値は新鮮岩（CH級岩盤）では $1.33 \times 10^{-5}$ cm/sec、風化岩（CL級岩盤）では $3.18 \times 10^{-4}$ cm/secである。透水係数は風化が進むほど高くなる傾向が顕著に認められ、新鮮岩（CH級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

#### (5) 古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは23件である。強風化岩はデータ数が少なく、統計解析が不可能である。透水係数の平均値は新鮮岩（CH級岩盤）では $2.77 \times 10^{-5}$ cm/sec、弱風化岩（CM級岩盤）では $1.81 \times 10^{-5}$ cm/sec、風化岩（CL級岩盤）では $1.88 \times 10^{-4}$ cm/secである。透水係数は風化が進むほど高くなる傾向が顕著に認められ、新鮮岩（CH級岩盤）と弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）は $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

#### (6) 古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）の透水係数分布

風化についての記載のあるデータは32件である。透水係数の平均値は新鮮岩（CH級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-6}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）と強風化岩（D級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

#### (7) その他の岩種の透水係数

風化についての記載のあるデータは72件である。透水係数の平均値は、新鮮岩で $2.35 \times 10^{-5}$ cm/sec、弱風化岩で $4.42 \times 10^{-5}$ cm/sec、風化岩で $1.56 \times 10^{-4}$ cm/sec、強風化岩で $2.60 \times 10^{-4}$ cm/secである。透水係数は風化が進むほど高くなる傾向が顕著に認められ、新鮮岩（CH級岩盤）と弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）と強風化岩（D級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

表4-2 岩種・風化区分別透水係数一覧表

岩種番号	風化番号	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
1 結晶質岩(酸性岩)	全データ	135	8.33E-05	2.50E-08	5.00E-03	-4.079	-7.602	-2.301	0.929
1 結晶質岩(酸性岩)	1 新鮮	26	1.10E-05	2.50E-08	5.00E-04	-4.959	-7.602	-3.301	0.935
1 結晶質岩(酸性岩)	2 弱風化	20	3.21E-05	3.16E-06	5.00E-03	-4.493	-5.500	-2.301	0.753
1 結晶質岩(酸性岩)	3 風化	39	1.23E-04	2.00E-07	1.82E-03	-3.911	-6.699	-2.740	0.781
1 結晶質岩(酸性岩)	4 強風化	50	2.58E-04	5.03E-06	3.57E-03	-3.588	-5.298	-2.447	0.686
2 結晶質岩(塩基性岩)	全データ	3	5.30E-05	1.33E-05	1.88E-04	-4.276	-4.876	-3.726	0.577
2 結晶質岩(塩基性岩)	1 新鮮	1	1.33E-05	1.33E-05	1.33E-05	-4.876	-4.876	-4.876	
2 結晶質岩(塩基性岩)	2 弱風化	1	5.95E-05	5.95E-05	5.95E-05	-4.225	-4.225	-4.225	
2 結晶質岩(塩基性岩)	3 風化	1	1.88E-04	1.88E-04	1.88E-04	-3.726	-3.726	-3.726	
3 新第三紀以降の堆積岩(砂質岩)	全データ	4	8.28E-05	1.88E-05	1.58E-03	-4.082	-4.726	-2.801	0.871
3 新第三紀以降の堆積岩(砂質岩)	1 新鮮	2	3.97E-05	3.16E-05	5.00E-05	-4.401	-4.500	-4.301	0.141
3 新第三紀以降の堆積岩(砂質岩)	2 弱風化	1	1.88E-05	1.88E-05	1.88E-05	-4.726	-4.726	-4.726	
3 新第三紀以降の堆積岩(砂質岩)	3 風化	1	1.58E-03	1.58E-03	1.58E-03	-2.801	-2.801	-2.801	
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩)	全データ	14	6.88E-05	1.70E-06	3.62E-03	-4.163	-5.770	-2.441	0.852
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	1 新鮮	5	1.33E-05	1.70E-06	4.92E-05	-4.875	-5.770	-4.308	0.547
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	2 弱風化	1	3.21E-05	3.21E-05	3.21E-05	-4.493	-4.493	-4.493	
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	3 風化	6	3.18E-04	4.92E-05	3.62E-03	-3.498	-4.308	-2.441	0.756
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	4 強風化	2	6.17E-05	3.81E-05	1.00E-04	-4.210	-4.419	-4.000	0.296
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	全データ	23	6.25E-05	3.16E-06	1.58E-03	-4.204	-5.500	-2.801	0.661
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	1 新鮮	7	2.77E-05	1.33E-05	5.32E-05	-4.558	-4.876	-4.274	0.239
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	2 弱風化	4	1.81E-05	3.16E-06	5.15E-05	-4.741	-5.500	-4.288	0.553
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	3 風化	10	1.18E-04	1.33E-05	1.58E-03	-3.930	-4.876	-2.801	0.612
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	4 強風化	2	5.45E-04	1.88E-04	1.58E-03	-3.264	-3.726	-2.801	0.654
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	全データ	32	3.55E-05	3.16E-07	1.34E-03	-4.450	-6.500	-2.873	1.009
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	1 新鮮	5	1.63E-05	2.79E-06	6.65E-05	-4.787	-5.554	-4.177	0.599
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	2 弱風化	12	4.15E-06	3.16E-07	9.44E-05	-5.381	-6.500	-4.025	0.725
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	3 風化	10	1.91E-04	7.98E-05	1.34E-03	-3.719	-4.098	-2.873	0.431
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	4 強風化	5	4.57E-04	2.66E-04	9.58E-04	-3.340	-3.575	-3.019	0.220
99 その他の岩種	全データ	72	6.90E-05	1.50E-07	5.00E-03	-4.161	-6.824	-2.301	0.813
99 その他の岩種	1 新鮮	26	2.35E-05	1.50E-07	2.63E-03	-4.629	-6.824	-2.580	0.845
99 その他の岩種	2 弱風化	12	4.42E-05	4.21E-06	3.30E-04	-4.354	-5.376	-3.481	0.594
99 その他の岩種	3 風化	23	1.56E-04	2.10E-05	5.00E-03	-3.807	-4.678	-2.301	0.591
99 その他の岩種	4 強風化	11	2.60E-04	3.16E-06	1.45E-03	-3.585	-5.500	-2.839	0.700

\* 解析対象データはデータベースのうち風化に関する記載のあるものとした

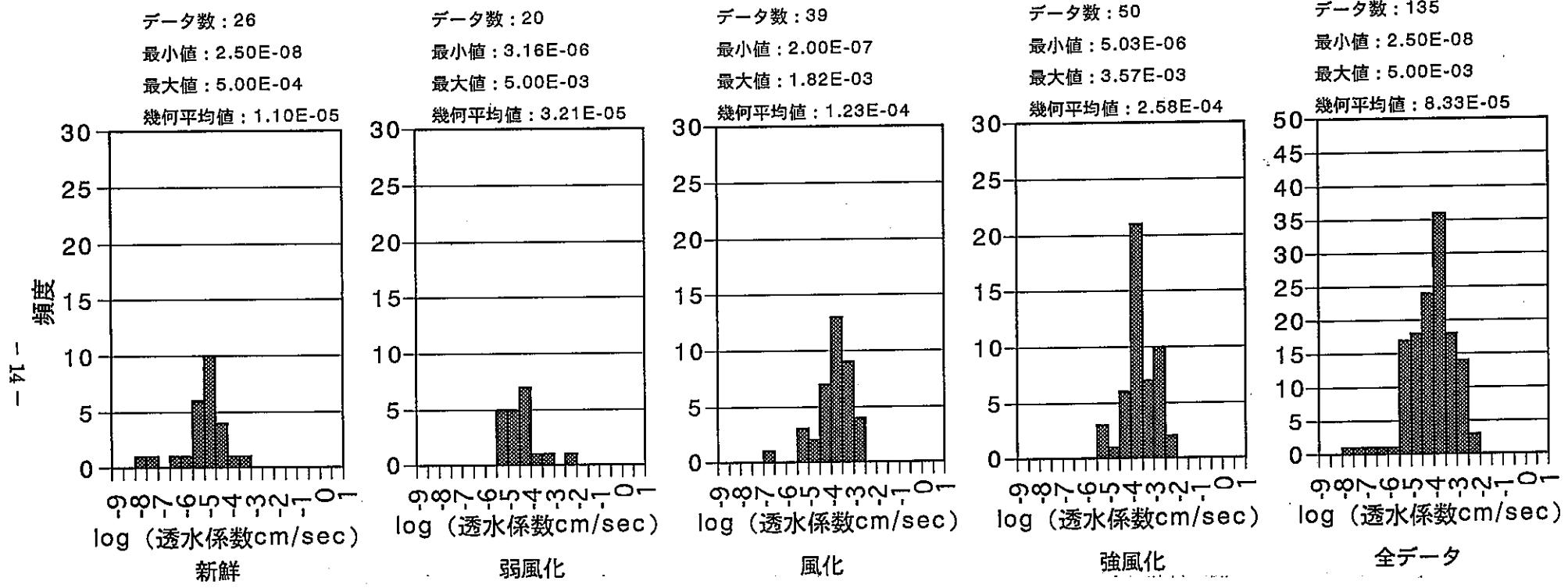


図 4-1 風化区分別透水係数ヒストグラム  
結晶質岩（酸性岩）

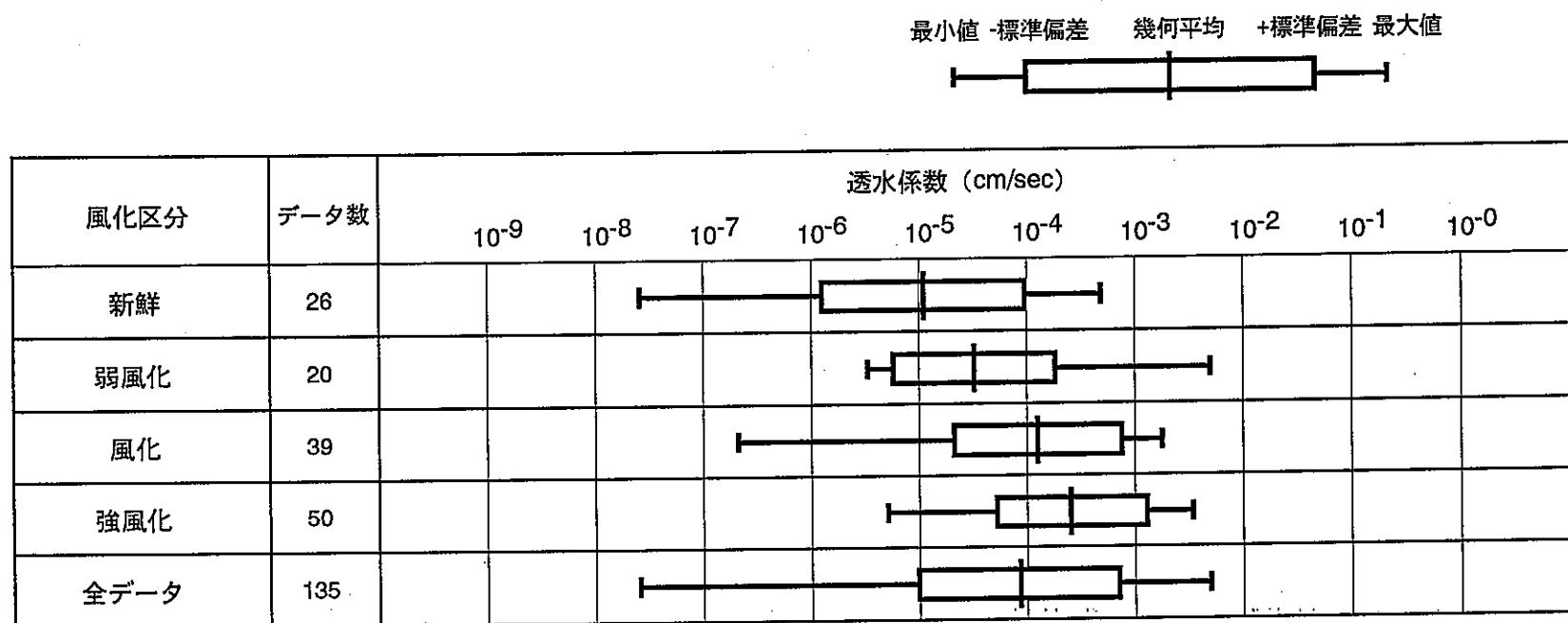


図4-2 風化区分別透水係数分布  
結晶質岩（酸性岩）

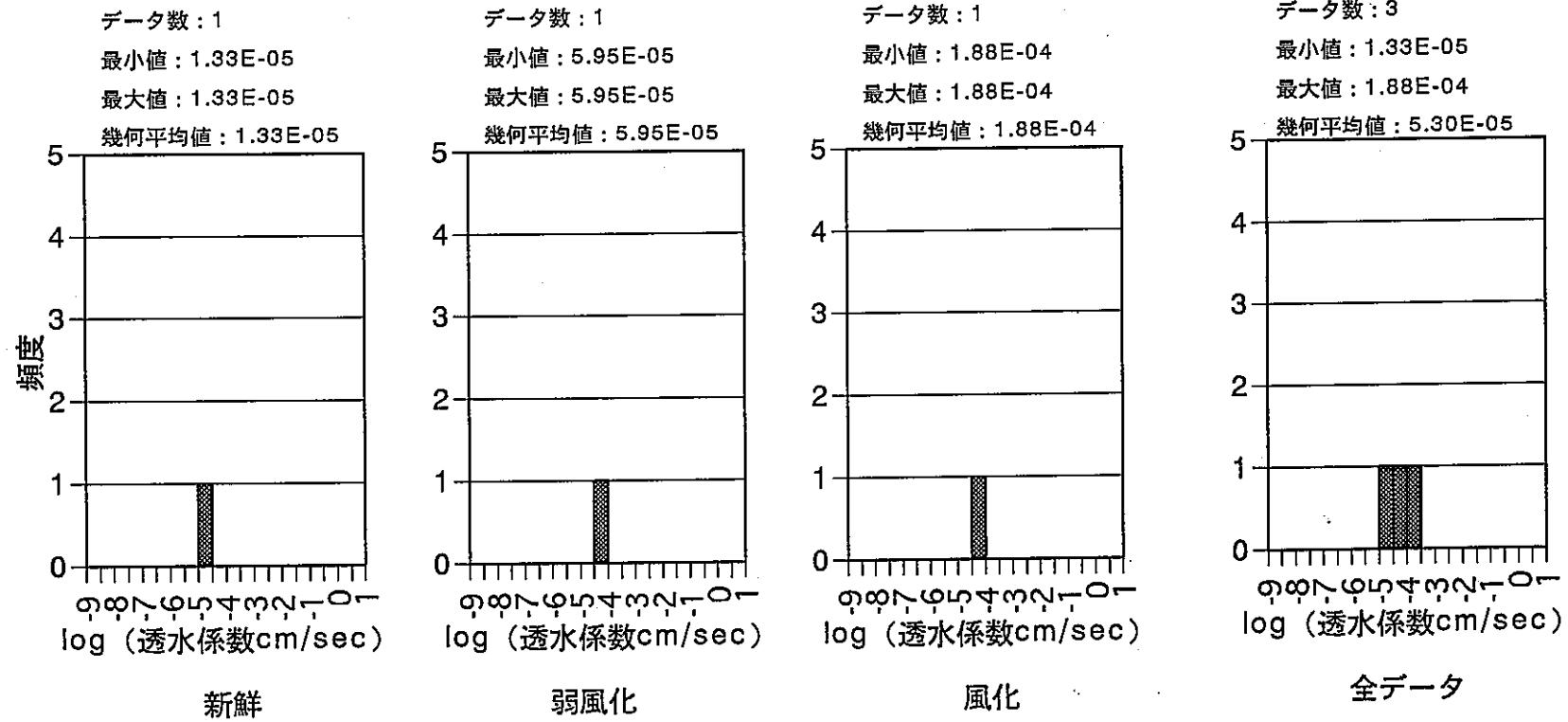


図 4-3 風化区分別透水係数ヒストグラム  
結晶質岩（塩基性岩）

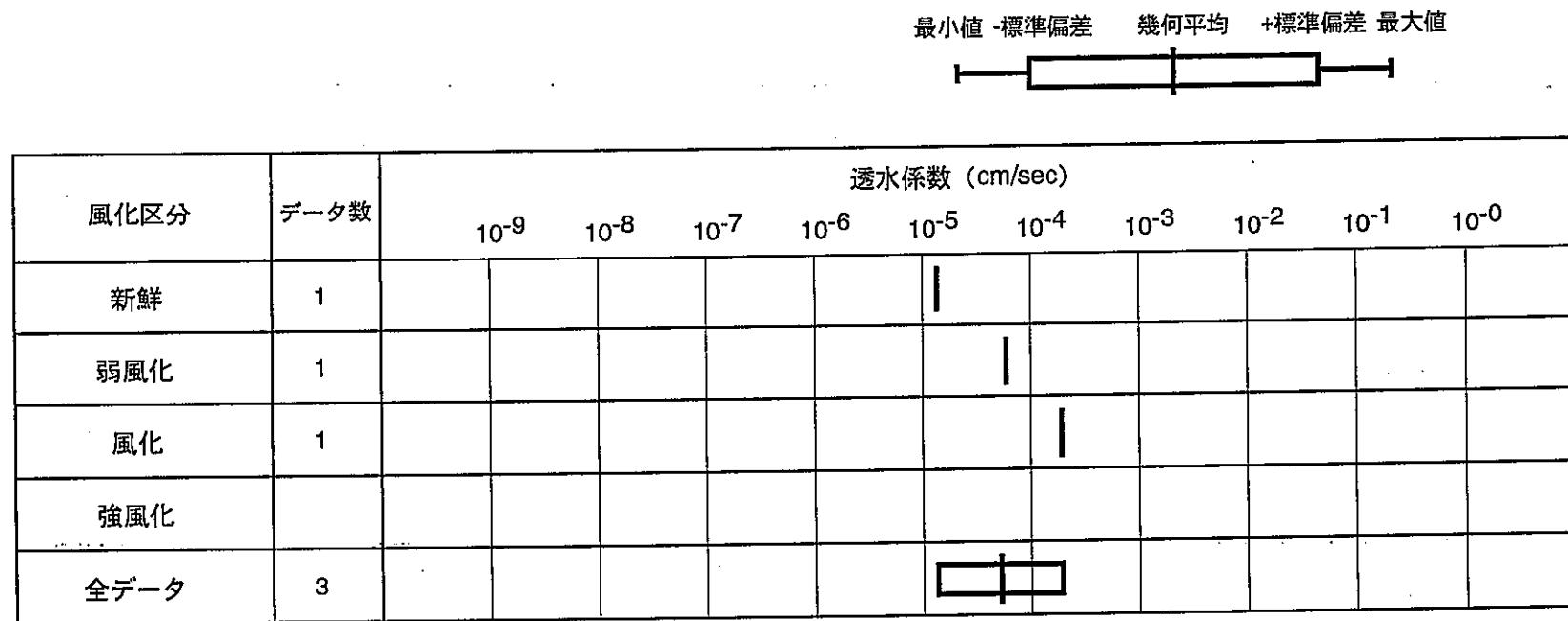


図4-4 風化区別透水係数分布  
結晶質岩（塩基性岩）

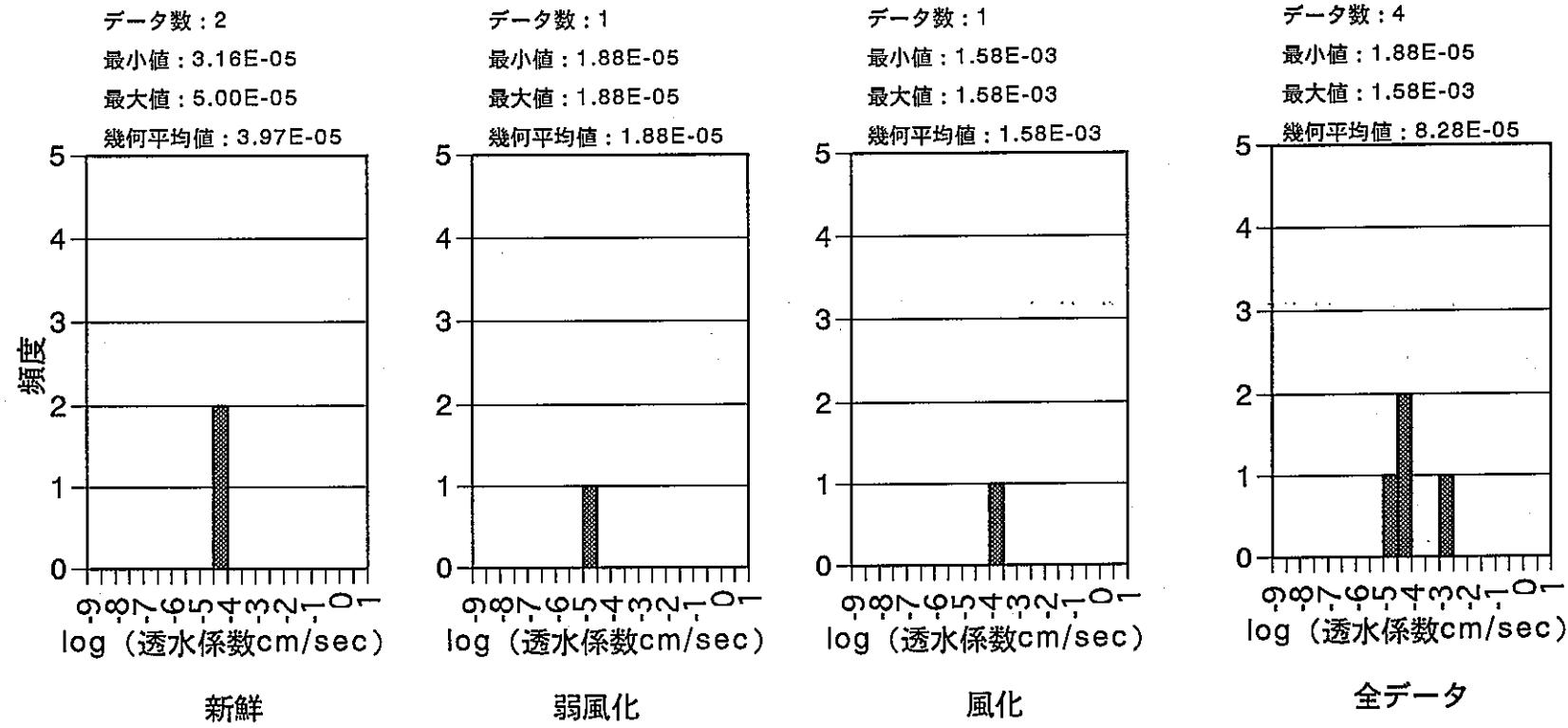


図 4-5 風化区分別透水係数ヒストグラム  
新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）

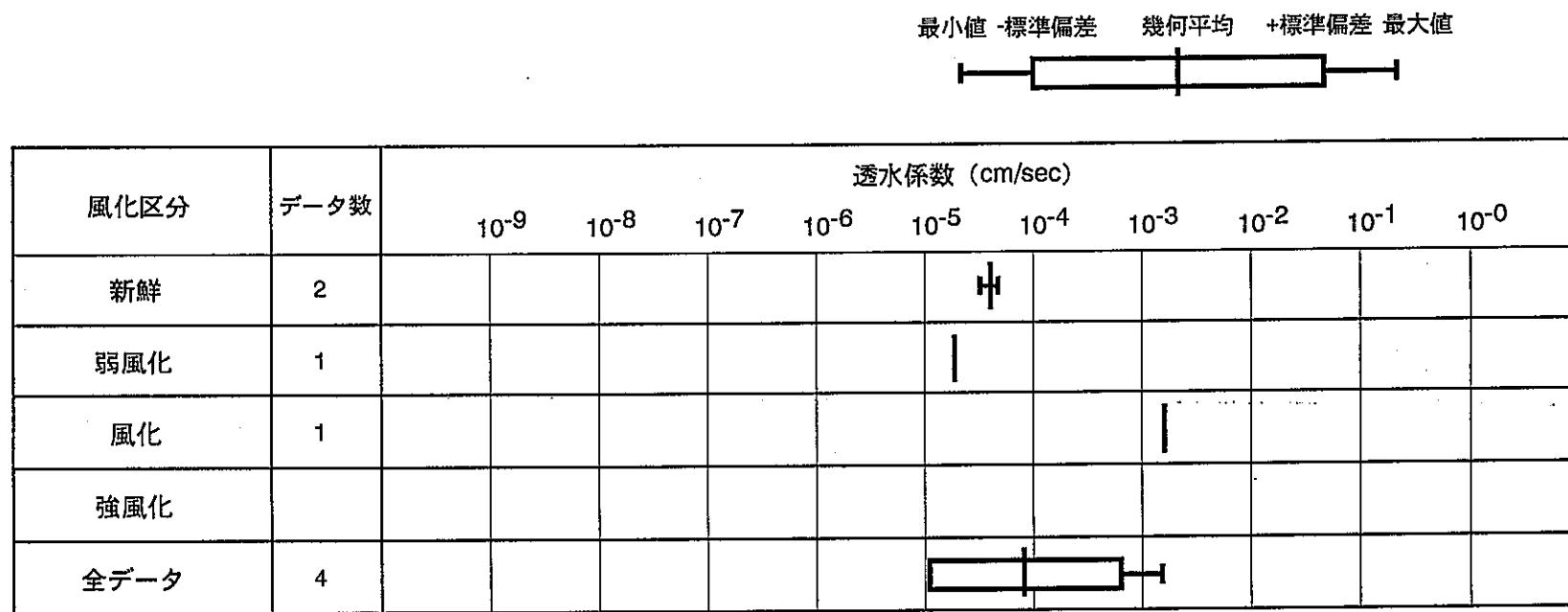


図4-6 風化区分別透水係数分布  
新三紀以降の堆積岩（砂質岩）

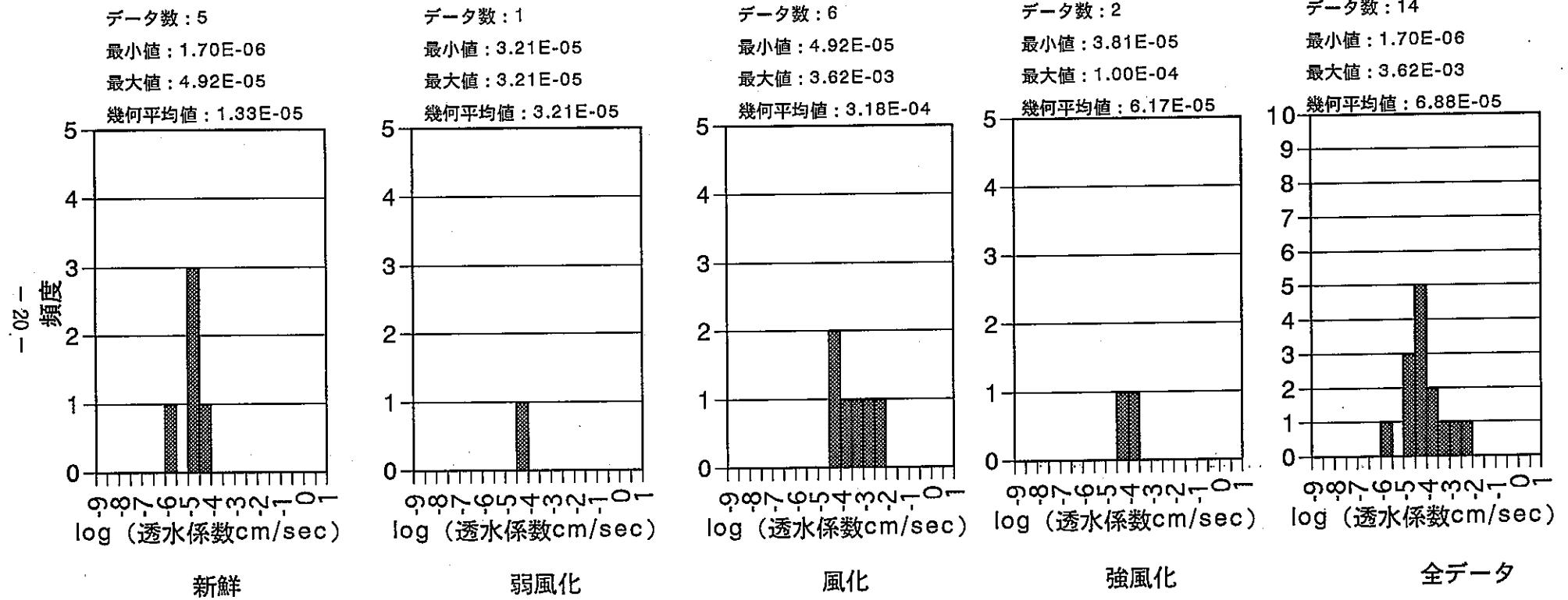


図 4-7 風化区分別透水係数ヒストグラム  
新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

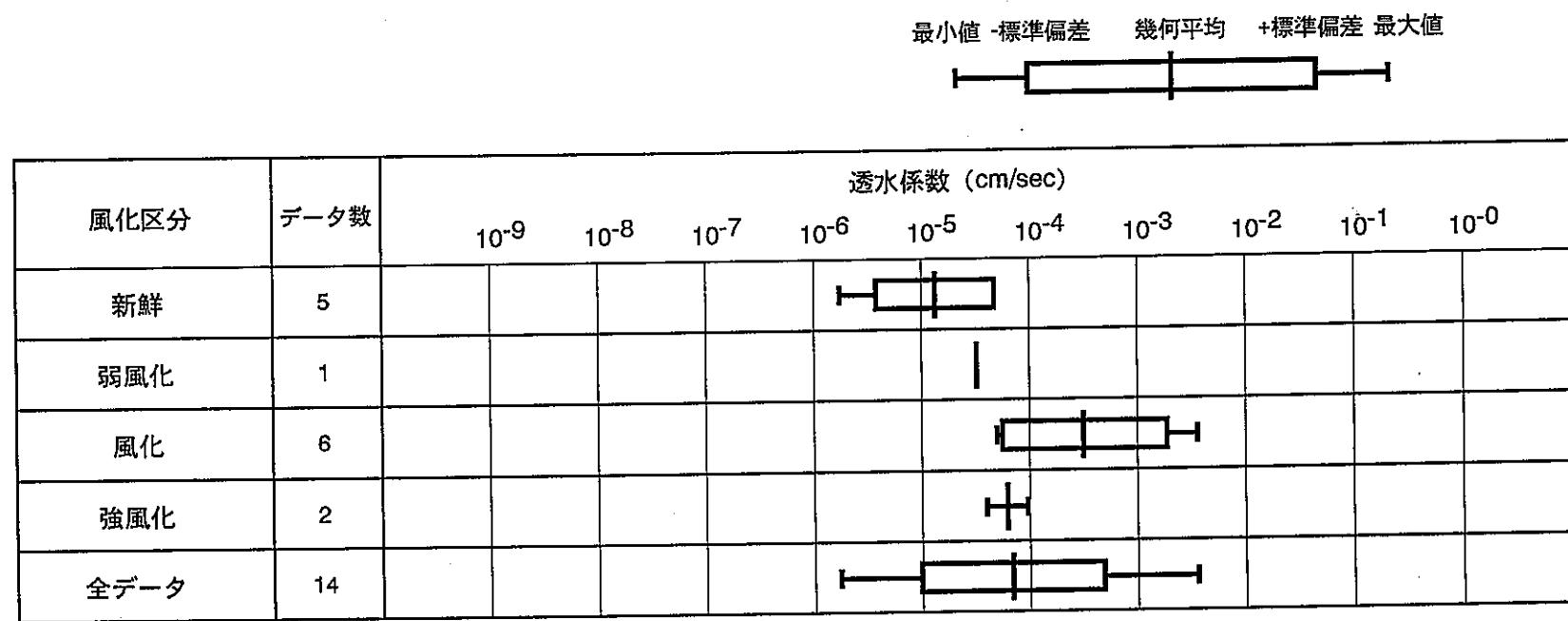


図4-8 風化区分別透水係数分布  
文献 新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

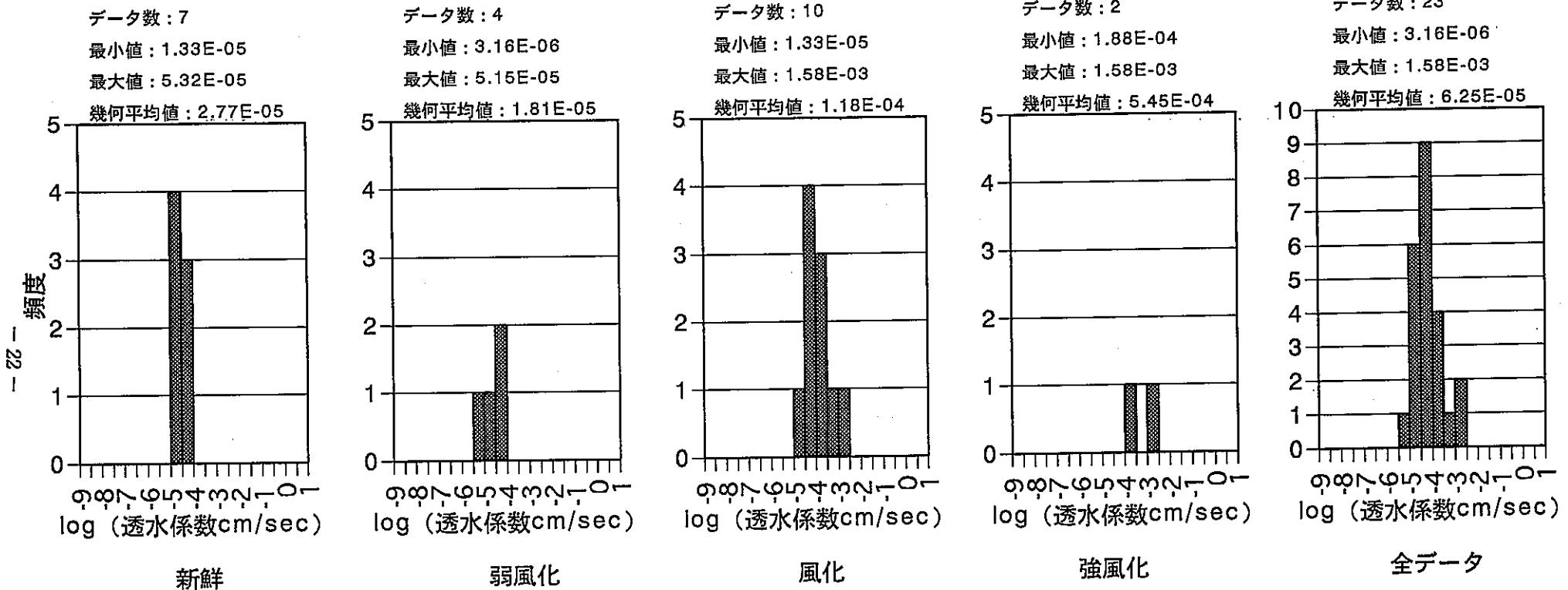


図 4-9 風化区分別透水係数ヒストグラム  
古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）

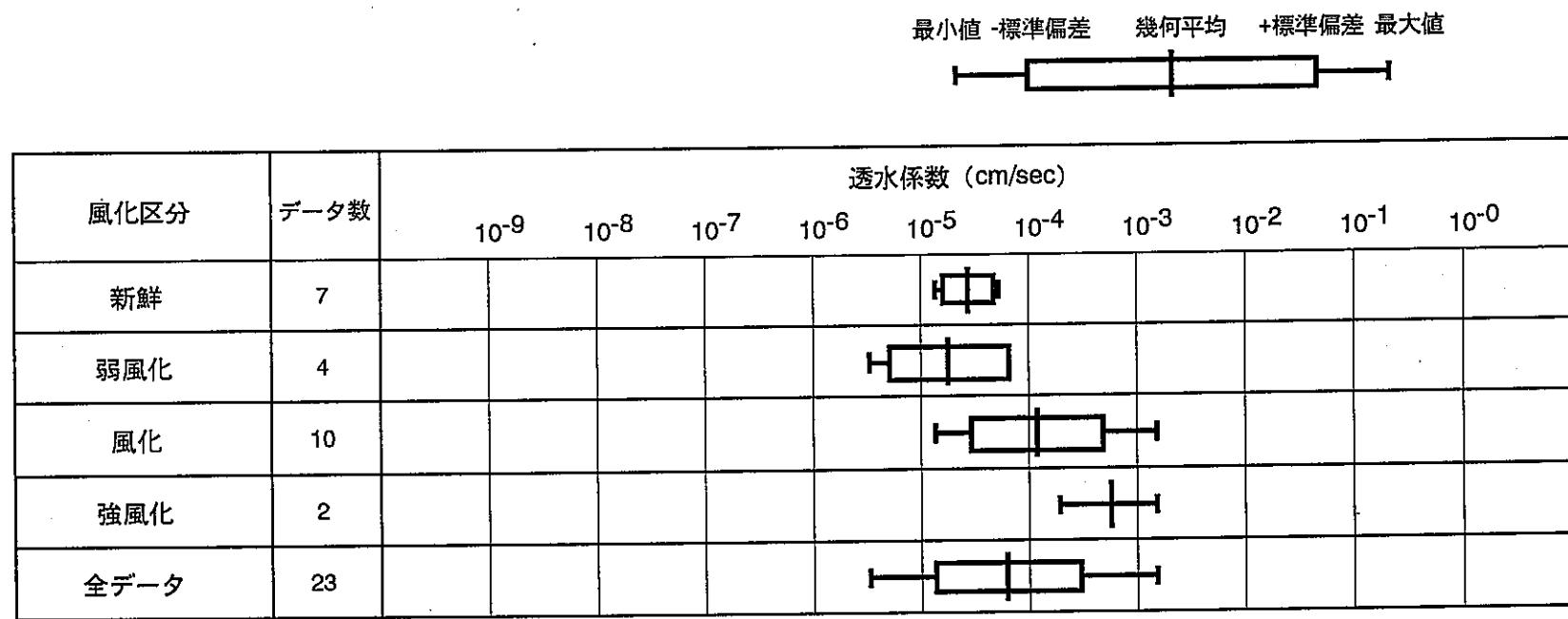
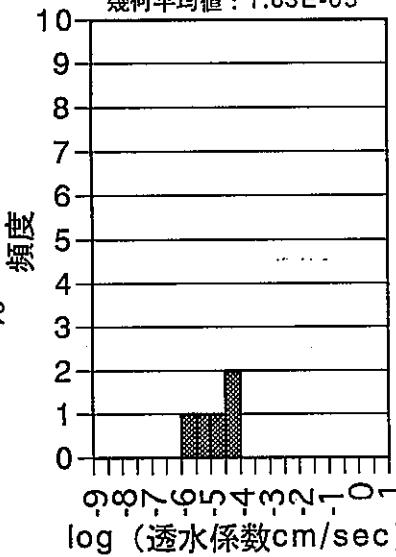


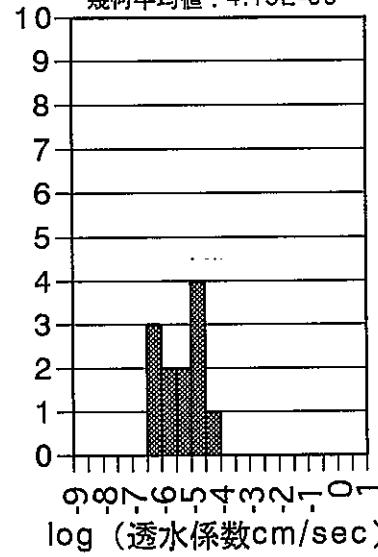
図4-10 風化区分別透水係数分布  
古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）

データ数 : 5  
最小値 : 2.79E-06  
最大値 : 6.65E-05  
幾何平均値 : 1.63E-05



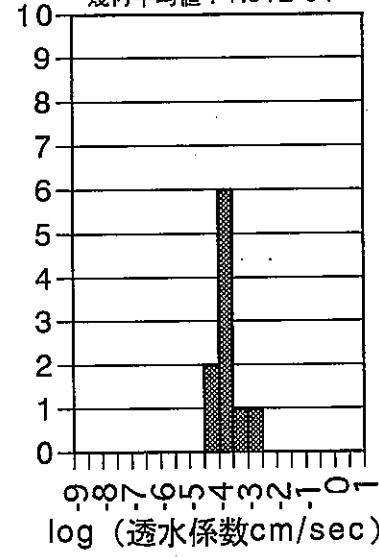
新鮮

データ数 : 12  
最小値 : 3.16E-07  
最大値 : 9.44E-05  
幾何平均値 : 4.15E-06



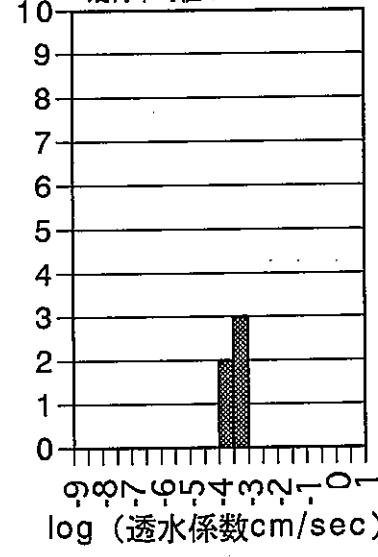
弱風化

データ数 : 10  
最小値 : 7.98E-05  
最大値 : 1.34E-03  
幾何平均値 : 1.91E-04



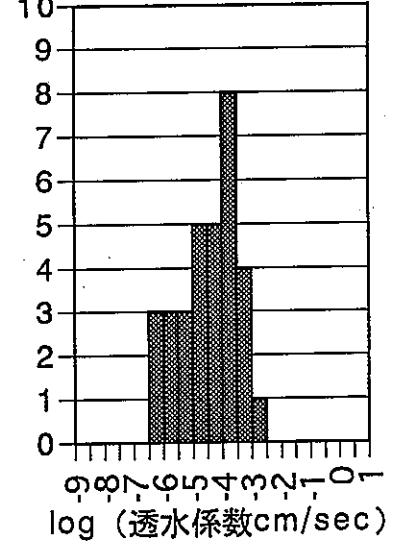
風化

データ数 : 5  
最小値 : 2.66E-04  
最大値 : 9.58E-04  
幾何平均値 : 4.57E-04



強風化

データ数 : 32  
最小値 : 3.16E-07  
最大値 : 1.34E-03  
幾何平均値 : 3.55E-05



全データ

図 4-11 風化区分別透水係数ヒストグラム  
古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

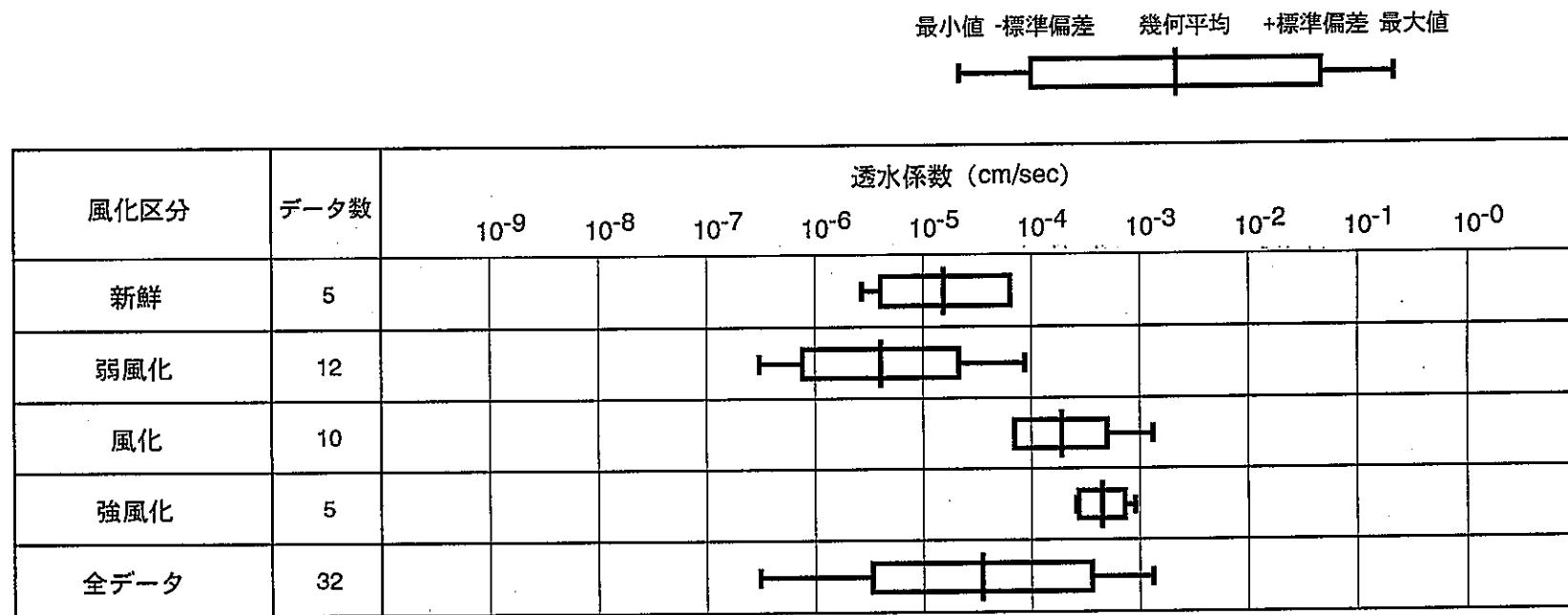


図4-12 風化区分別透水係数分布

古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

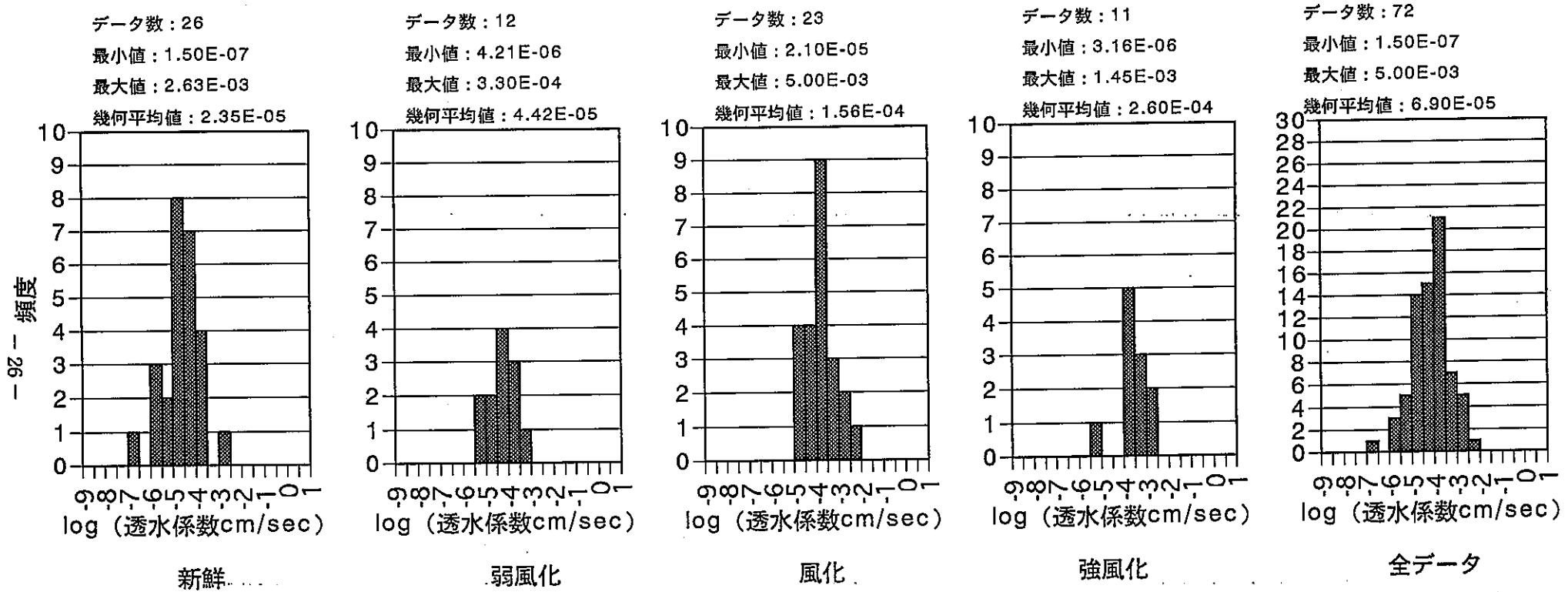


図 4-13 風化区分別透水係数ヒストグラム  
その他の岩種

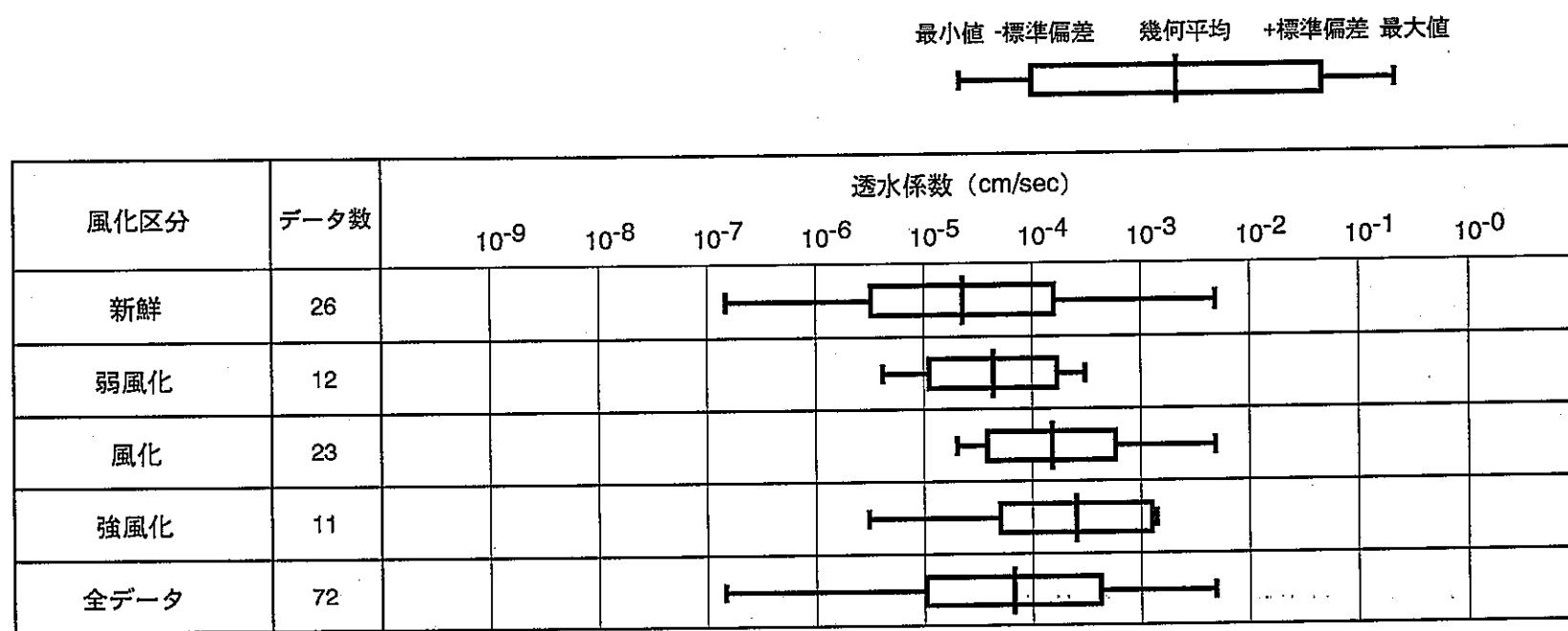


図4-14 風化区分別透水係数分布  
その他の岩種

#### 4.3. 断層破碎帯の透水係数分布

断層破碎帯の記載のあるデータは36件で、そのうちデータ数が多く解析の対象となりうるものは、結晶質岩（酸性岩）の15件のみである。結晶質岩（酸性岩）の透水係数の平均値は $5.63 \times 10^{-5}$  cm/secで、弱風化岩より高く、風化岩より低い。

また、断層粘土質部のデータと破碎質部のデータをひかくしてみても有為な差は認められない。

表4-3 破碎帯における岩種別透水係数一覧表

岩種番号	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
1 結晶質岩(酸性岩)	15	5.63E-05	3.16E-06	2.26E-03	-4.249	-5.500	-2.646	0.797
2 結晶質岩(塩基性岩)	1	6.30E-05	6.30E-05	6.30E-05	-4.201	-4.201	-4.201	
4 新第三紀以降の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	1	1.60E-04	1.60E-04	1.60E-04	-3.796	-3.796	-3.796	
5 古第三紀以前の堆積岩(砂質岩)	1	5.00E-06	5.00E-06	5.00E-06	-5.301	-5.301	-5.301	
6 古第三紀以前の堆積岩(泥質岩・凝灰質岩)	1	1.58E-03	1.58E-03	1.58E-03	-2.801	-2.801	-2.801	
99 その他の岩種	17	1.09E-04	1.00E-06	7.10E-01	-3.964	-6.000	-0.149	1.219

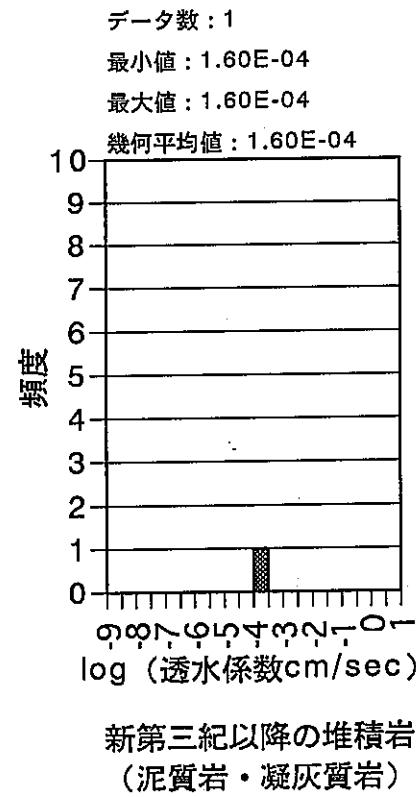
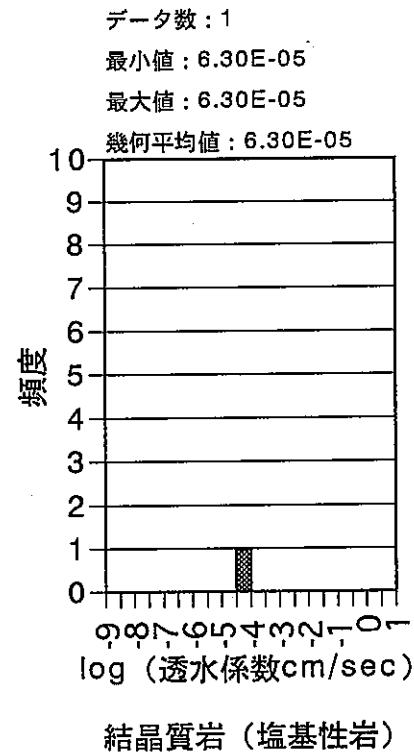
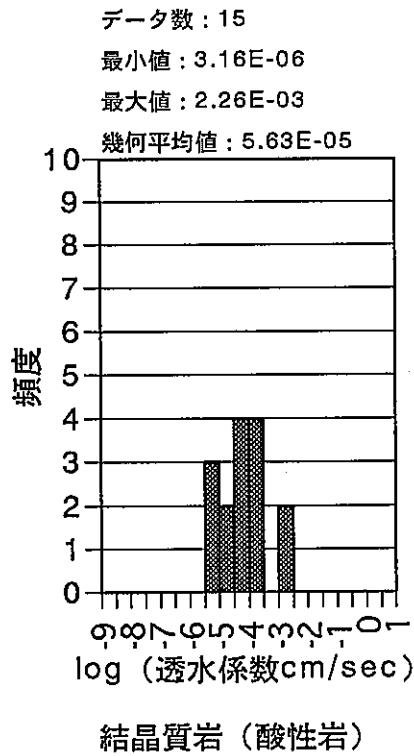


図 4-15 岩種別透水俕素ヒストグラム  
破碎帶 (その1)

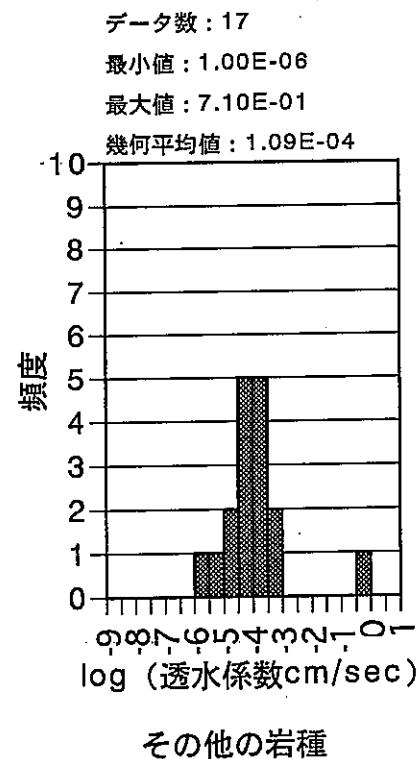
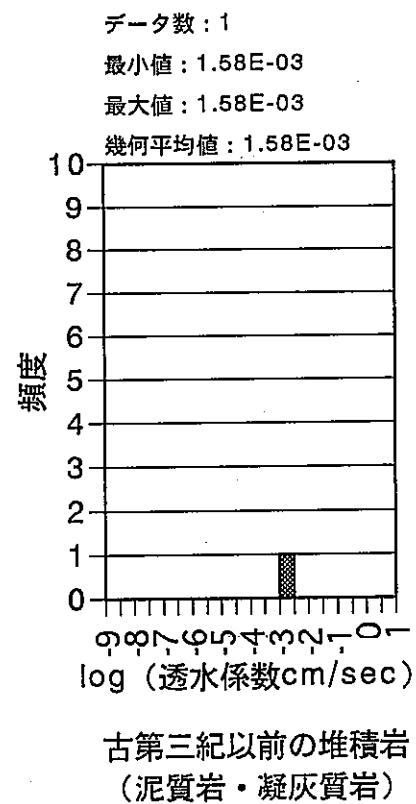
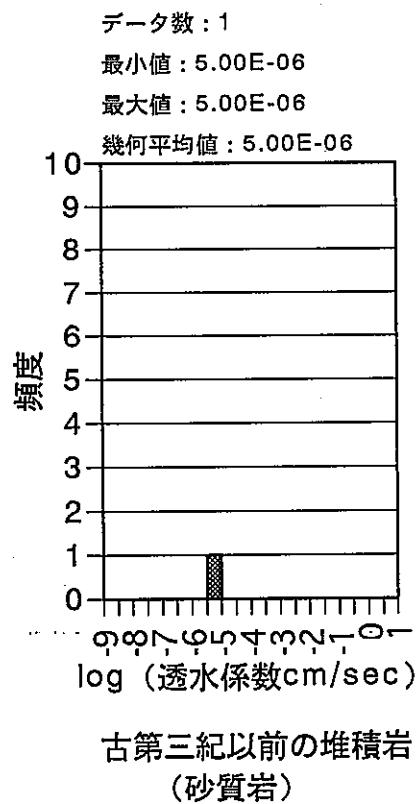


図 4-16 岩種別透水係数ヒストグラム  
破碎帶（その 2）

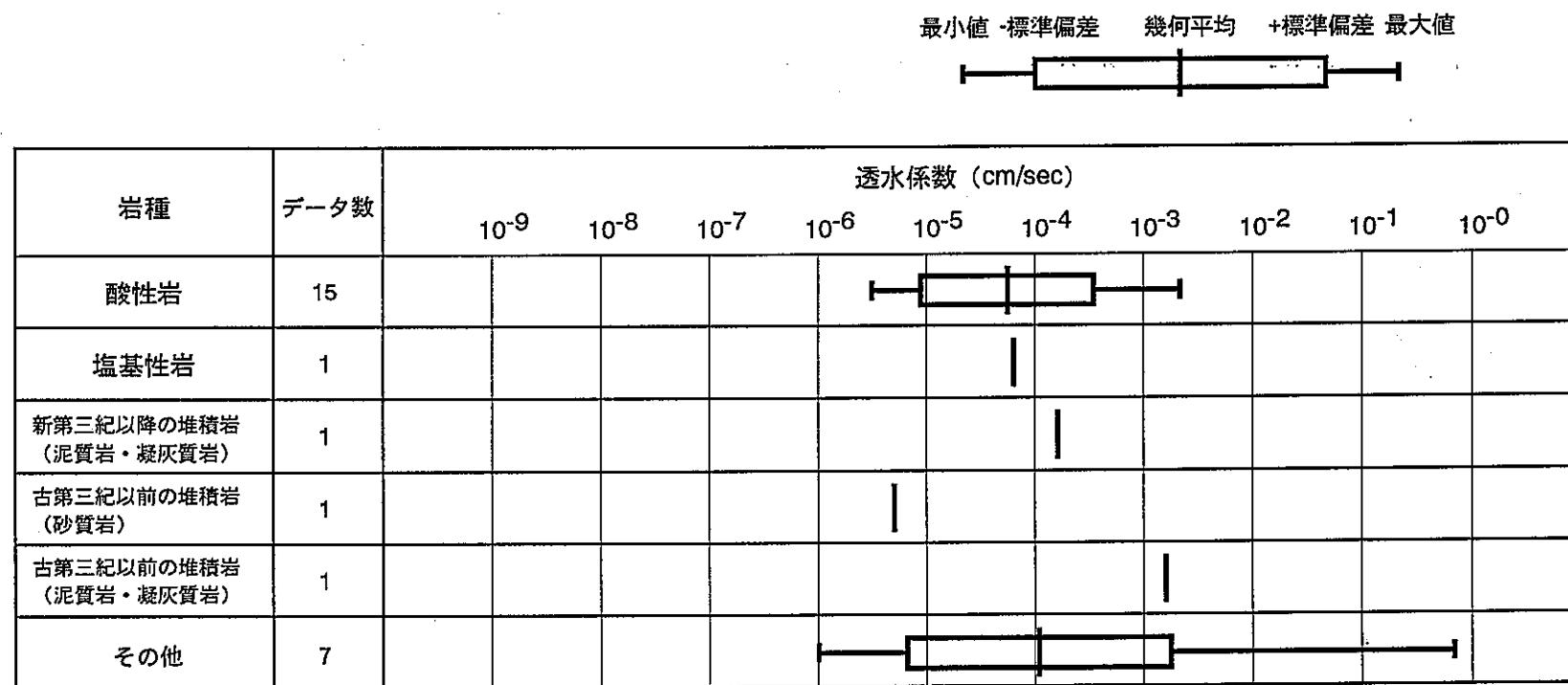


図4-17 岩種別透水係数分布  
破碎帶

表4-4(1) 破碎帯性状・透水係数一覧表(1)

番号	地層名	岩質	風化状況	その他	試験方法	岩種 番号	風化 番号	透水係数 (最小値)	透水係数 (最大値)	透水係数 (平均値)
01-202	濃飛流紋岩類	溶結凝灰岩		破碎帶	ルジオンテス	1	51			2.00E-05
01-203	濃飛流紋岩類	溶結凝灰岩		破碎帶	ルジオンテス	1	51	3.30E-05	2.60E-06	9.26E-06
01-206		粗粒花崗岩		破碎帶	定水位法	1	51	5.50E-04	9.00E-05	1.30E-04
01-207		粗粒花崗岩		破碎帶	定水位法	1	51	1.30E-04	1.10E-04	1.20E-04
04-024		花崗岩		断層破碎	ルジオン	1	51	2.66E-04	6.65E-05	1.33E-04
04-025		花崗岩		断層破碎	ルジオン	1	51	2.66E-05		2.66E-05
04-026		花崗岩		断層面	定水位	1	51			9.49E-05
07-287		流紋岩		断層破碎	現場透水試験	1	51	5.20E-03	9.80E-04	2.26E-03
07-288		流紋岩		断層破碎	現場透水試験	1	51	1.20E-03	9.80E-04	1.08E-03
18-261	濃飛流紋岩	溶結凝灰岩		断層破碎 帶(砂)	不明	1	51	1.00E-04	1.00E-05	3.16E-05
18-268	濃飛流紋岩	溶結凝灰岩		破碎帶	現場透水試験 (注水式)	1	51	1.00E-05	1.00E-06	3.16E-06
18-269	濃飛流紋岩	溶結凝灰岩		破碎帶	水押しテスト (ルジオン試 験)	1	51	2.56E-05	5.20E-07	3.65E-06
19-203		花崗岩		断層破碎 帶(真砂 土状)	不明	1	51	1.00E-04	1.00E-05	3.16E-05
18-263		玄武岩		断層破碎 帶	不明(ボーリ ング孔)	2	51		6.30E-05	6.30E-05
18-262		泥岩, 混灰岩		断層破碎 帶	不明(ボーリ ング孔)	4	51		1.60E-04	1.60E-04
07-177	水窪層	砂, 貝岩		断層		5	51			5.00E-06
07-174	丹波層群	粘板岩		破碎質	J. F. T	6	51	5.00E-03	5.00E-04	1.58E-03
03-004				断層		99	51			1.33E-05
03-012	丹波帯	古生代, 砂岩, 貝岩		破碎帶		99	51	1.33E-04	6.65E-05	9.98E-05
03-026	日南層群	断層破碎帶			ルジオン	99	51			3.33E-05
03-044	諫早層群	断層			ルジオン	99	51			1.00E-05
03-046	宮野層	チャート, 砂岩		断層下盤	ルジオン	99	51			2.00E-04
06-010		断層破碎帶				99	51			5.00E-06
09-008	琉球層群	石灰岩		断層		99	51	1.00E+00	5.00E-01	7.10E-01
13-015		断層破碎部				99	51			1.00E-06
18-267	古生層	チャート		破碎帶	ボーリング孔 内試験	99	51	1.50E-04	3.00E-05	6.71E-05
20-097	三波川変成岩	結晶片岩類		断層破碎		99	51	3.59E-04	1.33E-04	2.18E-04

表4-4(2) 破碎帶性状・透水係数一覧表(2)

番号	地層名	岩質	風化状況	その他	試験方法	岩種 番号	風化 番号	透水係数 (最小値)	透水係数 (最大値)	透水係数 (平均値)
25-365	長浜層	チャート、輝緑凝灰		(破碎)	ルジオントス	99	51	6.65E-04	6.65E-05	2.10E-04
01-205		粗粒花崗岩		破碎帶(粘土はさむ)	定水位法	1	52	5.00E-05	2.80E-05	4.20E-05
17-009	網代玄武岩類	玄武岩熔岩 凝灰角れき岩		熱水変質 粘土化		99	52			3.69E-04
17-010	湯ヶ島層	玄武岩質安山岩熔岩 凝灰岩		熱水変質 粘土化		99	52			8.72E-05
25-327	金山北層	安山岩		断層粘土	ルジオントス	99	52	1.30E-04	1.80E-04	2.00E-04
25-359	川端層	礫岩、砂岩、泥岩		破碎帶 (断層粘土)	ルジオントス	99	52	2.66E-04	2.66E-05	8.41E-05

表 4-5 破碎帶性状別透水係数分布一覧表

破碎帶性状	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
破碎質部	28	6.81E-05	1.00E-06	7.10E-01	-4.167	-6.000	-0.149	0.791
断層粘土	5	1.18E-04	4.20E-05	3.69E-04	-3.929	-4.377	-3.433	0.290

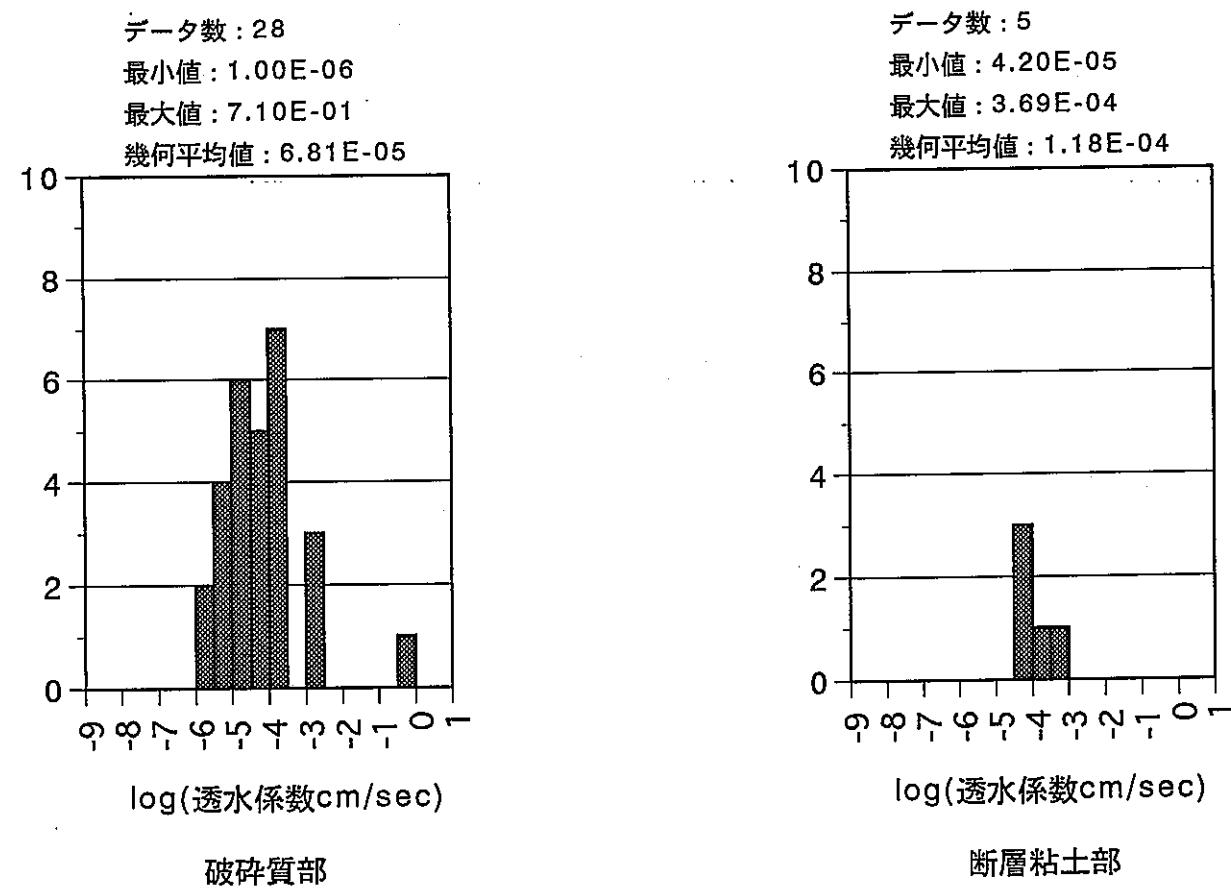


図4-18 破碎性状別透水係数ヒストグラム

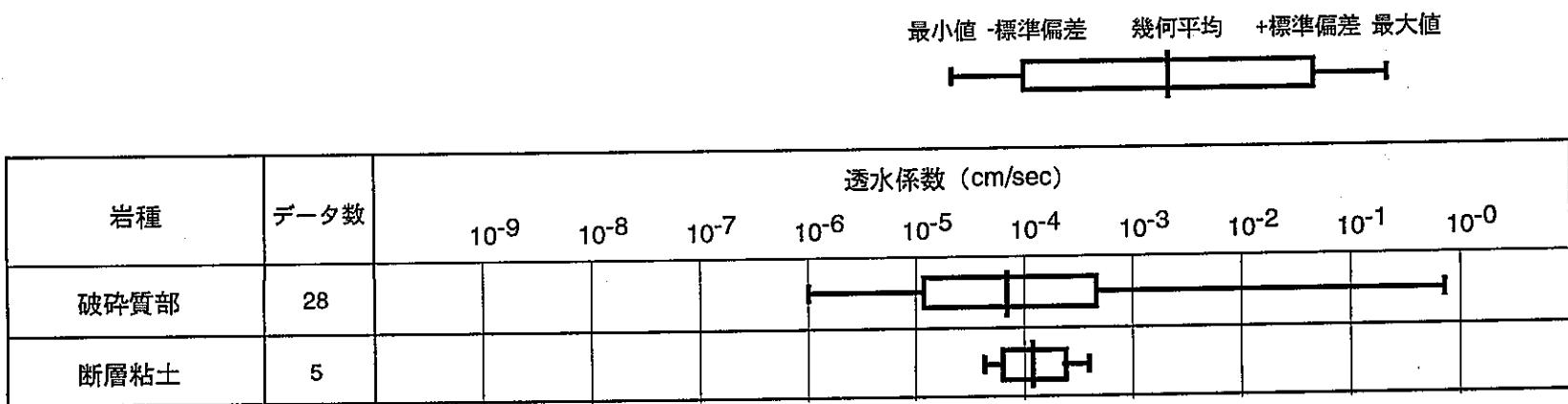


図4-19 破碎性状別透水係数分布

## 5. 東濃地区データベースによる透水性の検討

### 5.1. 解析データの概要

解析データの概要を表5-1に示す。

表5-1 岩種区分別解析データ数

	新鮮	弱風化	風化	強風化	計
花崗岩	7	11	5	3	26
砂質岩	11	23	11	2	47
泥質岩	5	0	2	0	7
その他の岩種	0	4	2	0	6

### 5.2. 東濃地区風化状態毎の透水係数分布

#### (1)花崗岩

対象データの数は26件である。新鮮岩の透水係数の平均値は $5.87 \times 10^{-7}$ cm/secでデータのばらつきを示す対数標準偏差は0.52である。弱風化岩の透水係数の平均値は $2.34 \times 10^{-6}$ cm/secでデータのばらつきを示す対数標準偏差は1.00であり、データのばらつきは新鮮岩の倍程度ある。これをヒストグラムで検討すると $10^{-7}$ cm/secオーダーと $10^{-5}$ cm/secオーダーの2つのピークがみられる。風化岩の透水係数の平均値は $3.50 \times 10^{-7}$ cm/secで新鮮岩より低くなっている。

#### (2)砂質岩

対象データの数は47件である。新鮮岩の透水係数の平均値は $8.77 \times 10^{-8}$ cm/secでデータのばらつきを示す対数標準偏差は0.86である。弱風化岩の透水係数の平均値は $8.02 \times 10^{-7}$ cm/secでデータのばらつきを示す対数標準偏差は0.85である。風化岩の透水係数の平均値は $1.10 \times 10^{-6}$ cm/secでデータのばらつきを示す対数標準偏差は1.07である。これらのことから砂質岩の場合は風化の程度が進むほど透水係数が高くなると判断される。

#### (3)泥質岩

対象データの数が少なく統計解析は難しい。透水係数は $10^{-7}$ cm/sec～ $10^{-6}$ cm/secオーダーである。

表5-2 岩種・風化区分別透水係数一覧表

岩種番号	風化状況	データの数	幾可平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
1 花崗岩	全データ	26	1.03E-06	5.15E-08	3.63E-05	-5.9859	-7.2882	-4.4401	0.8329
1 花崗岩	$\beta$ 新鮮	7	5.87E-07	8.05E-08	2.07E-06	-6.2313	-7.0942	-5.6840	0.5164
1 花崗岩	$\gamma$ 弱風化	11	2.34E-06	2.09E-07	3.63E-05	-5.6314	-6.6799	-4.4401	1.0041
1 花崗岩	$\delta$ 風化	5	3.50E-07	5.15E-08	3.76E-06	-6.4557	-7.2882	-5.4248	0.8023
1 花崗岩	$\varepsilon$ 強風化	3	1.17E-06	5.46E-07	1.84E-06	-5.9304	-6.2628	-5.7352	0.2893
3 砂質岩	全データ	47	5.31E-07	1.02E-08	3.30E-05	-6.2748	-7.9914	-4.4815	0.9776
3 新第三紀以降の砂質岩	$\beta$ 新鮮	11	8.77E-08	1.02E-08	1.94E-05	-7.0568	-7.9914	-4.7122	0.8636
3 新第三紀以降の砂質岩	$\gamma$ 弱風化	23	8.02E-07	3.87E-08	1.74E-05	-6.0959	-7.4123	-4.7595	0.8518
3 新第三紀以降の砂質岩	$\delta$ 風化	11	1.10E-06	2.08E-08	3.30E-05	-5.9579	-7.6819	-4.4815	1.0711
3 新第三紀以降の砂質岩	$\varepsilon$ 強風化	2	1.68E-06	1.64E-06	1.73E-06	-5.7736	-5.7852	-5.7620	0.0164
4 新第三紀以降の泥質岩	全データ	7	6.94E-08	8.24E-09	1.35E-06	-7.1585	-8.0841	-5.8697	0.6783
4 新第三紀以降の泥質岩	$\beta$ 新鮮	5	7.05E-08	8.24E-09	1.35E-06	-7.1516	-8.0841	-5.8697	0.7994
4 新第三紀以降の泥質岩	$\delta$ 風化	2	6.67E-08	3.20E-08	1.39E-07	-7.1759	-7.4949	-6.8570	0.4510
99 その他の岩種	全データ	6	7.61E-08	2.11E-08	7.06E-07	-7.1185	-7.6757	-6.1512	0.5518
99 その他の岩種	$\gamma$ 弱風化	4	1.26E-07	3.44E-08	7.06E-07	-6.8983	-7.4634	-6.1512	0.5516
99 その他の岩種	$\delta$ 風化	2	2.76E-08	2.11E-08	3.61E-08	-7.5591	-7.6757	-7.4425	0.1649

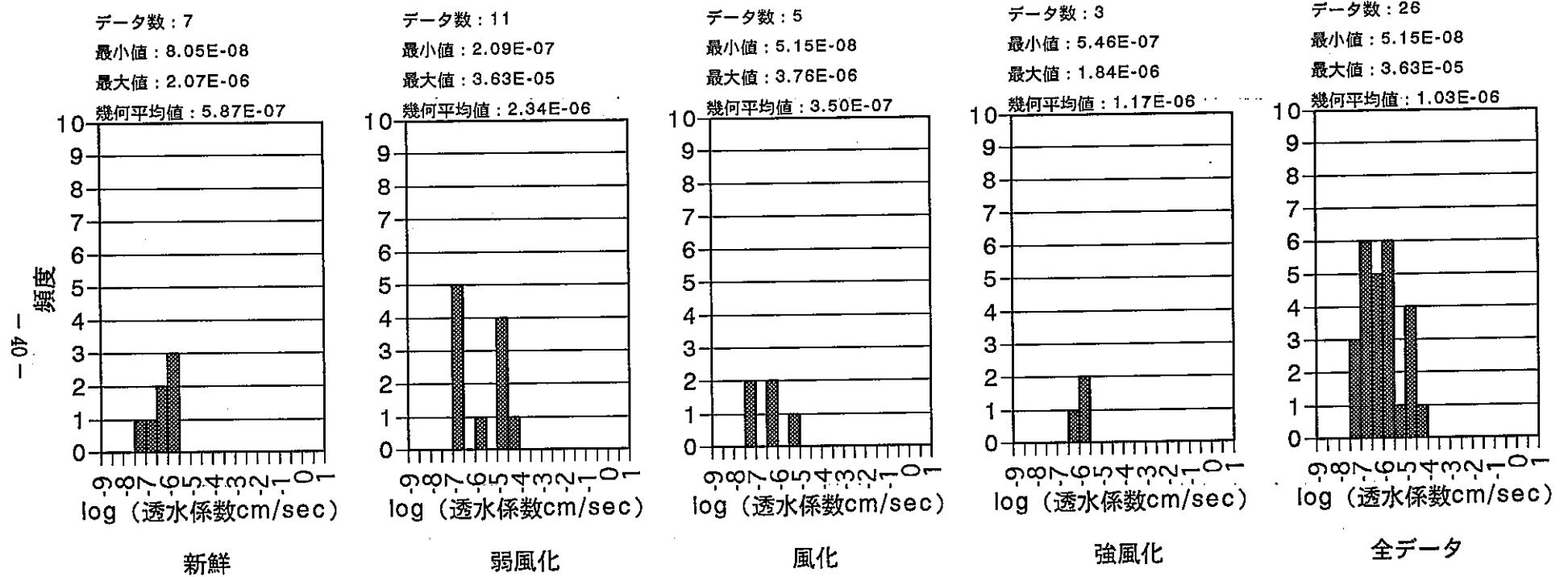


図 5-1 風化区別透水係数ヒストグラム  
花崗岩

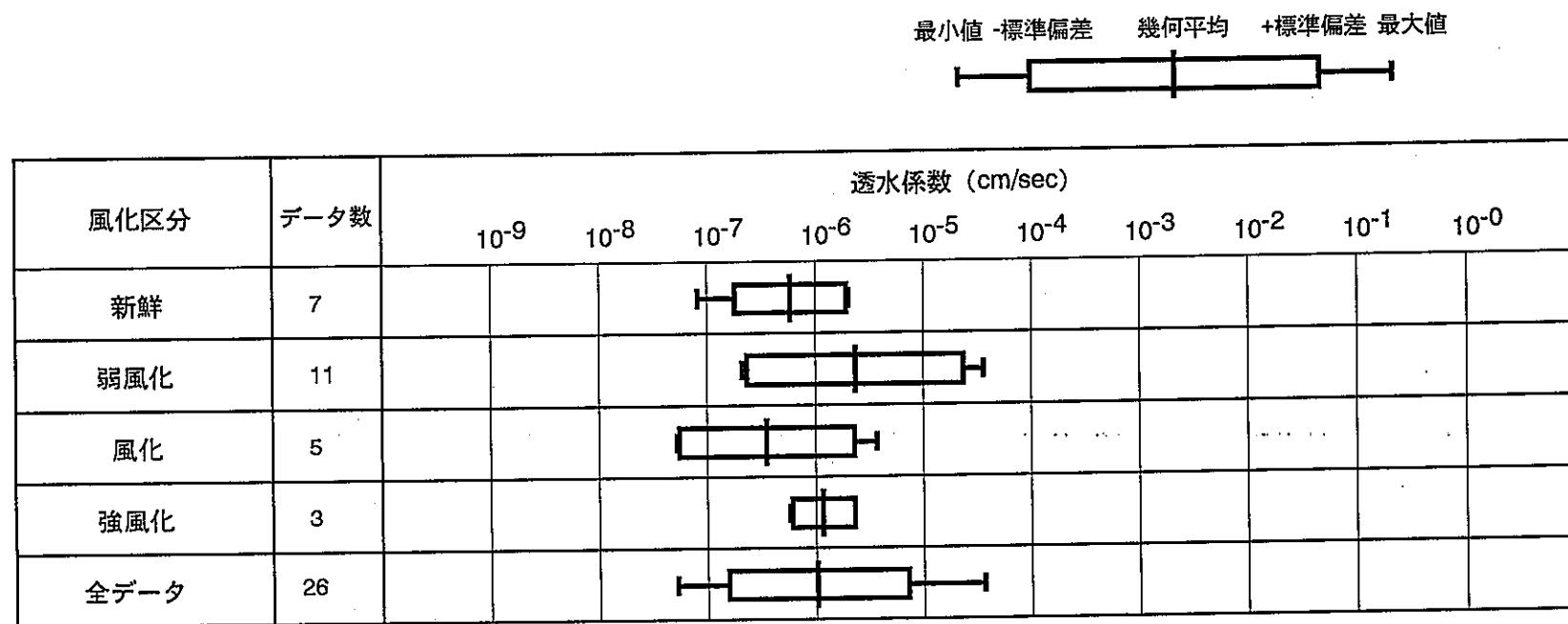
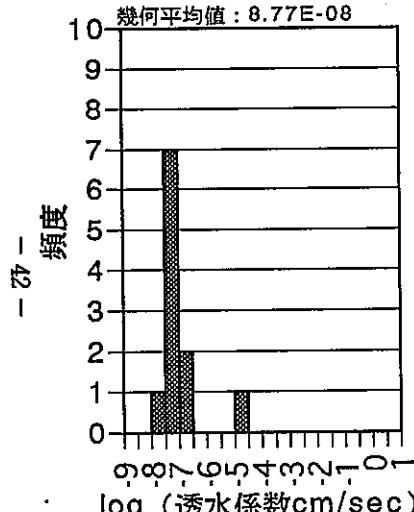


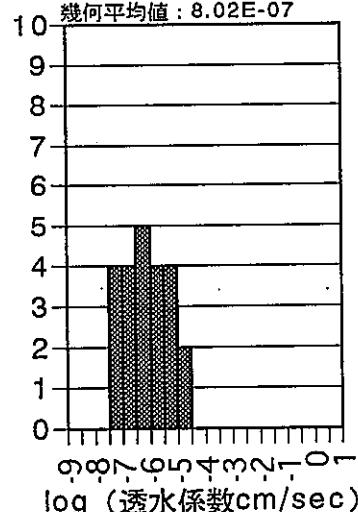
図5-2 風化区分別透水係数分布  
花崗岩

データ数 : 11  
最小値 : 1.02E-08  
最大値 : 1.94E-05  
幾何平均値 : 8.77E-08



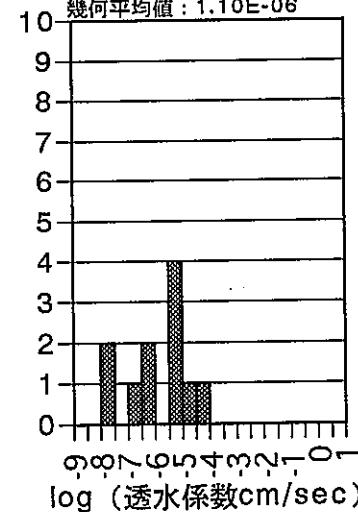
新鮮

データ数 : 23  
最小値 : 3.87E-08  
最大値 : 1.74E-05  
幾何平均値 : 8.02E-07



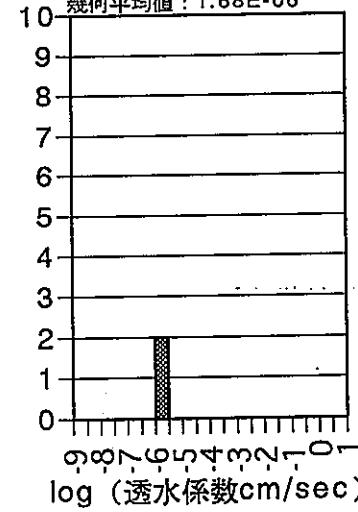
弱風化

データ数 : 11  
最小値 : 2.08E-08  
最大値 : 3.30E-05  
幾何平均値 : 1.10E-06



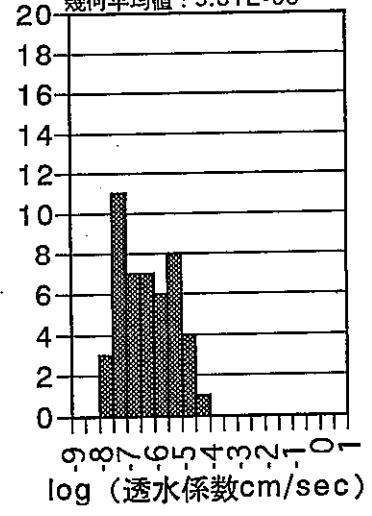
風化

データ数 : 2  
最小値 : 1.64E-06  
最大値 : 1.73E-06  
幾何平均値 : 1.68E-06



強風化

データ数 : 47  
最小値 : 1.02E-08  
最大値 : 3.30E-05  
幾何平均値 : 5.31E-08



全データ

図 5-3 風化区分別透水係数ヒストグラム  
新第三紀以降の砂質岩

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値



風化区分	データ数	透水係数 (cm/sec)									
		10 <sup>-9</sup>	10 <sup>-8</sup>	10 <sup>-7</sup>	10 <sup>-6</sup>	10 <sup>-5</sup>	10 <sup>-4</sup>	10 <sup>-3</sup>	10 <sup>-2</sup>	10 <sup>-1</sup>	10 <sup>0</sup>
新鮮	11			■	■	■	■				
弱風化	23			■	■	■	■				
風化	11			■	■	■	■				
強風化	2					■					
全データ	47			■	■	■	■				

図5-4 風化区分別透水係数分布

新第三紀以降の砂質岩

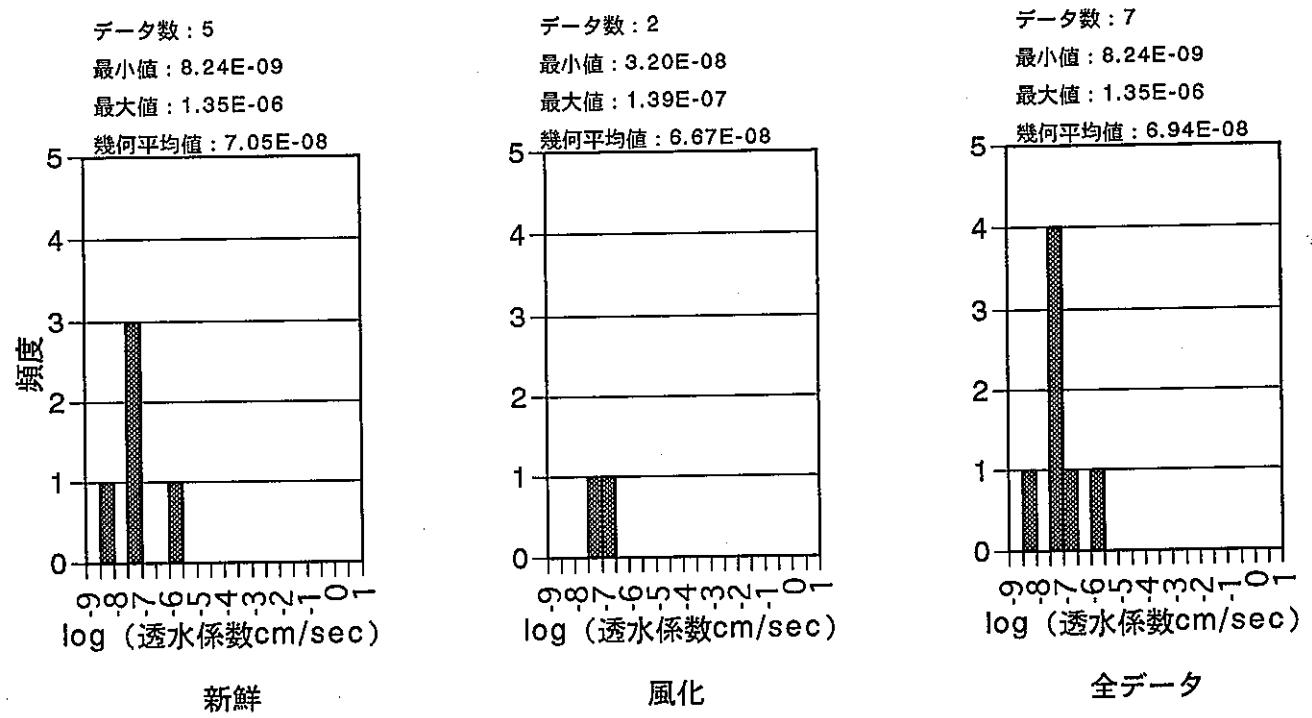


図 5-5 風化区分別透水係数ヒストグラム  
新第三紀以降の泥質岩

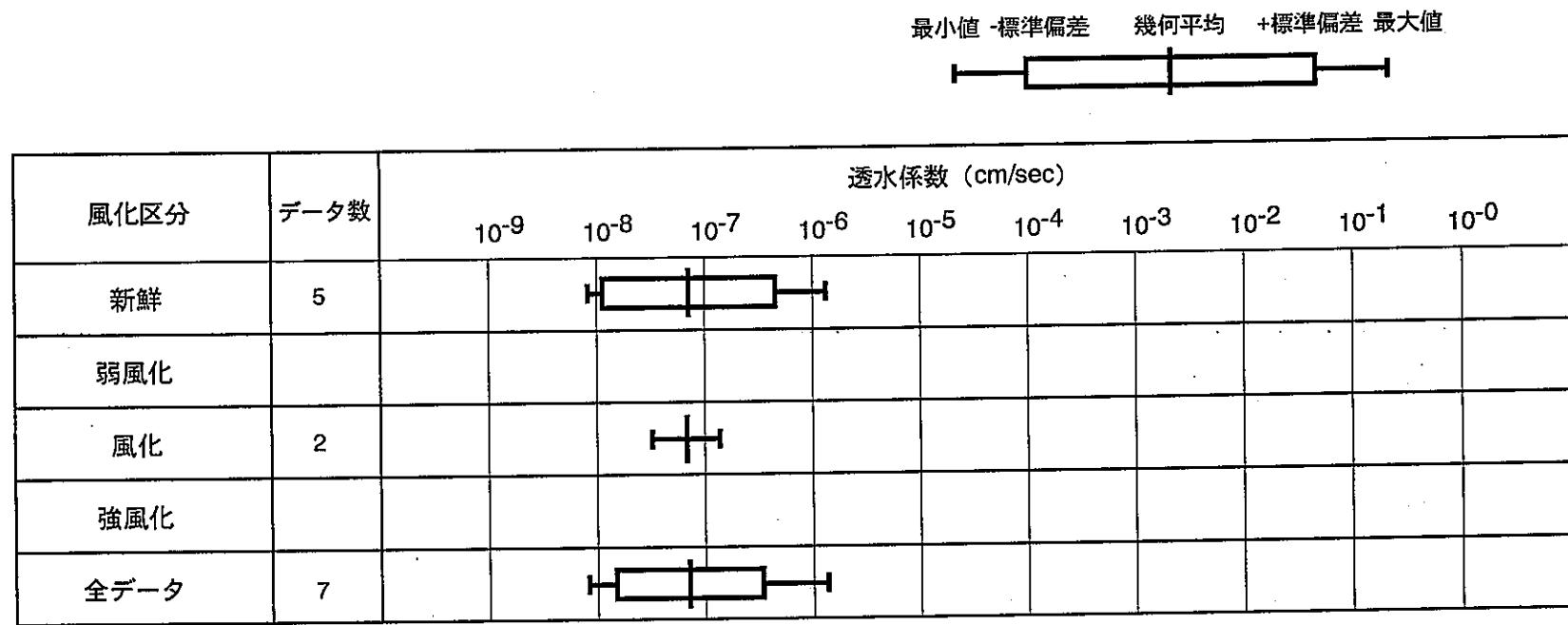


図5-6 風化区別透水係数分布  
新第三紀以降の泥質岩

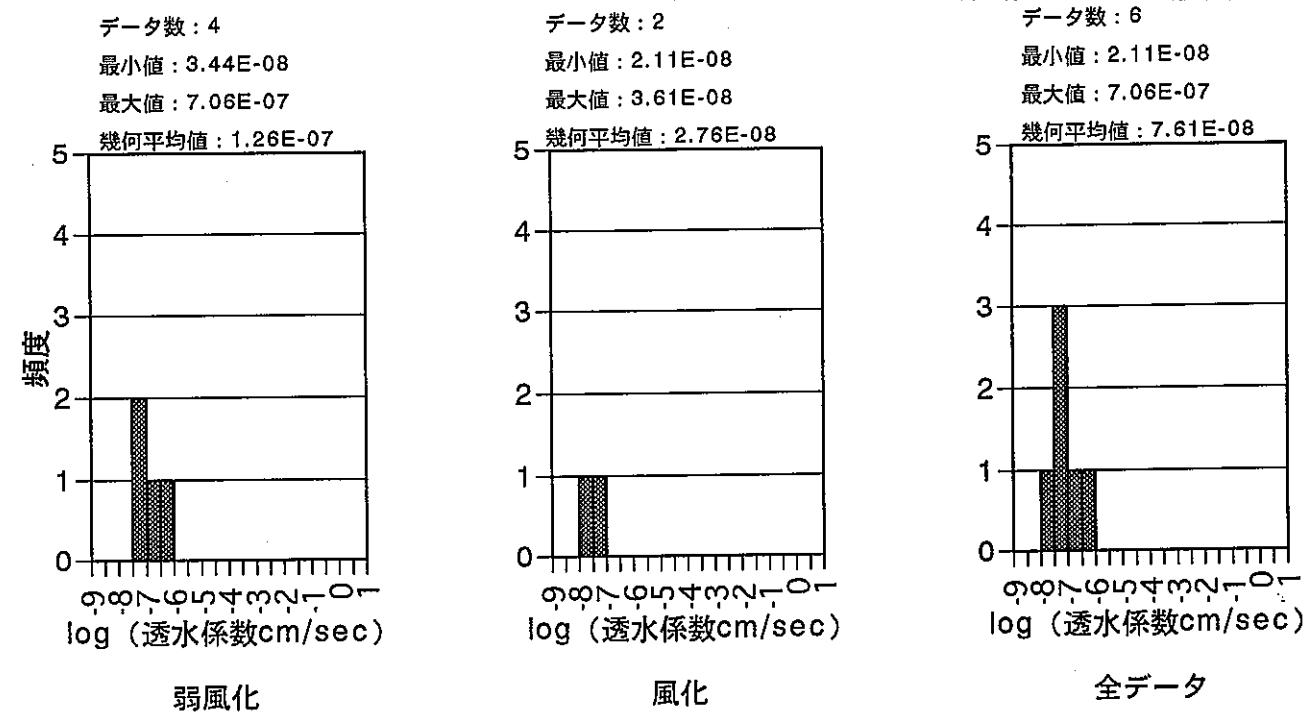


図 5-7 風化区分別透水係数ヒストグラム  
その他の岩種

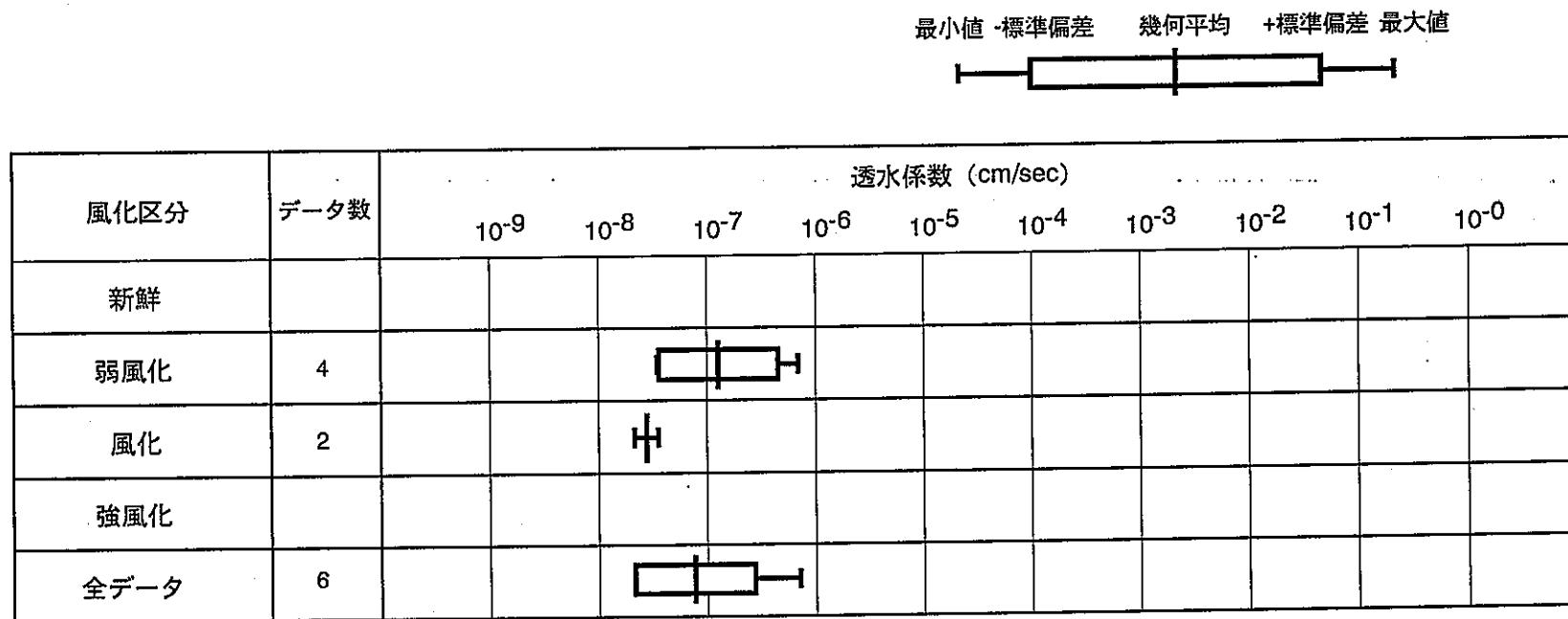


図5-8 風化区別透水係数分布  
その他の岩種

### 5.3. 龜裂状態の違いによる透水係数分布

#### (1)花崗岩

対象データの数は90件である。健全部の透水係数の平均値は $1.34 \times 10^{-6}$ cm/sec、  
亀裂部の透水係数の平均値は $2.20 \times 10^{-6}$ cm/secで差は認められない。

#### (2)砂質岩

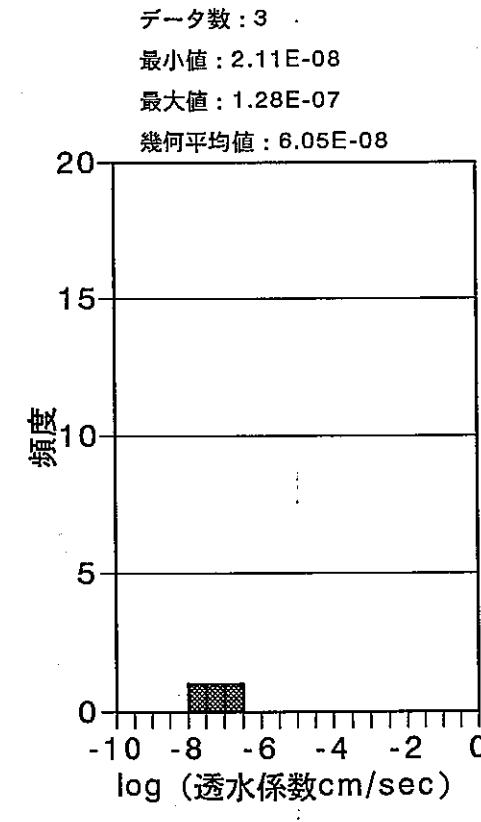
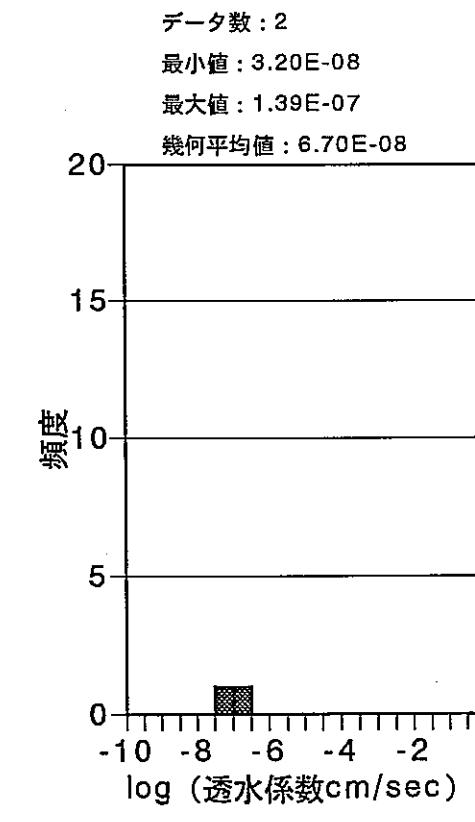
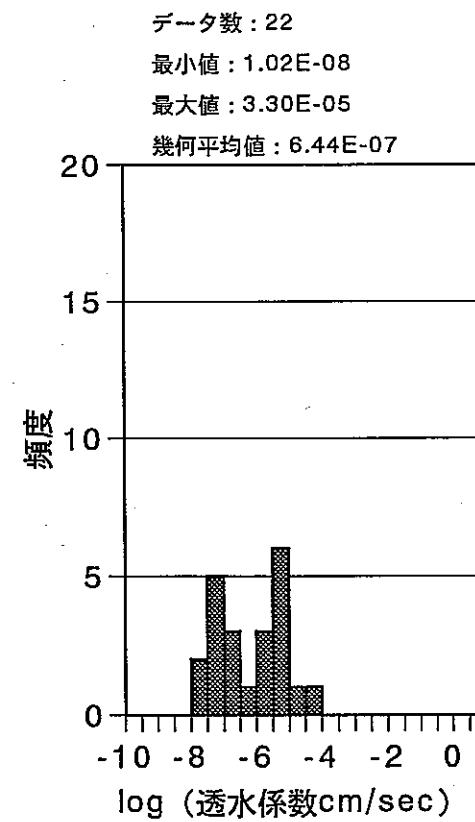
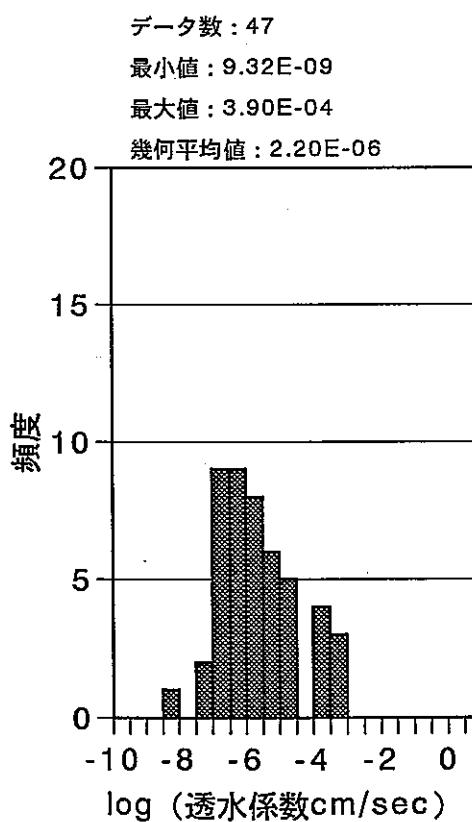
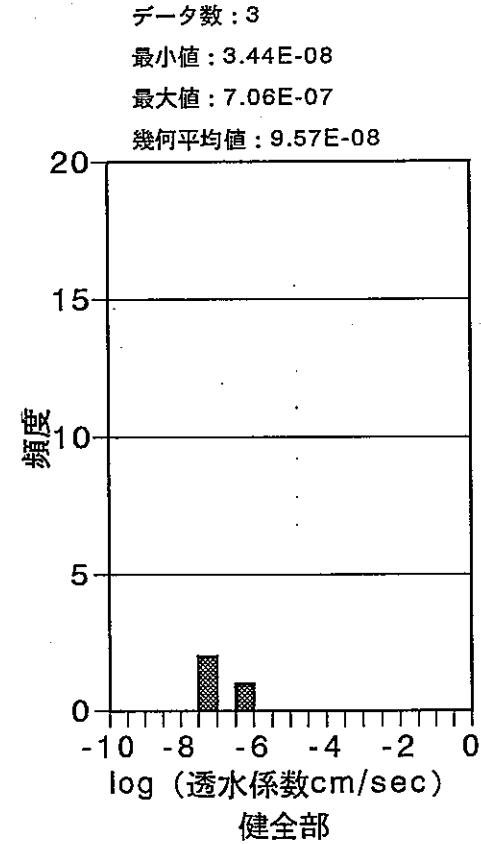
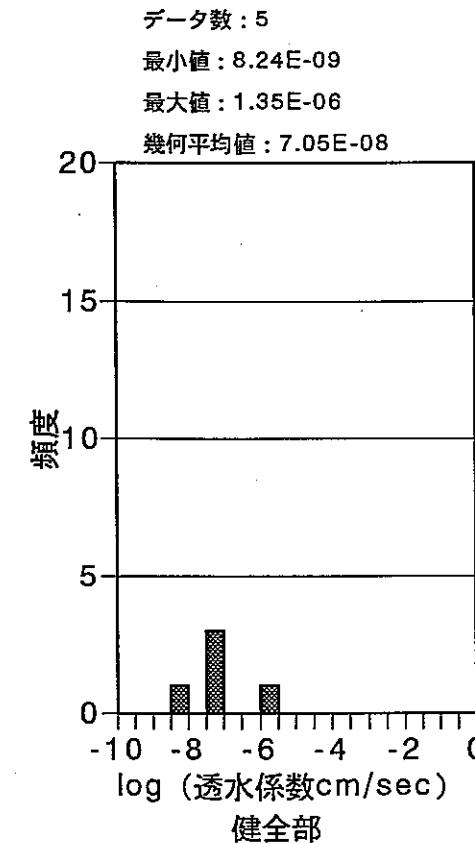
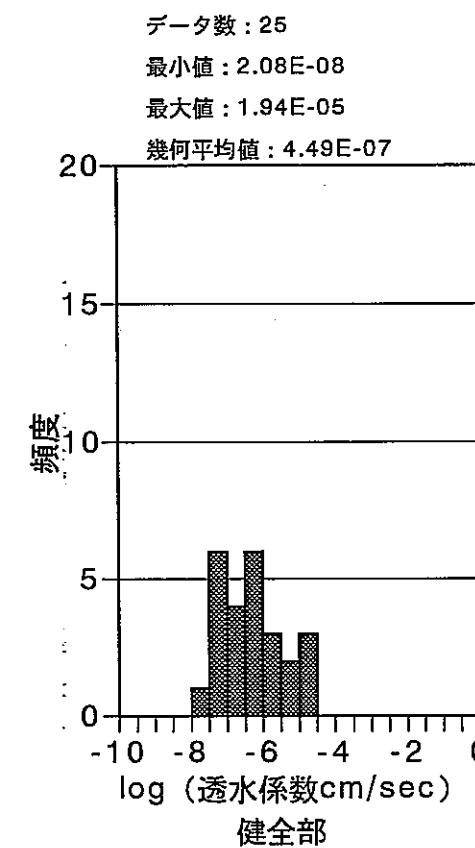
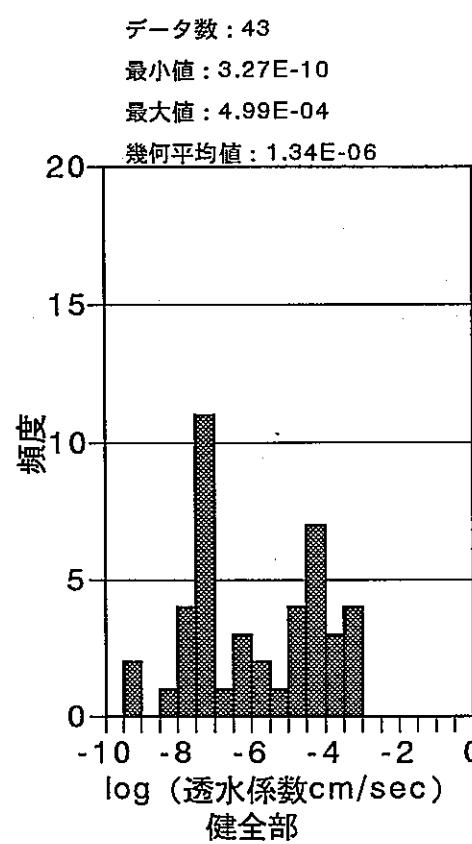
対象データの数は47件である。健全部の透水係数の平均値は $4.49 \times 10^{-7}$ cm/sec、  
亀裂部の透水係数の平均値は $6.44 \times 10^{-7}$ cm/secで差は認められない。

#### (3)泥質岩

対象データの数は7件である。健全部の透水係数の平均値は $7.05 \times 10^{-8}$ cm/sec、  
亀裂部の透水係数の平均値は $6.70 \times 10^{-8}$ cm/secで差は認められない。

表5-3 岩種・風化区分別透水係数一覧表

岩種番号		データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差	
1	花崗岩	健全部	43	1.34E-06	3.27E-10	4.99E-04	-5.872	-9.485	-3.302	1.714
1	花崗岩	亀裂部	47	2.20E-06	9.32E-09	3.90E-04	-5.659	-8.031	-3.409	1.131
3	新第三紀以降の砂質岩	健全部	25	4.48E-07	2.08E-08	1.94E-05	-6.348	-7.682	-4.712	0.878
3	新第三紀以降の砂質岩	亀裂部	22	6.44E-07	1.02E-08	3.30E-05	-6.191	-7.991	-4.481	1.095
4	新第三紀以降の泥質岩	健全部	5	7.05E-08	8.24E-09	1.35E-06	-7.152	-8.084	-5.870	0.799
4	新第三紀以降の泥質岩	亀裂部	2	6.67E-08	3.20E-08	1.39E-07	-7.176	-7.495	-6.857	0.451
99	その他の岩種	健全部	3	9.57E-08	3.44E-08	7.06E-07	-7.019	-7.463	-6.151	0.752
99	その他の岩種	亀裂部	3	6.05E-08	2.11E-08	1.28E-07	-7.218	-7.676	-6.893	0.408



花崗岩

新第三紀以降の砂質岩

新第三紀以降の泥質岩

その他の岩種

図5-9 龜裂状態別透水係数ヒストグラム

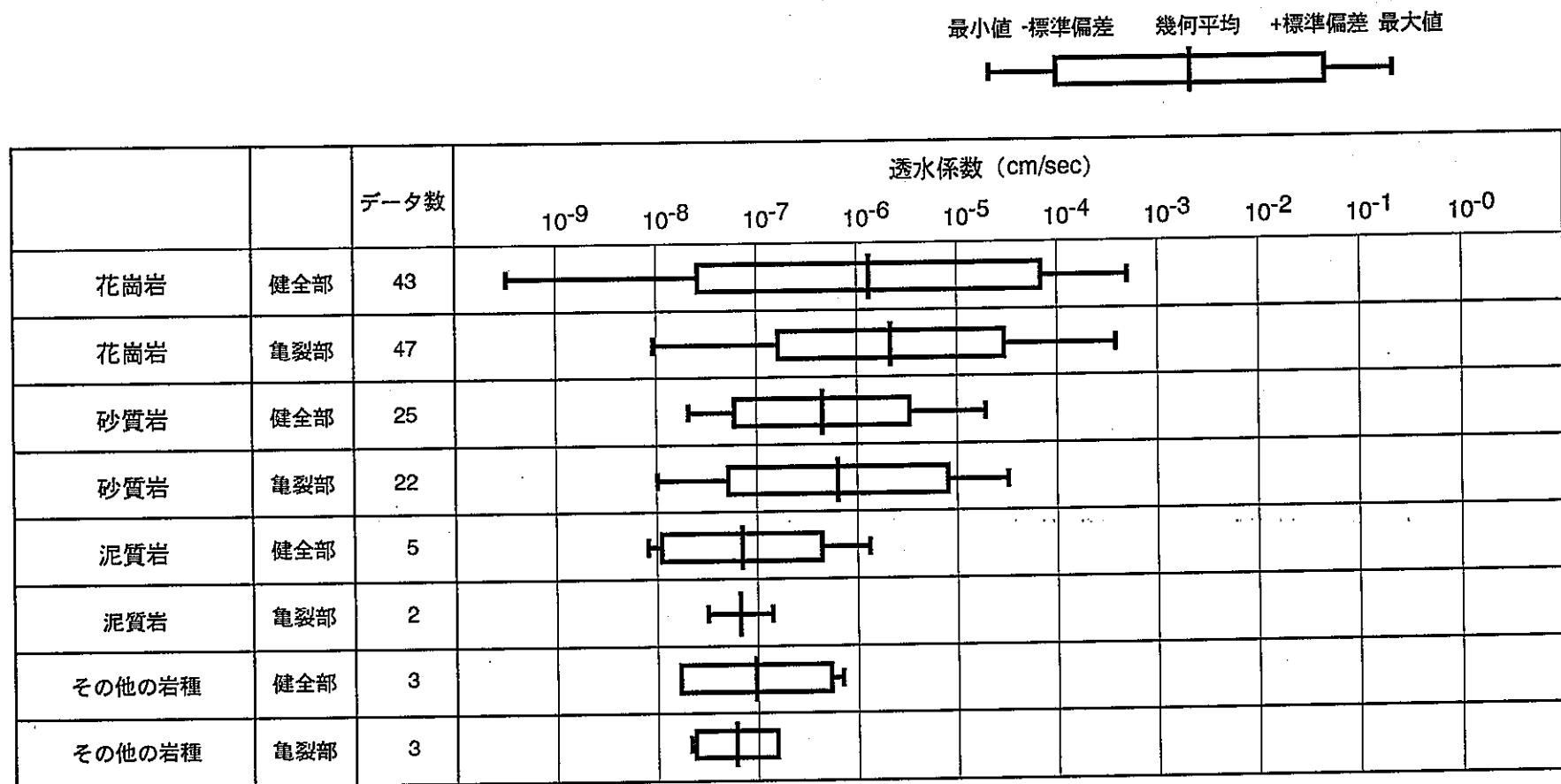


図5-10 岩種・風化区分別透水係数分布

表5-4 東濃地区風化・亀裂状態別透水係数分布一覧表

岩種番号	風化状況	RQD	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
1 花崗岩			60	1.78E-06	5.70E-09	2.10E-03	-5.750	-8.244	-2.678	1.448
1 花崗岩		1 健全部	39	1.43E-06	3.27E-10	4.99E-04	-5.843	-9.485	-3.302	1.758
1 花崗岩		2 亀裂部	25	4.00E-06	9.32E-09	3.90E-04	-5.398	-8.031	-3.409	1.348
1 花崗岩	$\beta$ 新鮮	2 亀裂部	7	5.87E-07	8.05E-08	2.07E-06	-6.231	-7.094	-5.684	0.516
1 花崗岩	$\gamma$ 弱風化	1 健全部	2	9.02E-06	2.24E-06	3.63E-05	-5.045	-5.650	-4.440	0.855
1 花崗岩	$\gamma$ 弱風化	2 亀裂部	9	1.73E-06	2.09E-07	3.01E-05	-5.762	-6.680	-4.521	1.031
1 花崗岩	$\delta$ 風化	1 健全部	2	5.41E-08	5.15E-08	5.69E-08	-7.267	-7.288	-7.245	0.031
1 花崗岩	$\delta$ 風化	2 亀裂部	3	1.22E-06	5.44E-07	3.76E-06	-5.915	-6.264	-5.425	0.437
1 花崗岩	$\epsilon$ 強風化	2 亀裂部	3	1.17E-06	5.46E-07	1.84E-06	-5.930	-6.263	-5.735	0.289
3 新第三紀以降の砂質岩			60	1.13E-06	3.10E-09	1.20E-03	-5.948	-8.509	-2.921	1.146
3 新第三紀以降の砂質岩	$\beta$ 新鮮	1 健全部	7	1.30E-07	3.24E-08	1.94E-05	-6.885	-7.489	-4.712	0.987
3 新第三紀以降の砂質岩	$\beta$ 新鮮	2 亀裂部	4	4.39E-08	1.02E-08	2.73E-07	-7.358	-7.991	-6.564	0.590
3 新第三紀以降の砂質岩	$\gamma$ 弱風化	1 健全部	11	7.68E-07	8.18E-08	1.74E-05	-6.115	-7.087	-4.759	0.750
3 新第三紀以降の砂質岩	$\gamma$ 弱風化	2 亀裂部	12	8.34E-07	3.87E-08	9.38E-06	-6.079	-7.412	-5.028	0.969
3 新第三紀以降の砂質岩	$\delta$ 風化	1 健全部	5	4.56E-07	2.08E-08	4.17E-06	-6.341	-7.682	-5.380	0.969
3 新第三紀以降の砂質岩	$\delta$ 風化	2 亀裂部	6	2.30E-06	2.49E-08	3.30E-05	-5.639	-7.604	-4.481	1.129
3 新第三紀以降の砂質岩	$\epsilon$ 強風化	1 健全部	2	1.68E-06	1.64E-06	1.73E-06	-5.774	-5.785	-5.762	0.016
4 新第三紀以降の泥質岩			6	1.32E-08	4.40E-10	1.13E-07	-7.880	-9.357	-6.947	0.933
4 新第三紀以降の泥質岩	$\beta$ 新鮮	1 健全部	5	7.05E-08	8.24E-09	1.35E-06	-7.152	-8.084	-5.870	0.799
4 新第三紀以降の泥質岩	$\delta$ 風化	2 亀裂部	2	6.67E-08	3.20E-08	1.39E-07	-7.176	-7.495	-6.857	0.451
99 その他の岩種			15	1.24E-05	1.63E-07	5.30E-04	-4.906	-6.788	-3.276	0.864
99 その他の岩種	$\gamma$ 弱風化	1 健全部	2	1.56E-07	3.44E-08	7.06E-07	-6.807	-7.463	-6.151	0.928
99 その他の岩種	$\gamma$ 弱風化	2 亀裂部	2	1.03E-07	8.21E-08	1.28E-07	-6.989	-7.086	-6.893	0.136
99 その他の岩種	$\delta$ 風化	1 健全部	1	3.61E-08	3.61E-08	3.61E-08	-7.442	-7.442	-7.442	
99 その他の岩種	$\delta$ 風化	2 亀裂部	1	2.11E-08	2.11E-08	2.11E-08	-7.676	-7.676	-7.676	

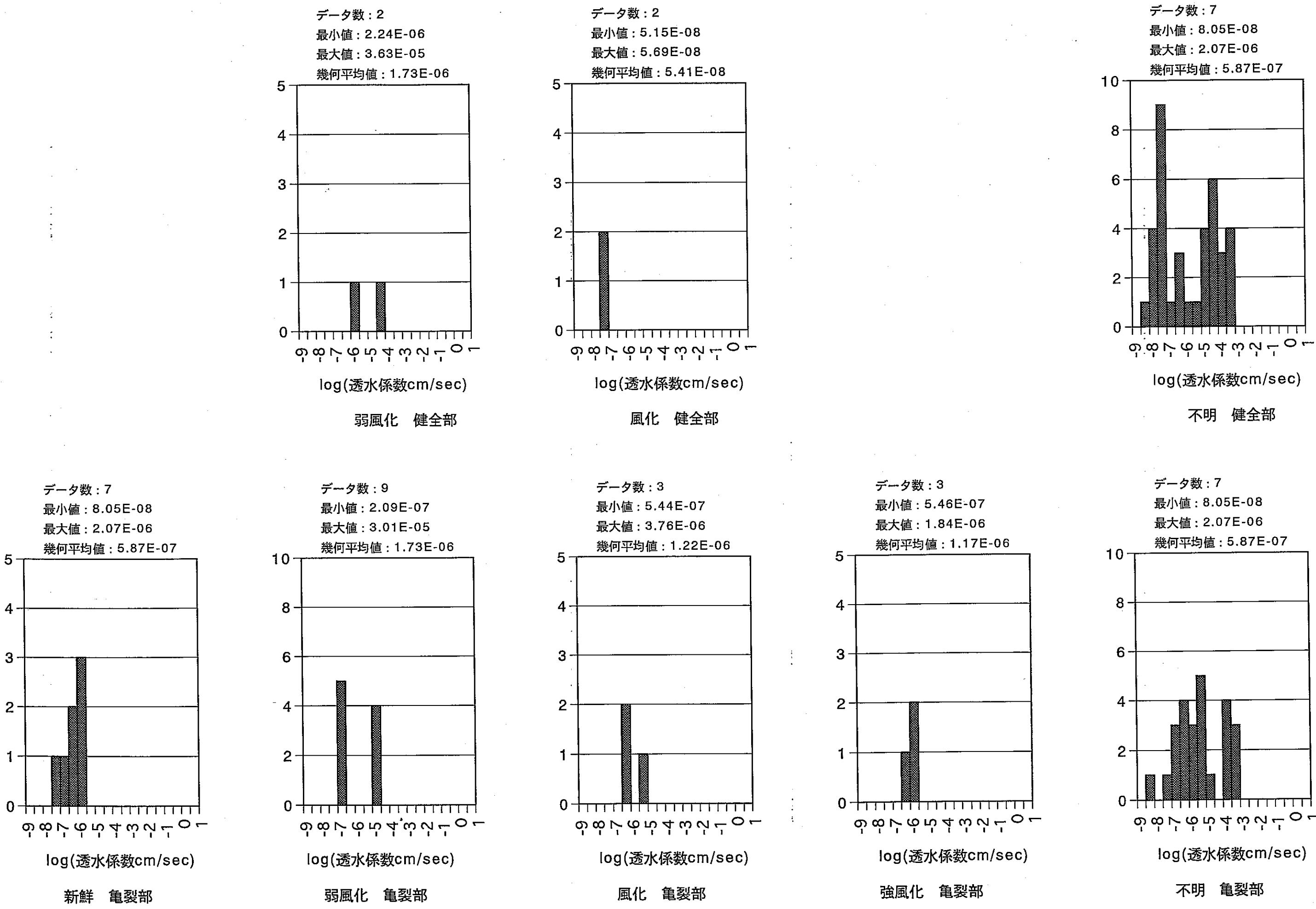


図5-11 風化亀裂状態別透水係数ヒストグラム (東濃地区:花崗岩) - 53 -

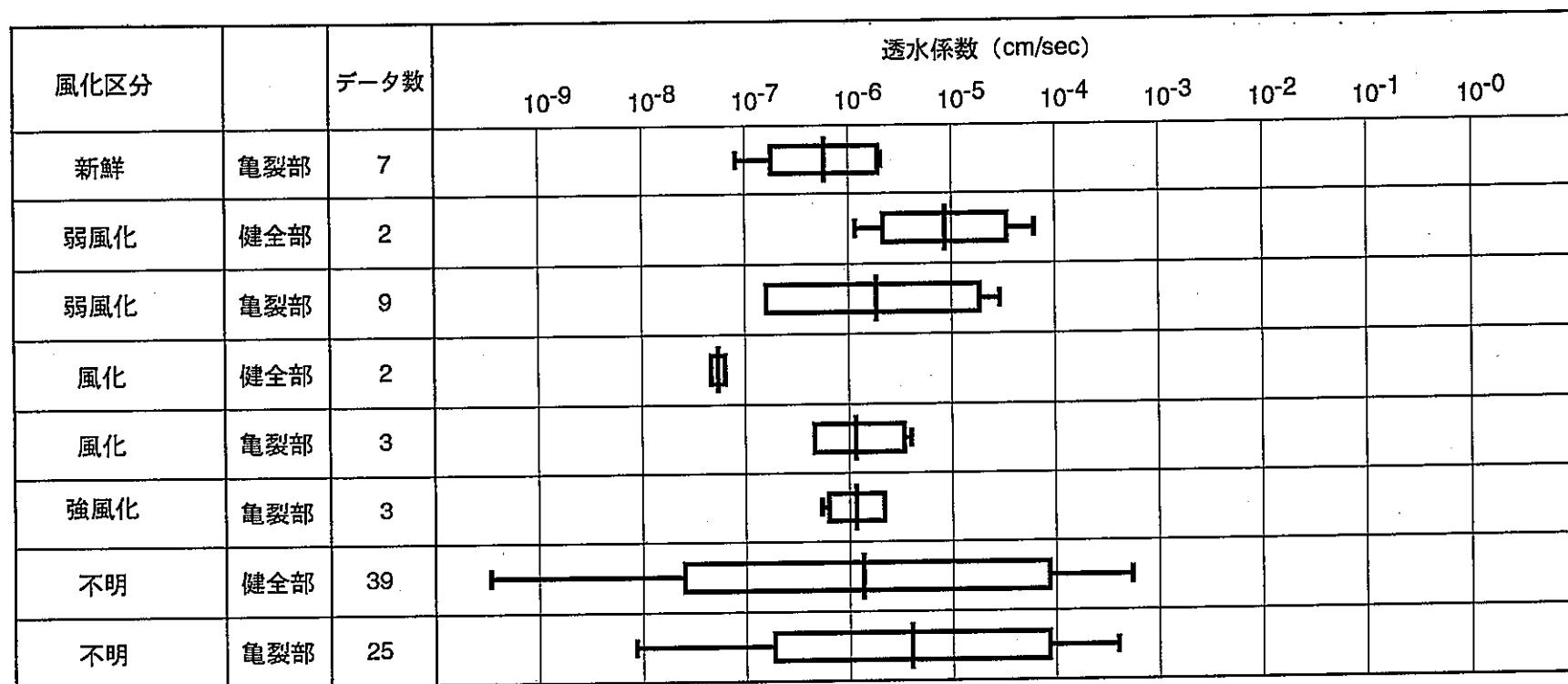
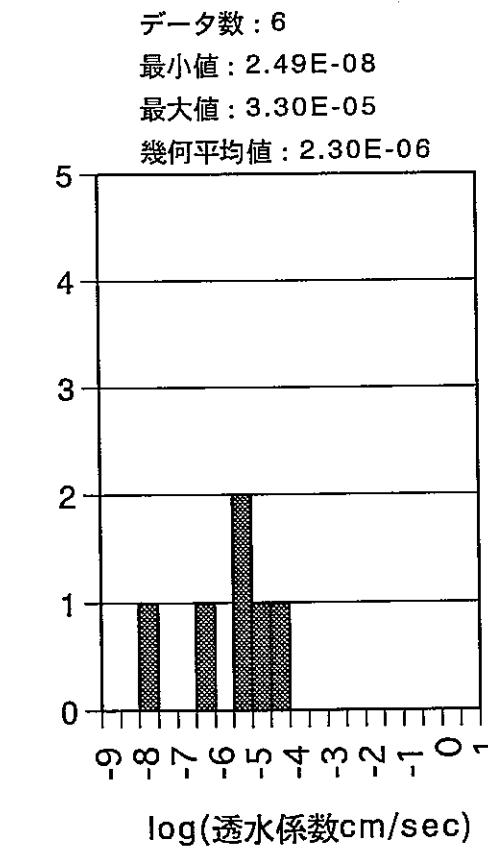
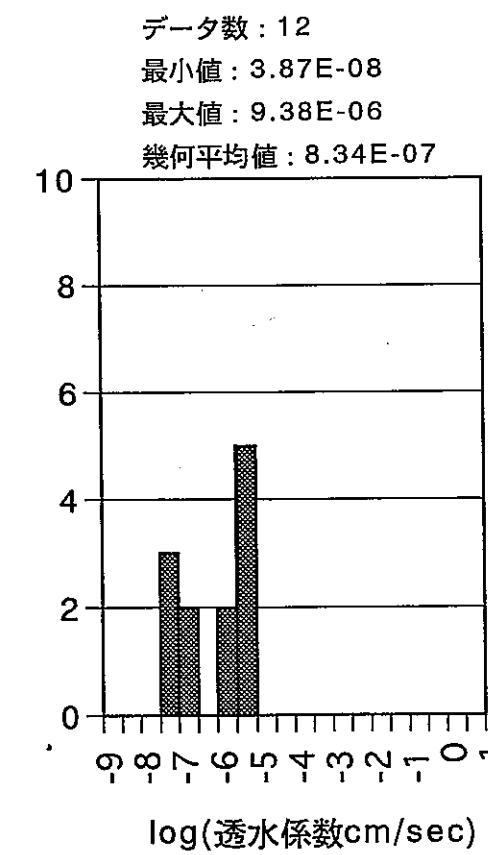
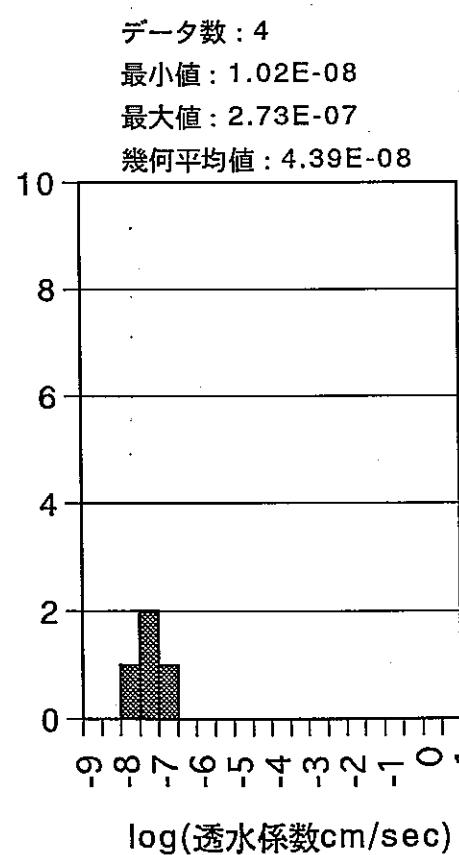
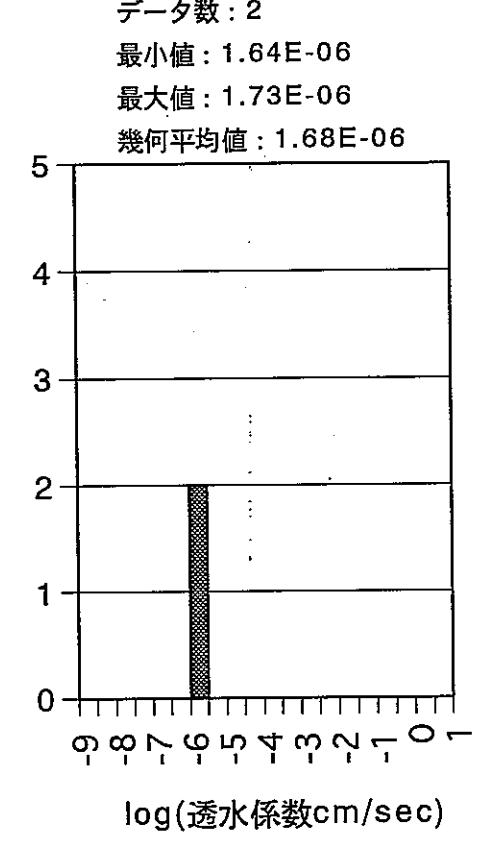
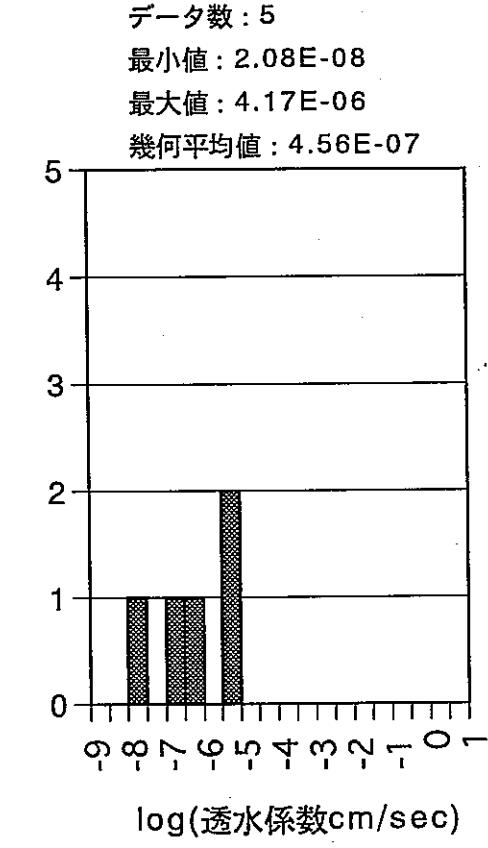
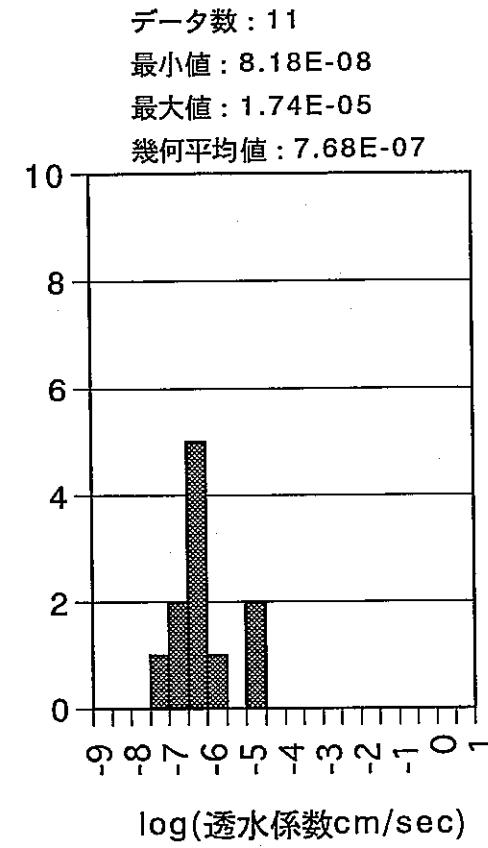
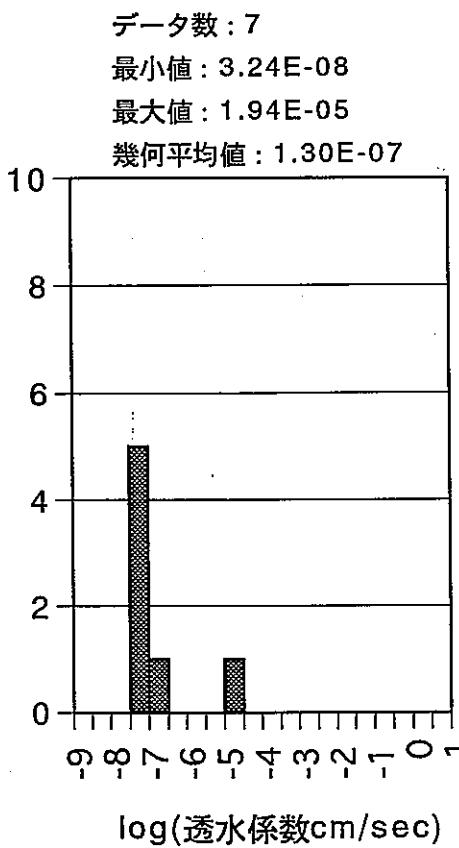


図 5-12 風化亀裂状態別透水係数分布 (東濃地区: 花崗岩)



新鮮 龜裂部

弱風化 龜裂部

風化 龜裂部

図5-13 風化亀裂状態別透水俏數ヒストグラム  
(東濃地区:新第三紀以降の砂質岩)

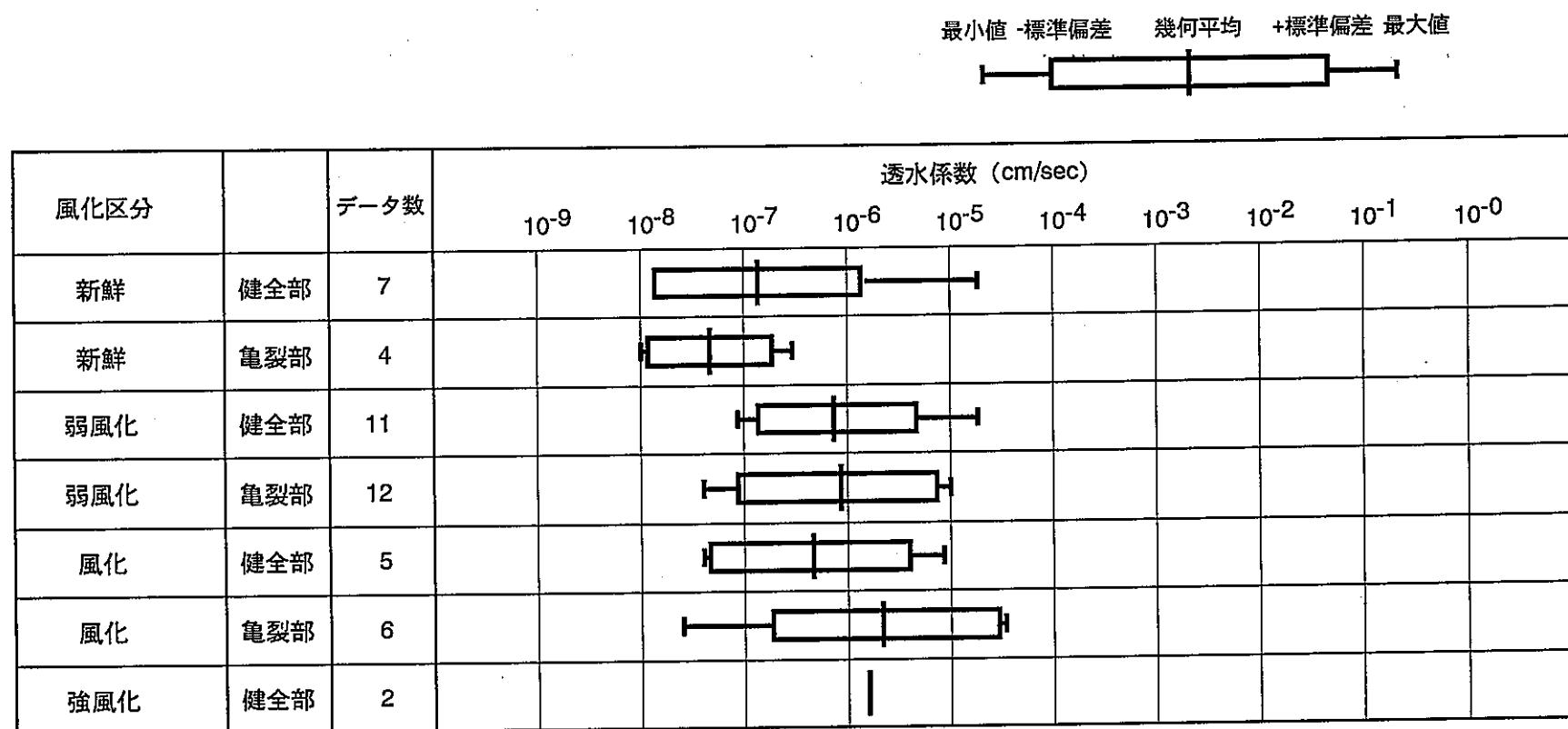


図 5-14 風化亀裂状態別透水係数分布 (東濃地区: 新第三紀以降の砂質岩)

#### 5. 4. 割れ目の数と透水性との関係

各岩種別の割れ目の数と透水係数との関係を図5-15～図5-17に示す。

花崗岩の割れ目の数と透水係数との説明率を示す $R^2$ は0.003、砂質岩の割れ目の数と透水係数との説明率を示す $R^2$ は0.0045、泥質岩の割れ目の数と透水係数との説明率を示す $R^2$ は0.041といずれも極めて低い値が得られた。以上のことから割れ目の本数と透水係数との相関は極めて低いと考えられる。

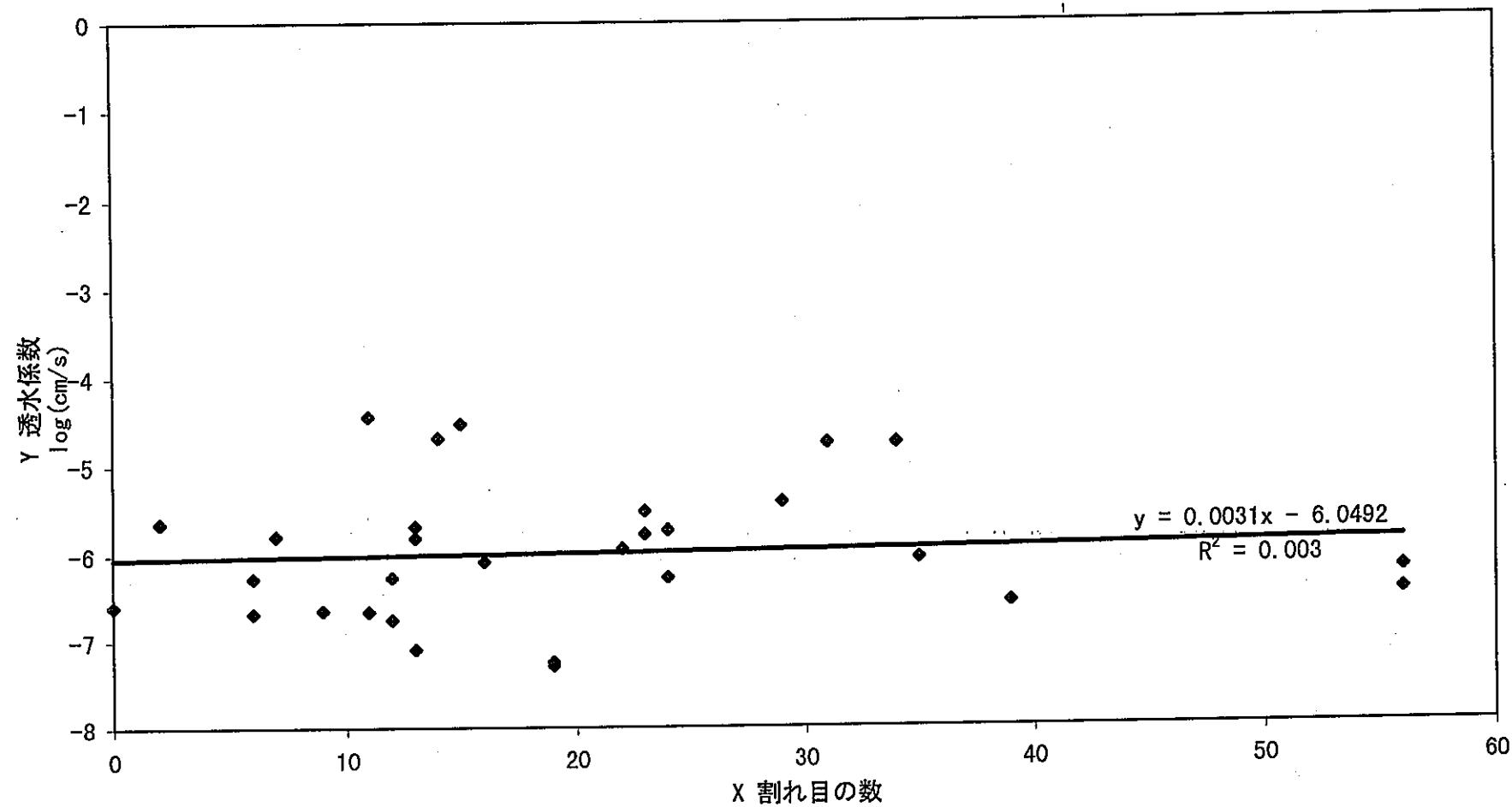


図5-15 割れ目の数と透水係数の関係  
(花崗岩)

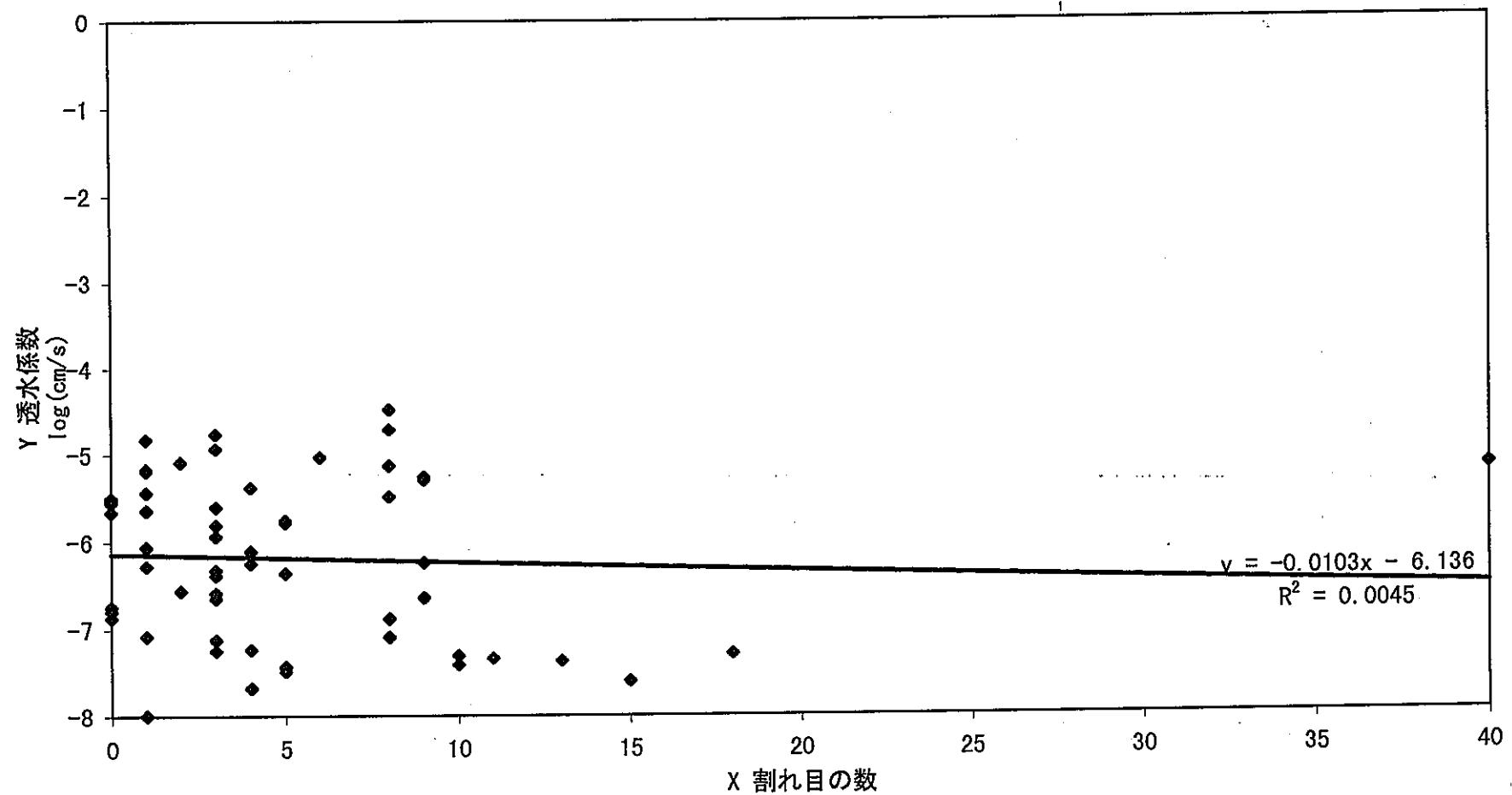


図5-16 割れ目の数と透水係数の関係  
(砂質岩)

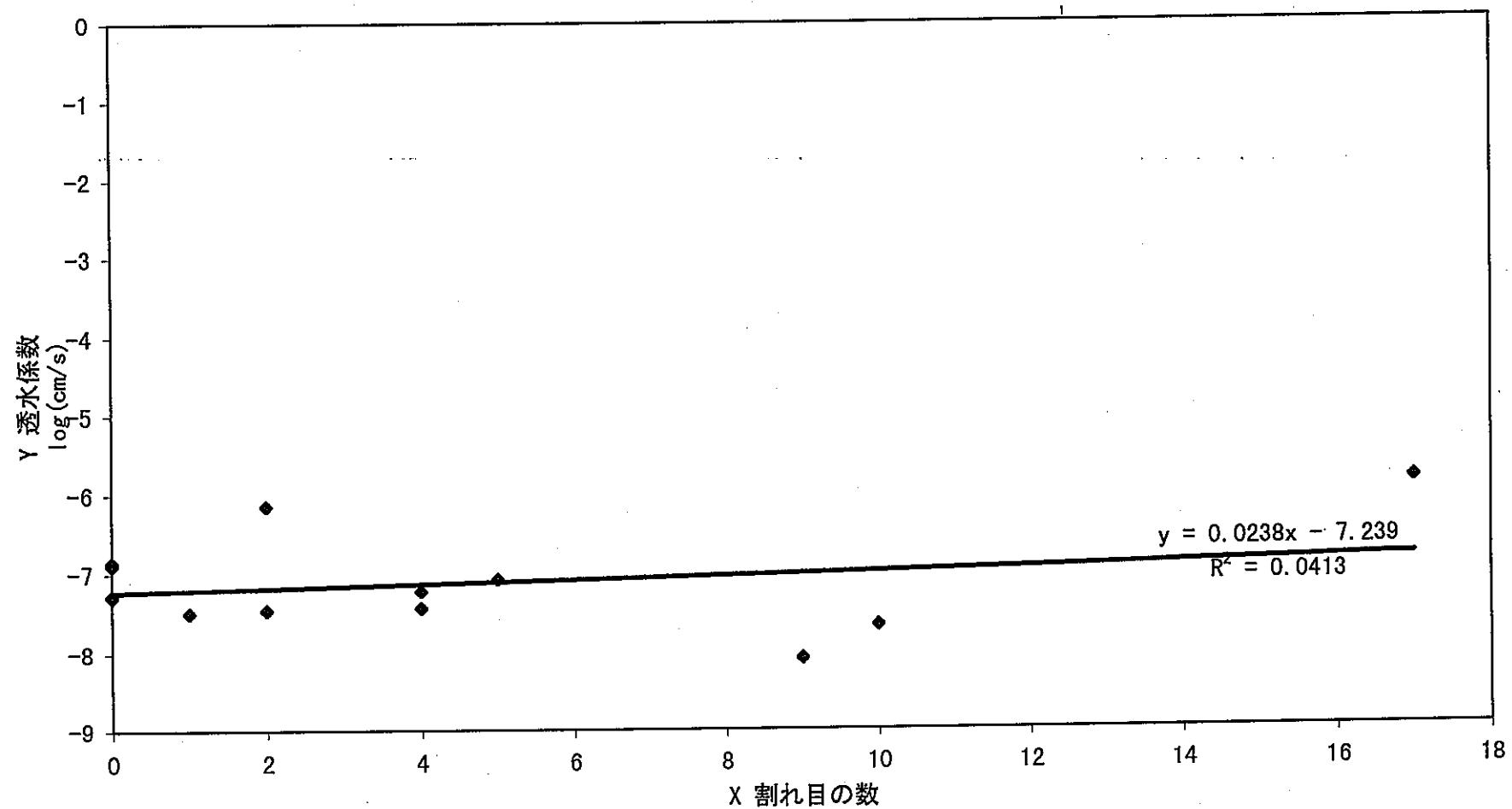


図5-17 割れ目の数と透水係数の関係  
(泥質岩)

### 5.5. 深度と透水係数の関係

深度と透水係数の関係を図5-18～図5-30に示す。このうちデータが正規分布しており、相関がある程度認められるものは、花崗岩の新鮮岩、砂質岩の新鮮岩、泥質岩の新鮮岩であり、ともに深度が深いほど透水性が低くなるという結果が得られた。弱風化岩より風化の進んだ岩では深度と透水係数の間に有意な相関は認められない。

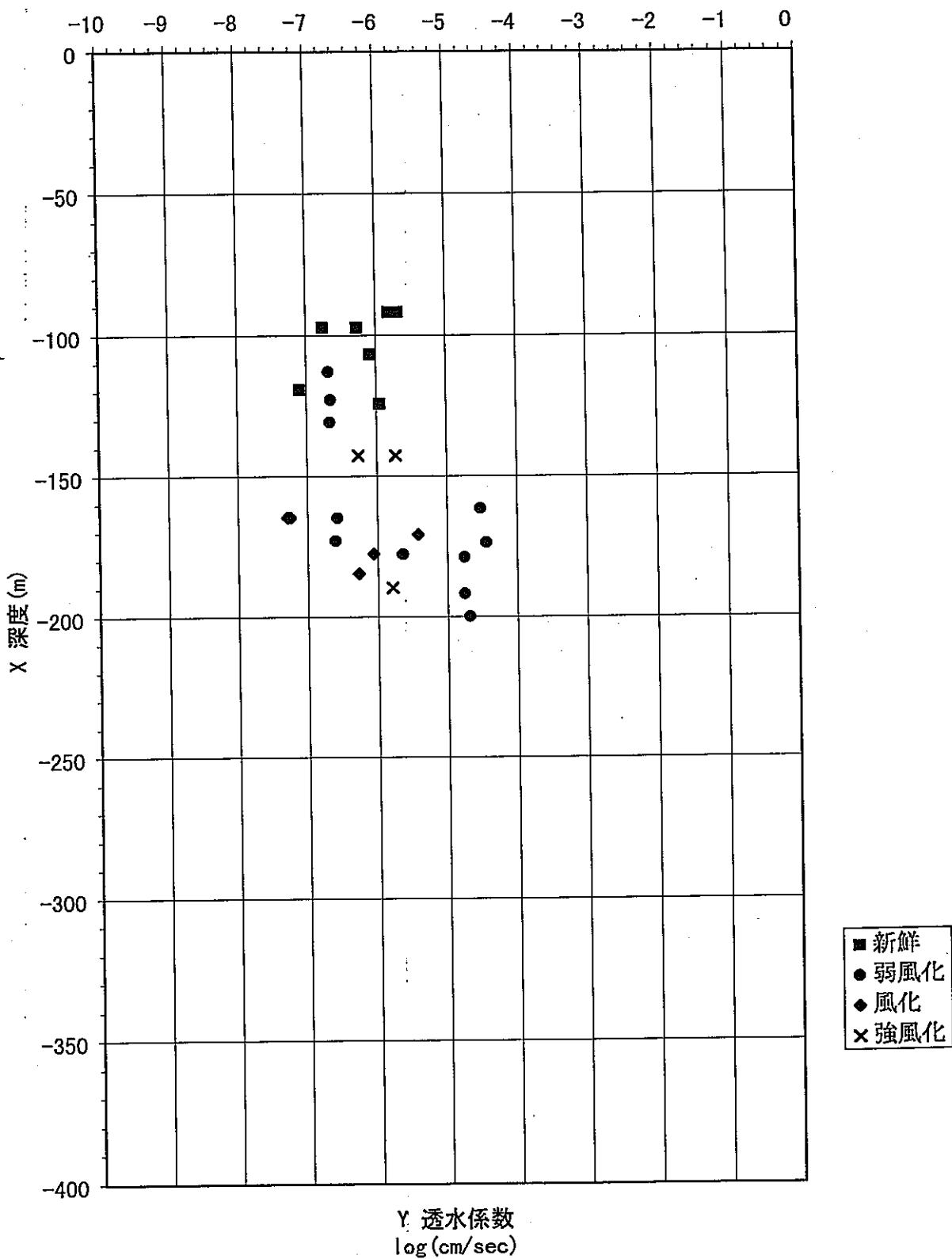


図5-18 深度と透水係数の関係  
(花崗岩)

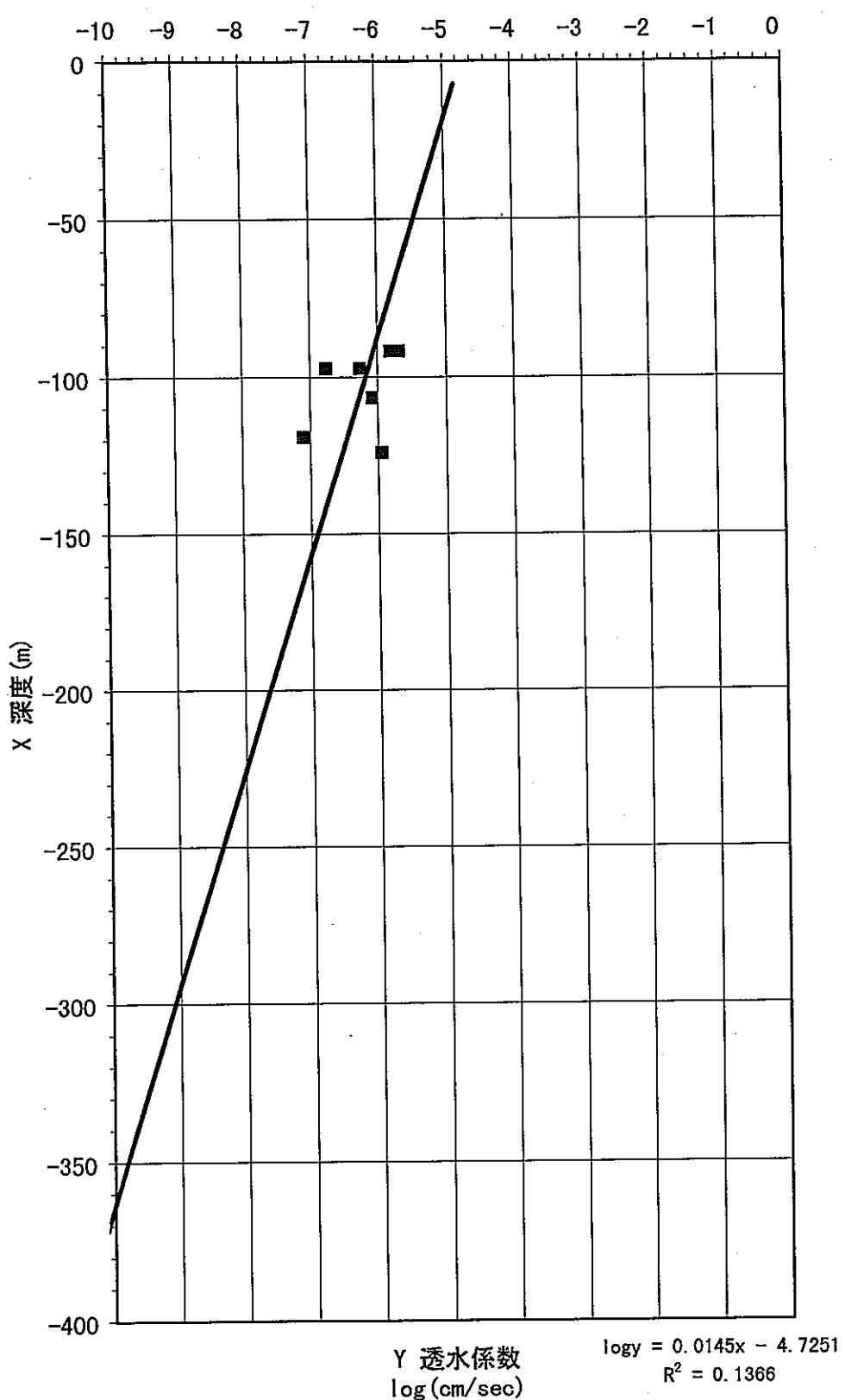


図5-19 深度と透水係数の関係  
(花崗岩:新鮮)

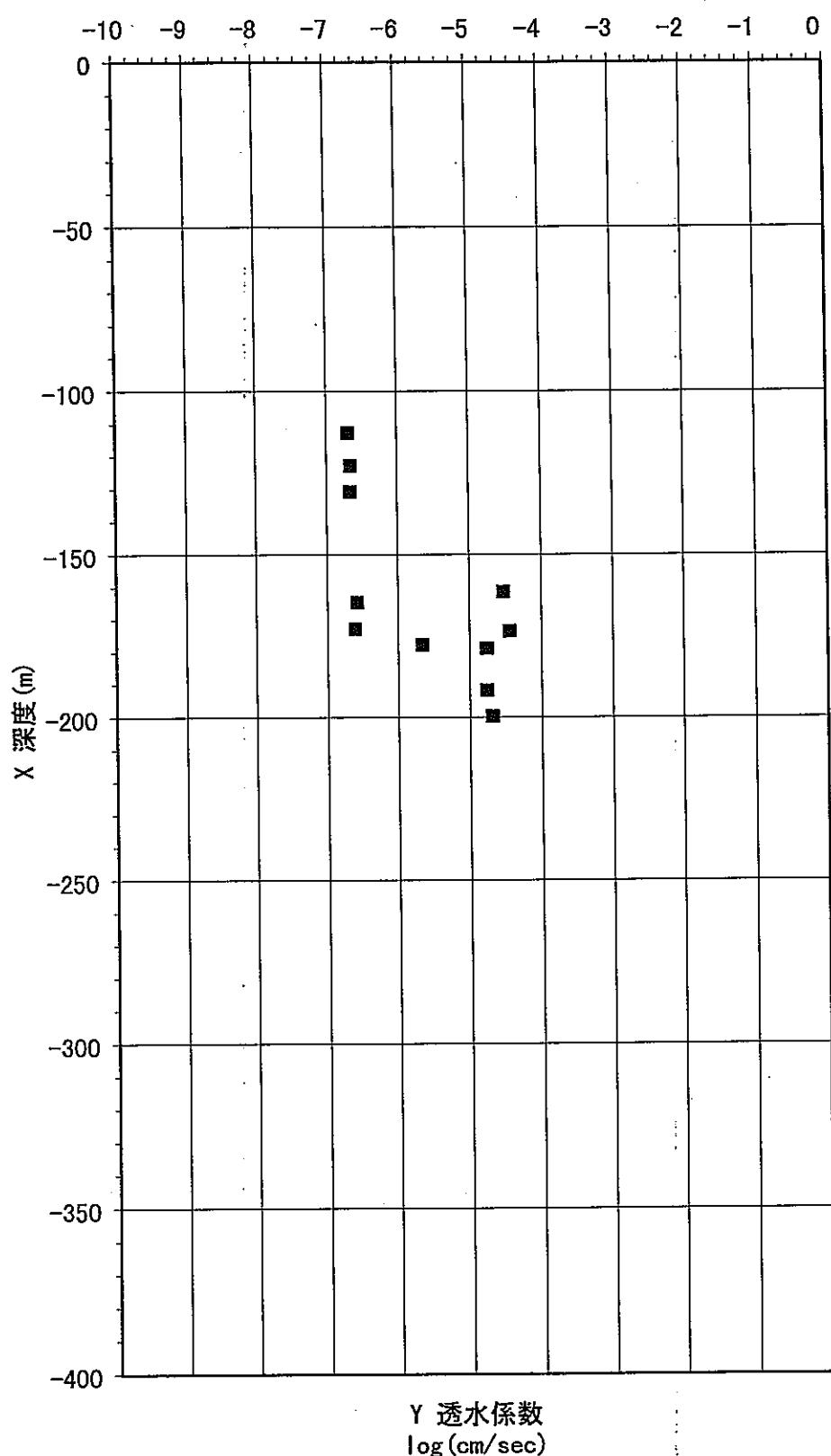


図5-20 深度と透水係数の関係  
(花崗岩 : 弱風化)

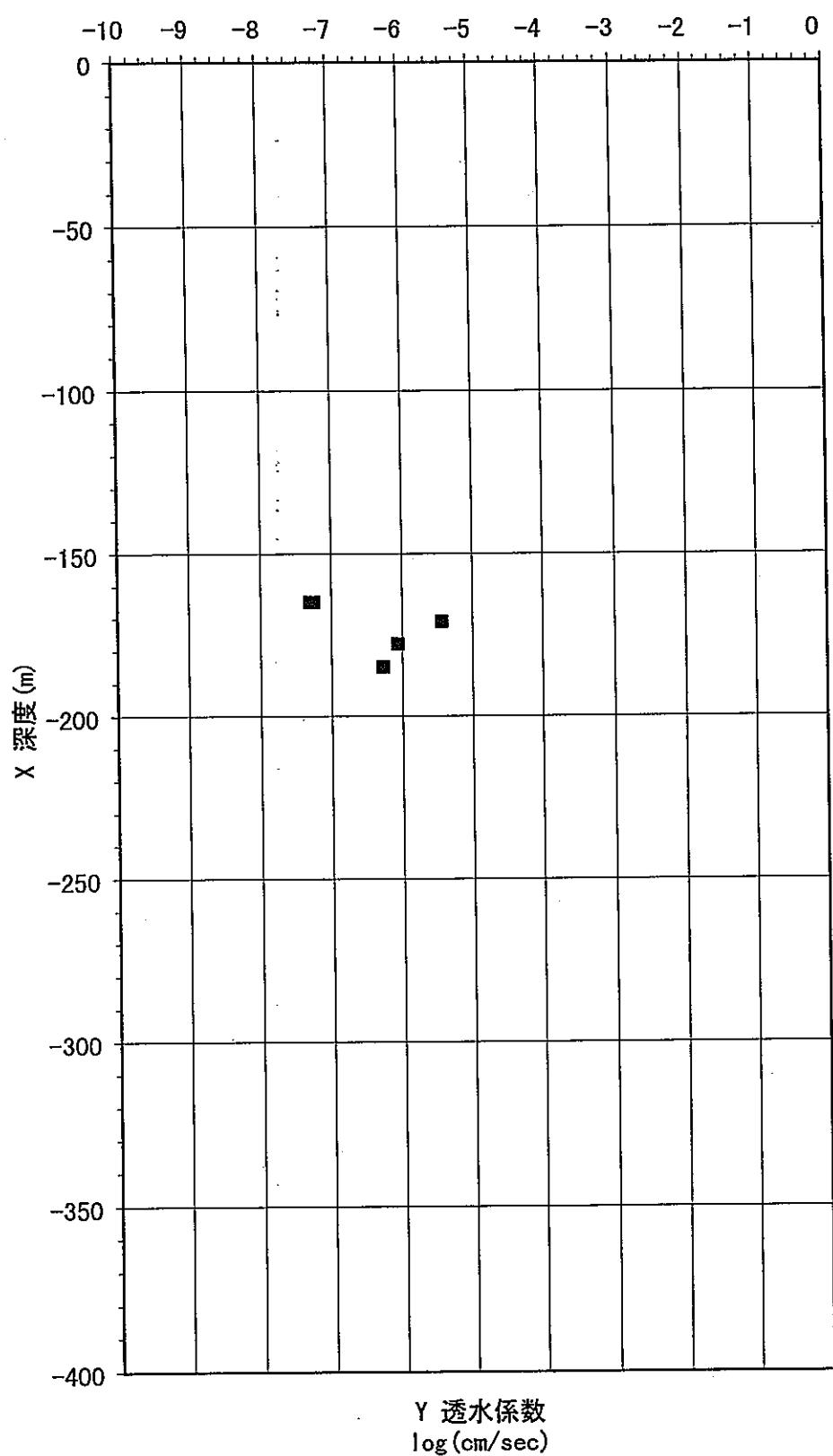


図5-21 深度と透水係数の関係  
(花崗岩: 風化)

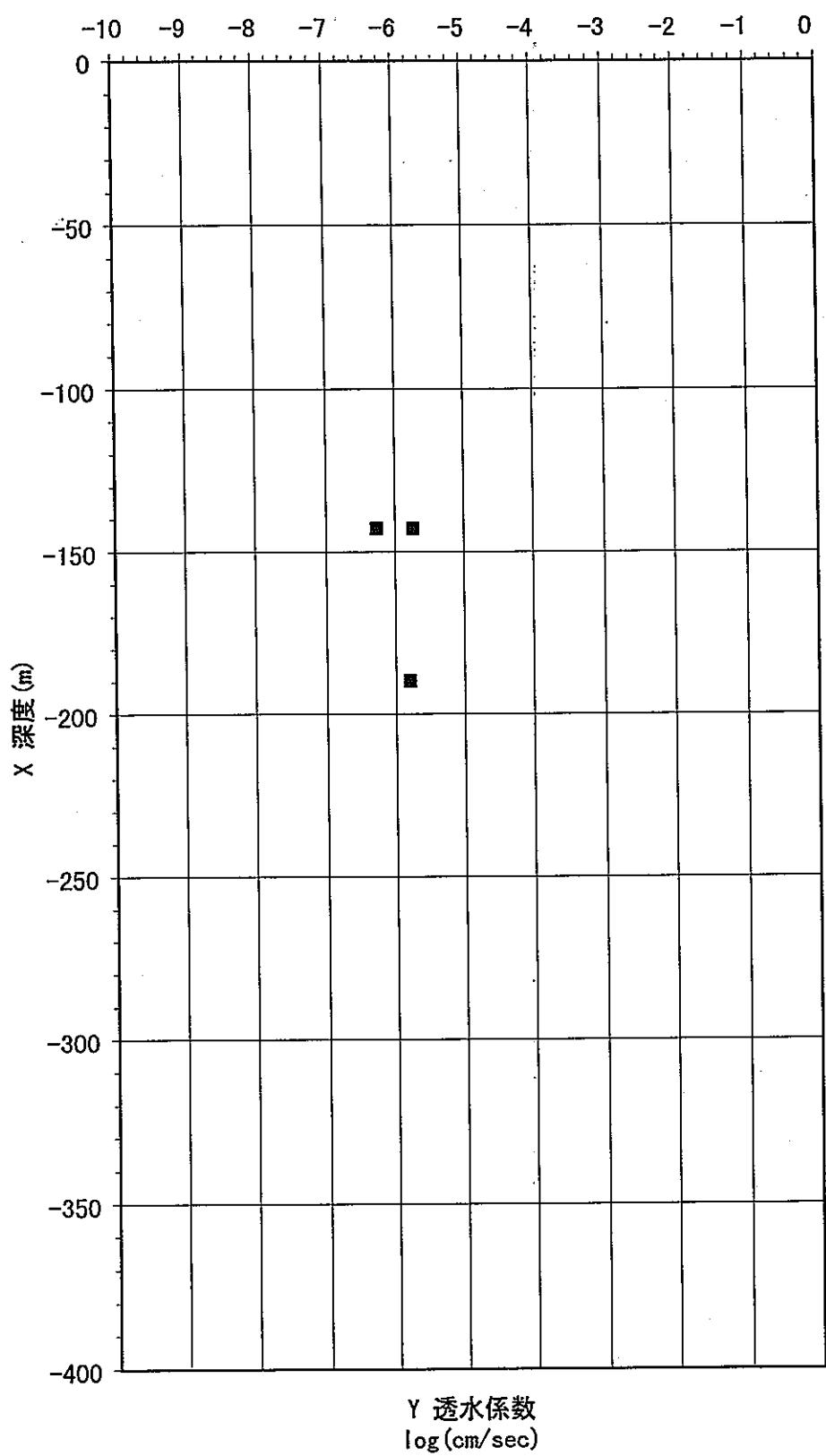


図5-22 深度と透水係数の関係  
(花崗岩: 強風化)

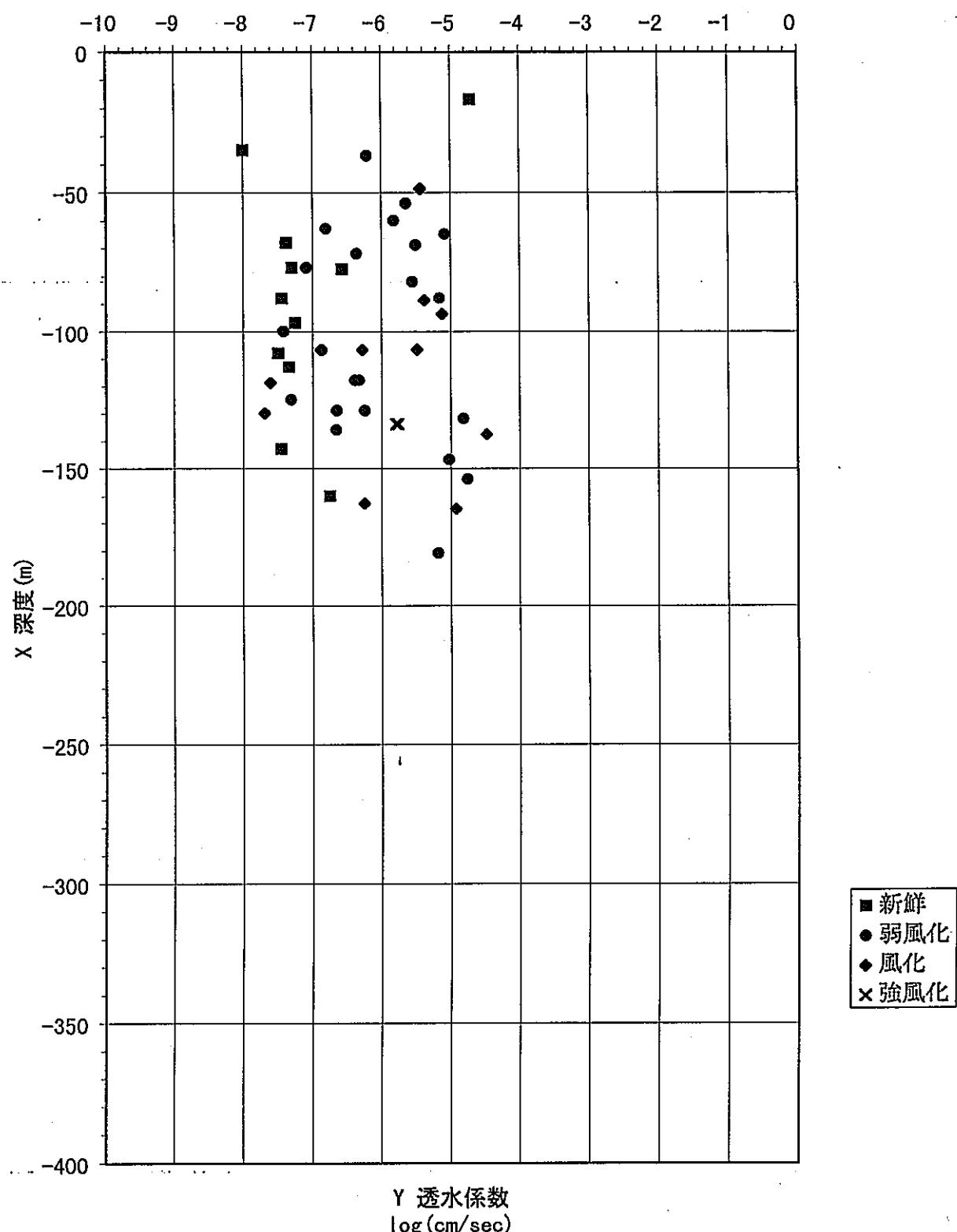


図5-23 深度と透水係数の関係  
(砂質岩)

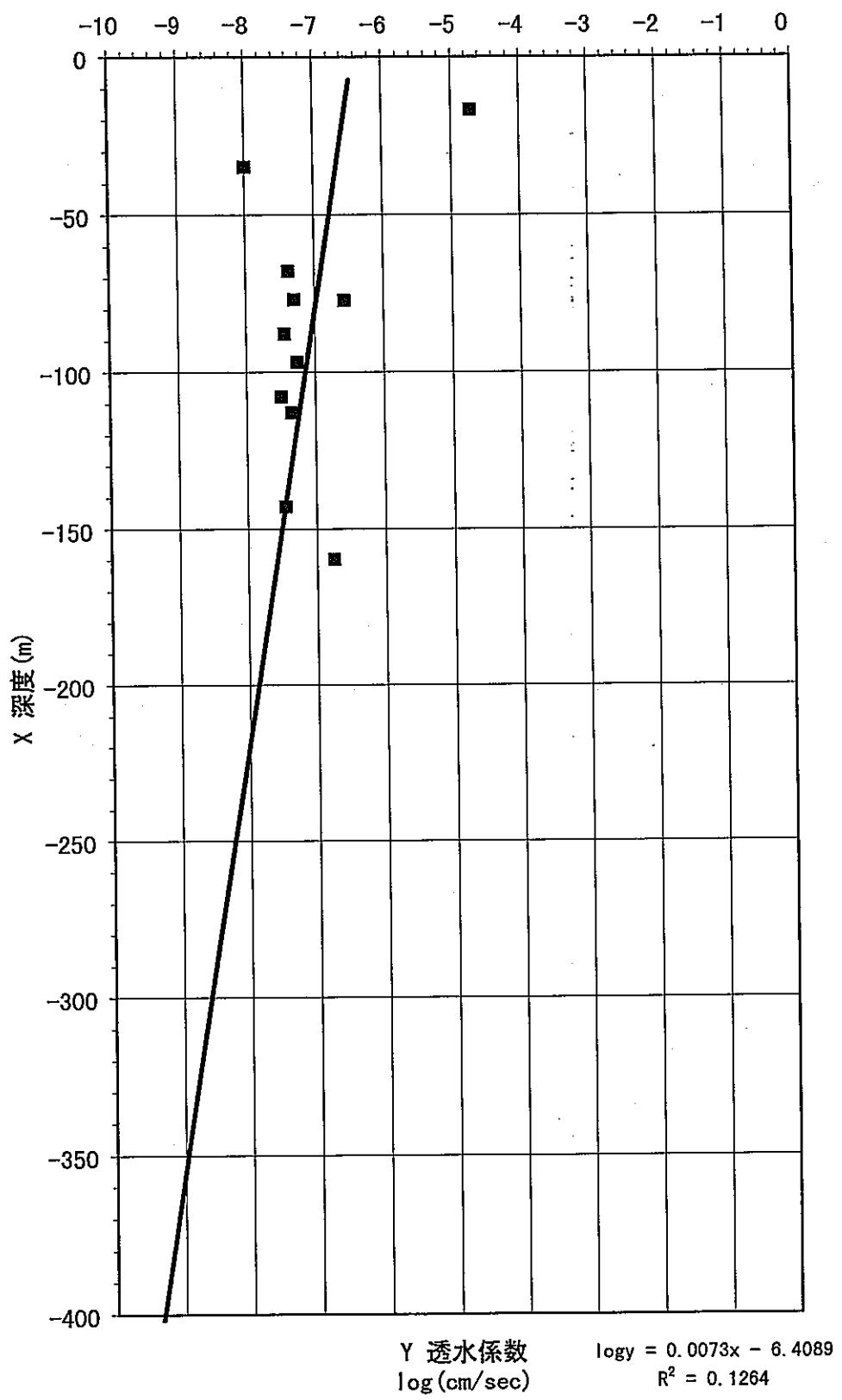


図5-24 深度と透水係数の関係  
(砂質岩: 新鮮)

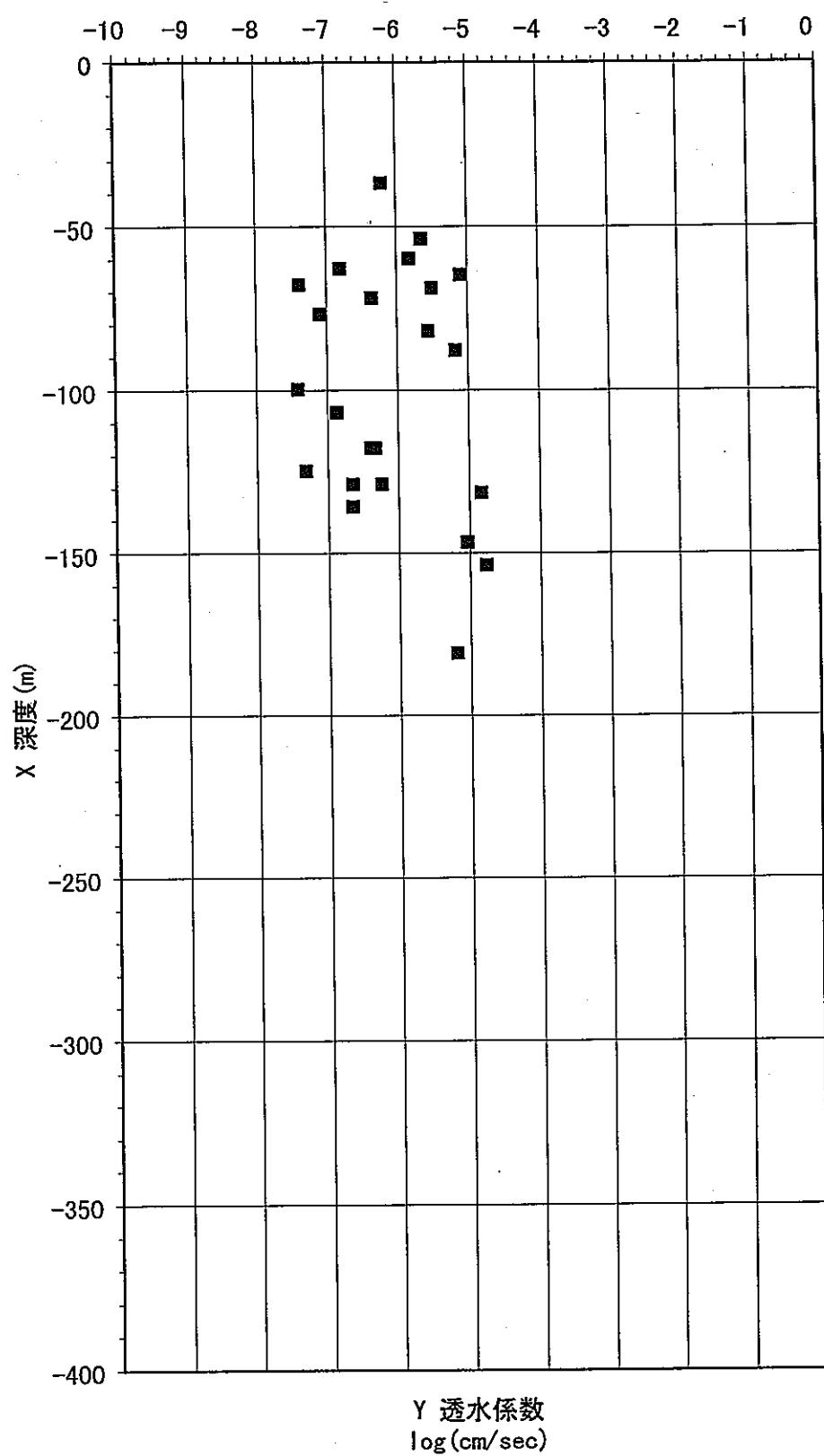


図5-25 深度と透水係数の関係  
(砂質岩 : 弱風化)

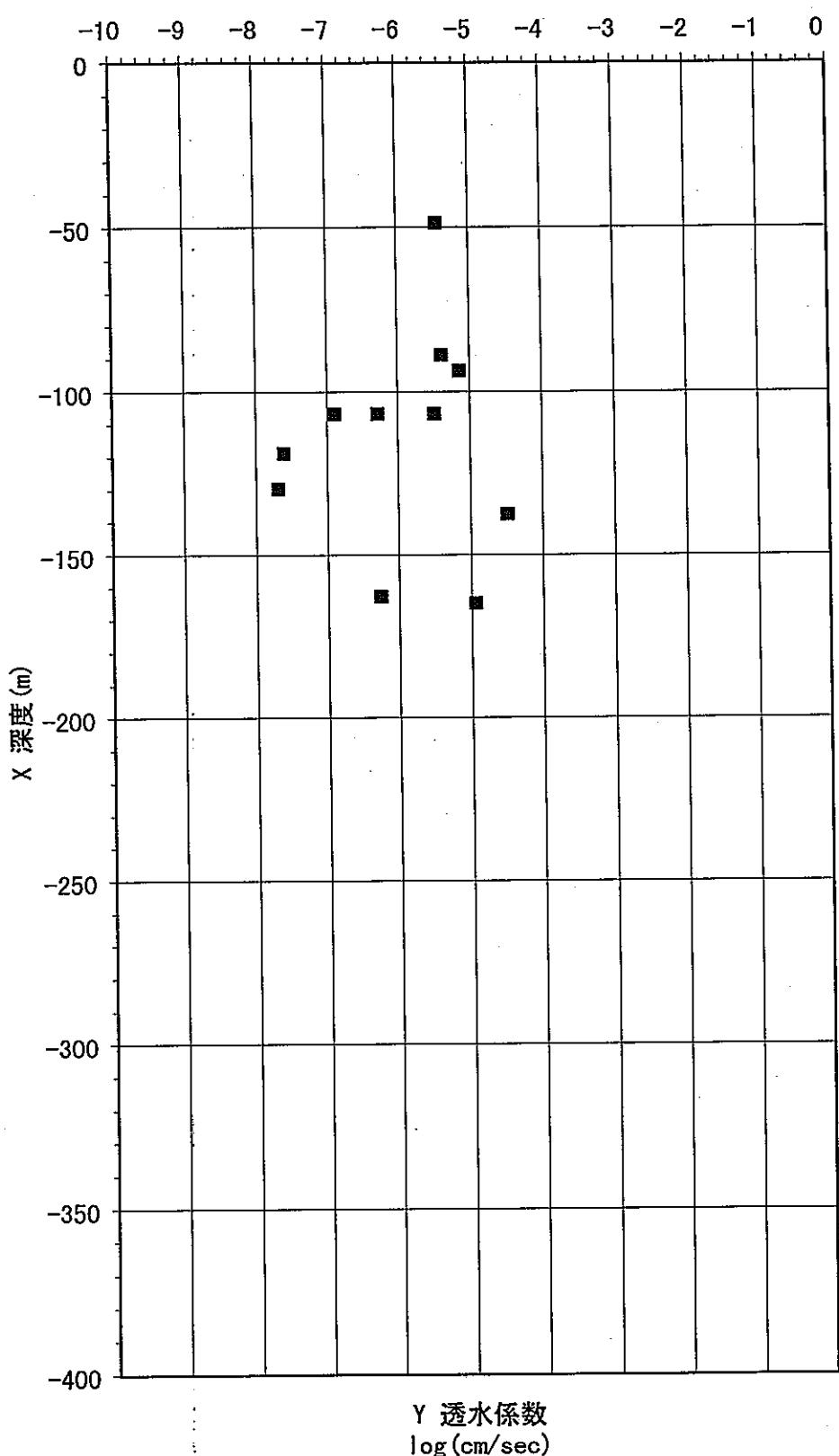


図5-26 深度と透水係数の関係  
(砂質岩: 風化)

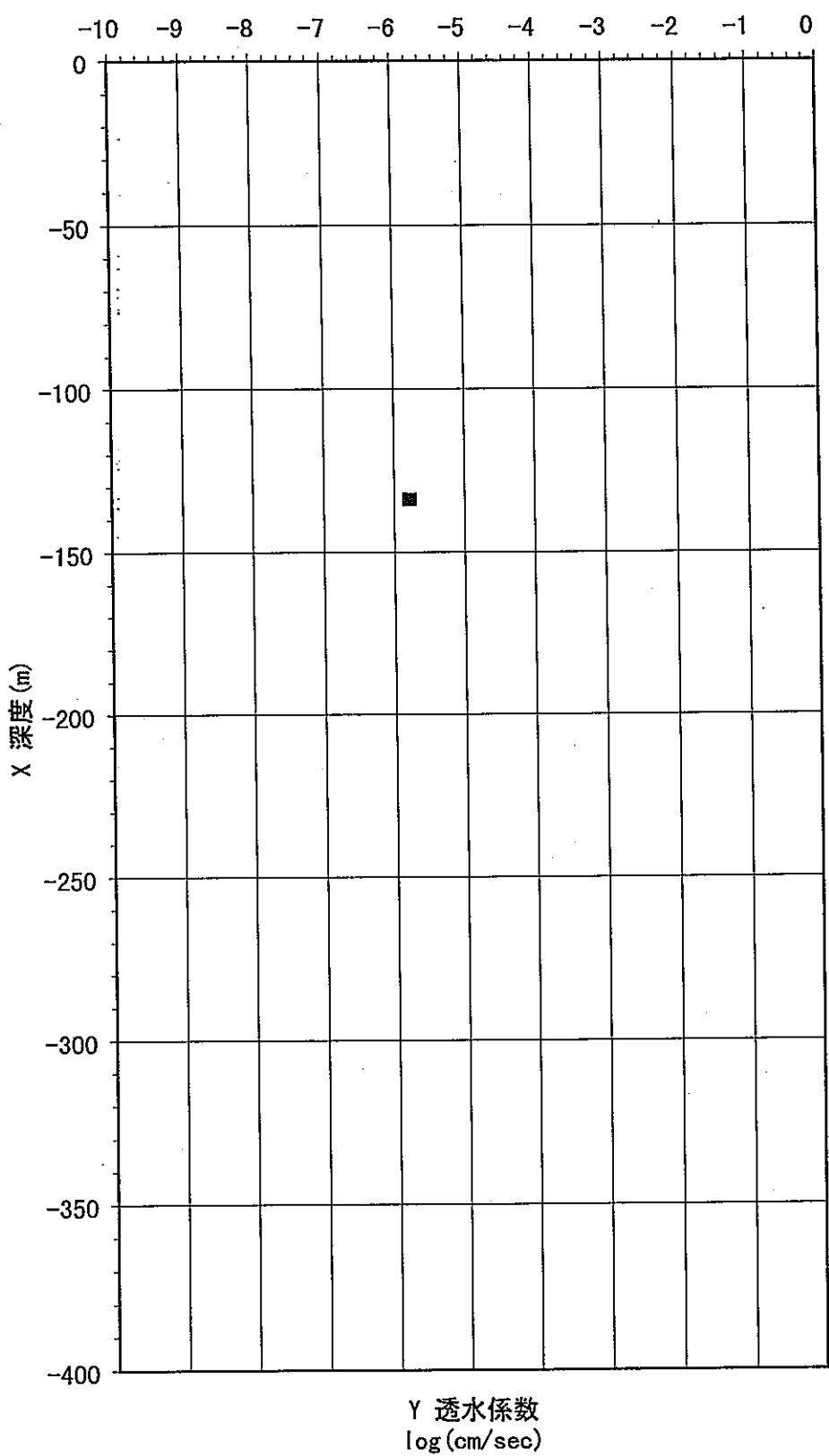


図5-27 深度と透水係数の関係  
(砂質岩 : 強風化)

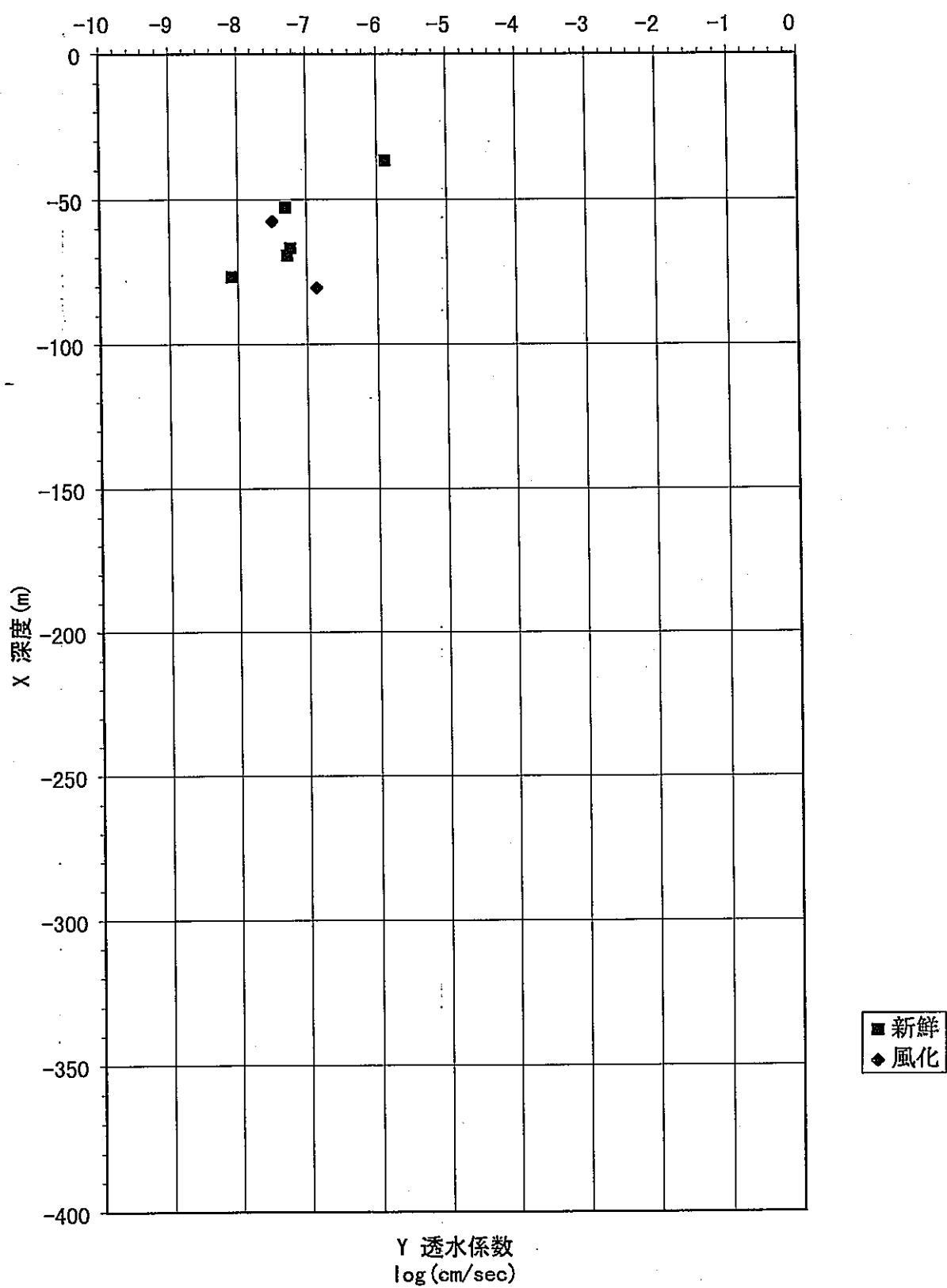


図5-28 深度と透水係数の関係  
(泥質岩)

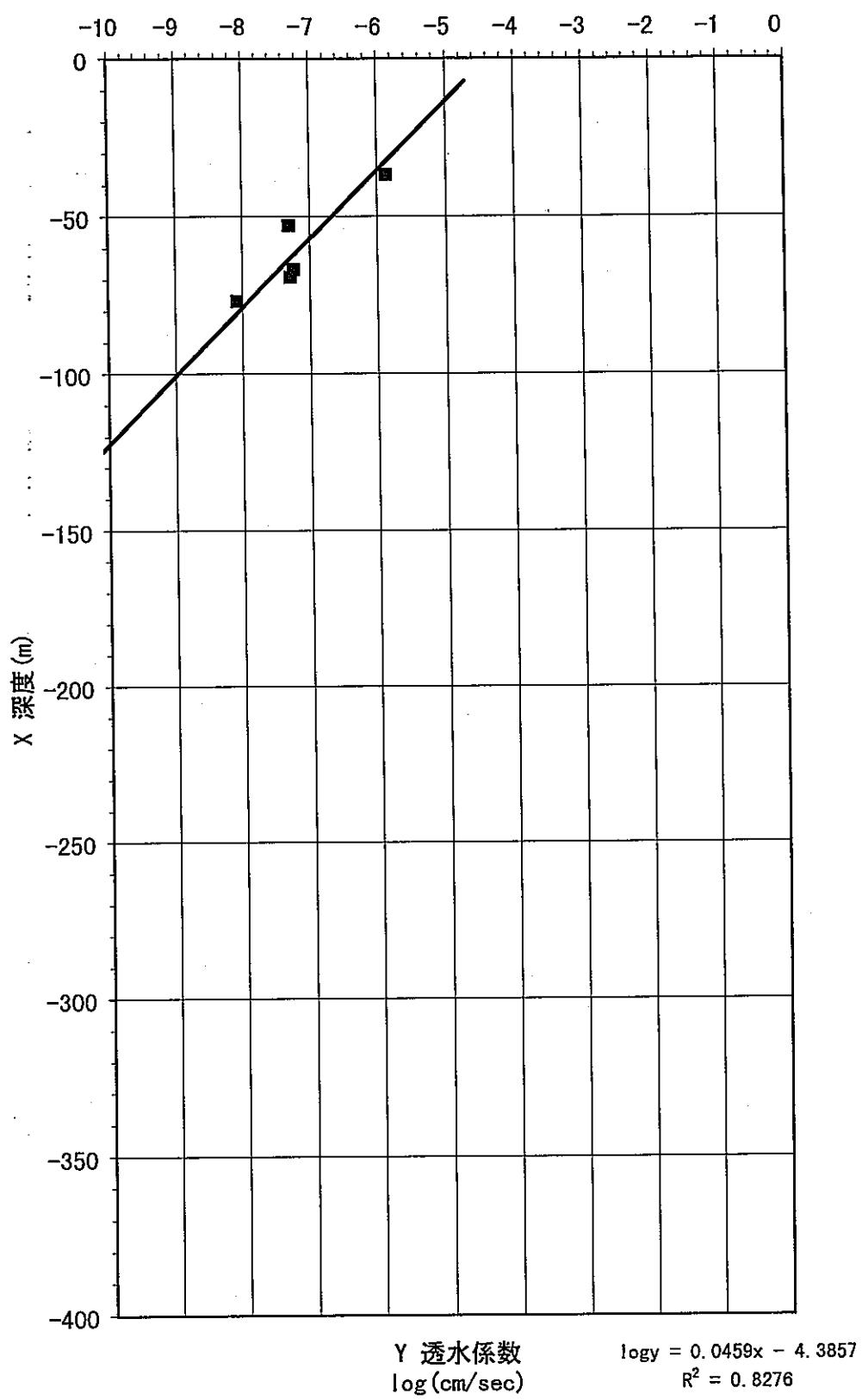


図5-29 深度と透水係数の関係  
(泥質岩: 新鮮)

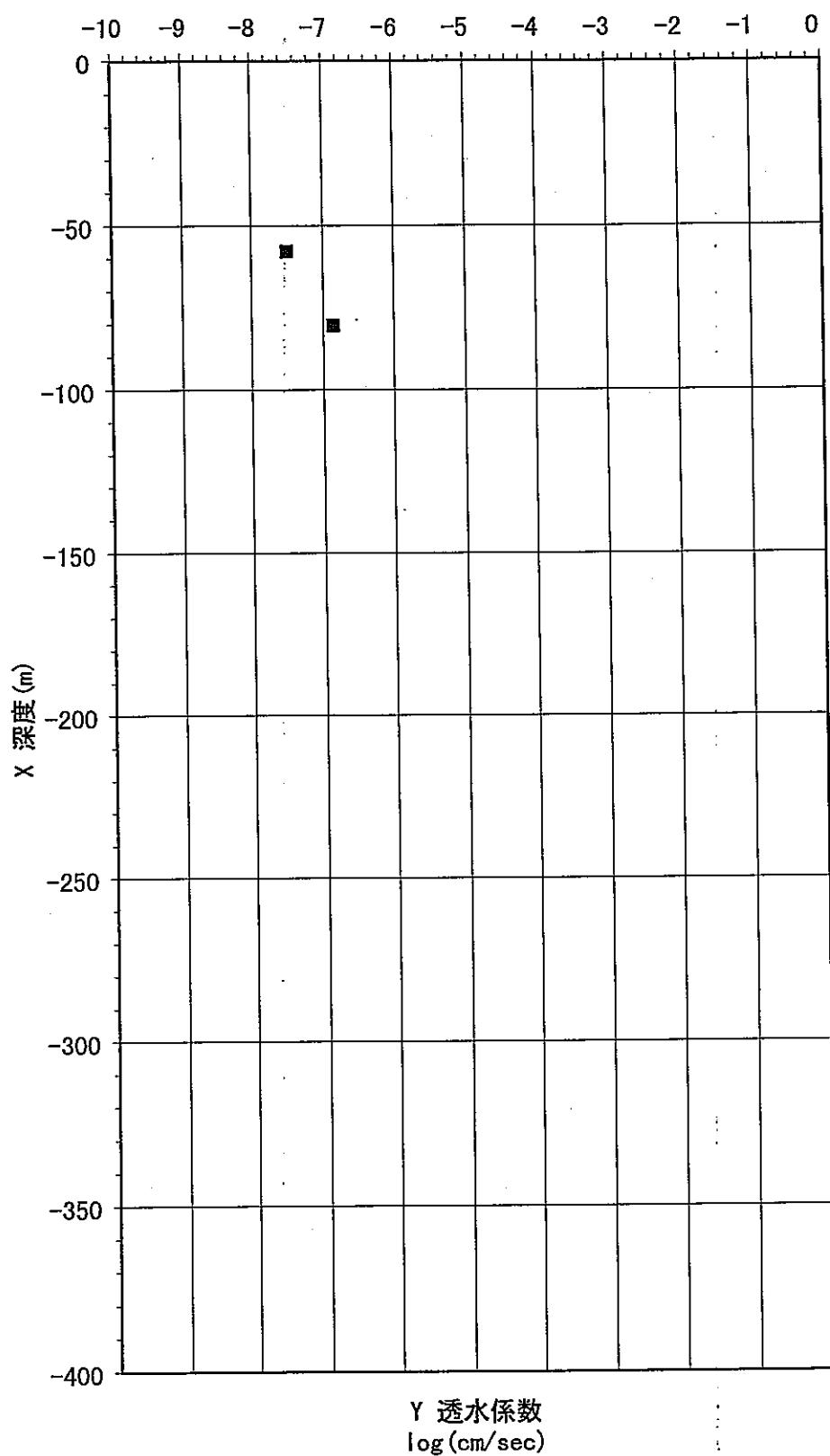


図5-30 深度と透水係数の関係  
(泥質岩: 風化)

## 5. 6. 試験方法の相違による透水係数の関係

同一試験区間において異なる試験方法が行われている8区間についてパルス法と低圧ルジオン試験の値の関係を図5-31に示す。相関関係を示す $R^2$ は0.74で高い相関を示す。透水係数は低圧ルジオンで高くでる傾向が認められる。

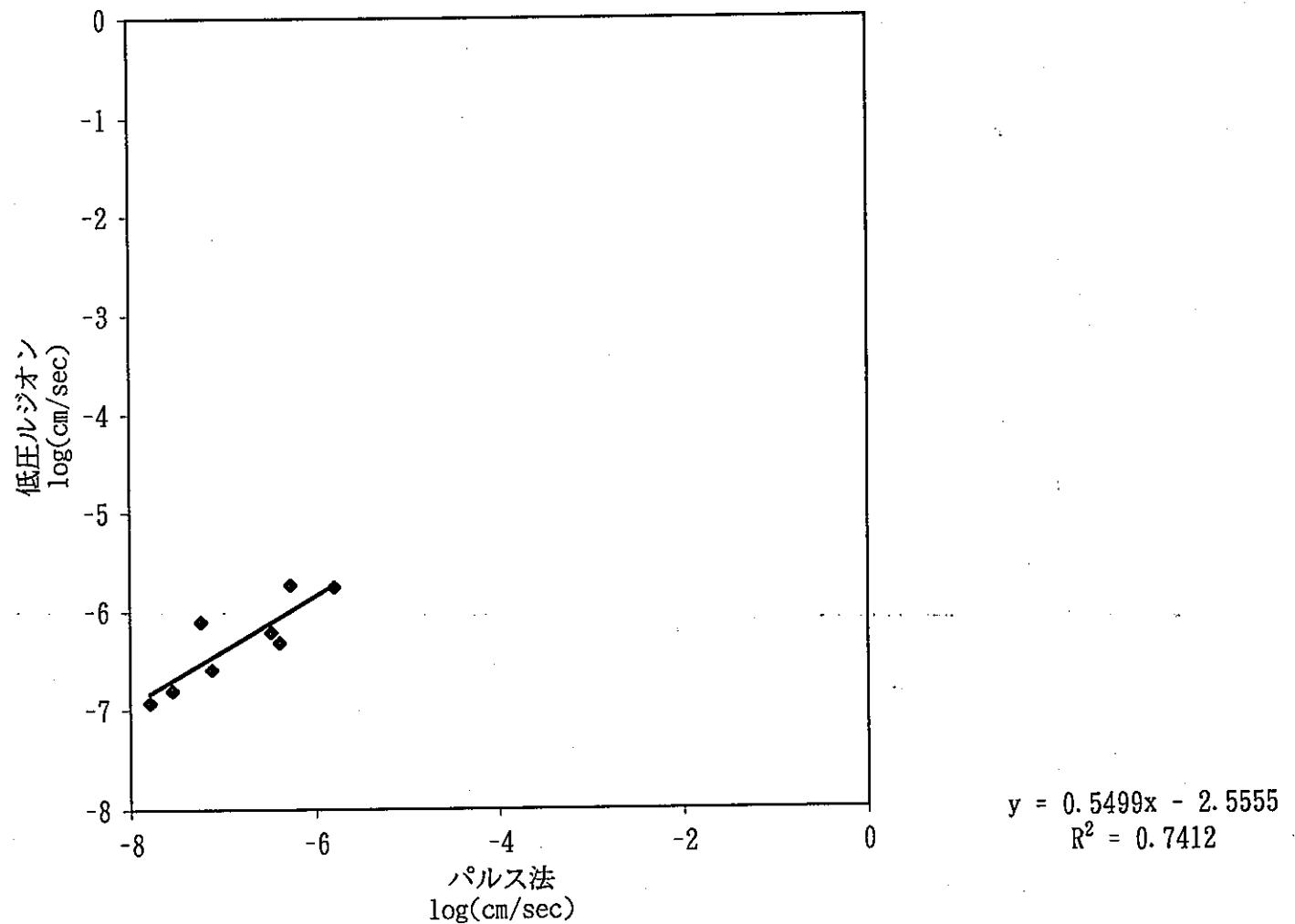


図5-31 試験方法による透水係数の関係

## 6. 釜石地区原位置試験結果による透水性の検討

### 6.1. 亀裂本数別透水係数分布

釜石地区の原位置試験データのうち、ボアホールカメラ等で亀裂状況のデータがある試験データの個数は139点である。

全ての亀裂と透水係数の平均値との関係をみると、メートルあたりの亀裂の本数が0本の区間では $10^{-9}$ cm/secオーダー、亀裂の本数が0~3本の区間では $10^{-8}$ cm/secオーダー、亀裂の本数が3以上の区間では $10^{-7}$ cm/secオーダーであった。

また、開口亀裂と透水係数の平均値との関係をみると、メートルあたりの亀裂の本数が0本の区間では $10^{-8}$ cm/secオーダーであるのに対し、亀裂が存在する区間では $10^{-7}$ cm/sec~ $10^{-6}$ cm/secという結果が得られた。

### 6.2. 亀裂の本数と透水係数の相関関係

全データについて亀裂の本数と透水係数の相関係数は、全亀裂の場合で0.05、開口亀裂で0.09となり、相関関係はみられない。ボーリング孔毎に検討すると、KH1孔、KE3孔、KE7孔では相関関係がみられたが、他の孔では相関関係が認められなかった。

表6-1 龜裂本数別透水係数一覧表（全亀裂）

亀裂本数	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
0	8	2.90E-09	1.08E-10	6.42E-08	-8.538	-9.967	-7.192	0.967
0~3	43	8.73E-08	1.08E-10	7.40E-06	-7.059	-9.967	-5.131	1.280
3~6	28	3.02E-06	1.08E-09	3.10E-04	-5.520	-8.967	-3.509	1.287
6~9	26	4.72E-07	2.98E-09	2.40E-05	-6.326	-8.526	-4.620	1.065
9~	34	6.17E-07	8.54E-09	5.89E-05	-6.210	-8.069	-4.230	1.090
全データ	139	3.24E-07	1.08E-10	3.10E-04	-6.489	-9.967	-3.509	1.385

亀裂本数はm当たりの本数を示す

表6-2 亀裂本数別透水係数一覧表（開口亀裂）

亀裂本数	データ数	幾何平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
0	39	2.04E-08	1.08E-10	2.40E-05	-7.690	-9.967	-4.620	1.190
0~2	38	1.18E-06	1.08E-10	2.96E-04	-5.928	-9.967	-3.529	1.351
2~4	29	8.69E-07	8.86E-09	3.10E-04	-6.061	-8.053	-3.509	1.131
4~6	15	8.32E-07	8.54E-09	1.18E-05	-6.080	-8.069	-4.928	0.927
6~	18	7.85E-07	1.63E-08	5.89E-05	-6.105	-7.788	-4.230	0.996
全データ	139	3.24E-07	1.08E-10	3.10E-04	-6.489	-9.967	-3.509	1.385

亀裂本数はm当たりの本数を示す

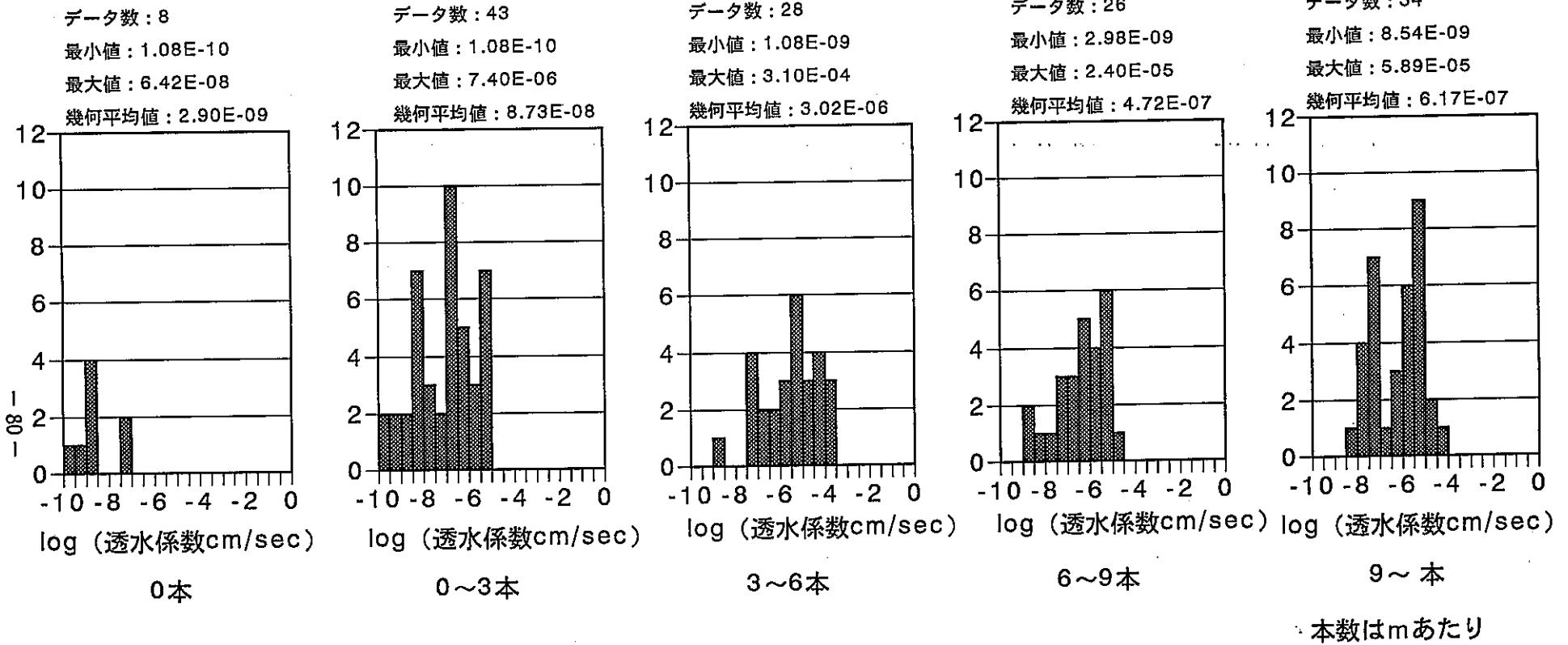


図6-1 亀裂本数別透水係数ヒストグラム  
(全亀裂)

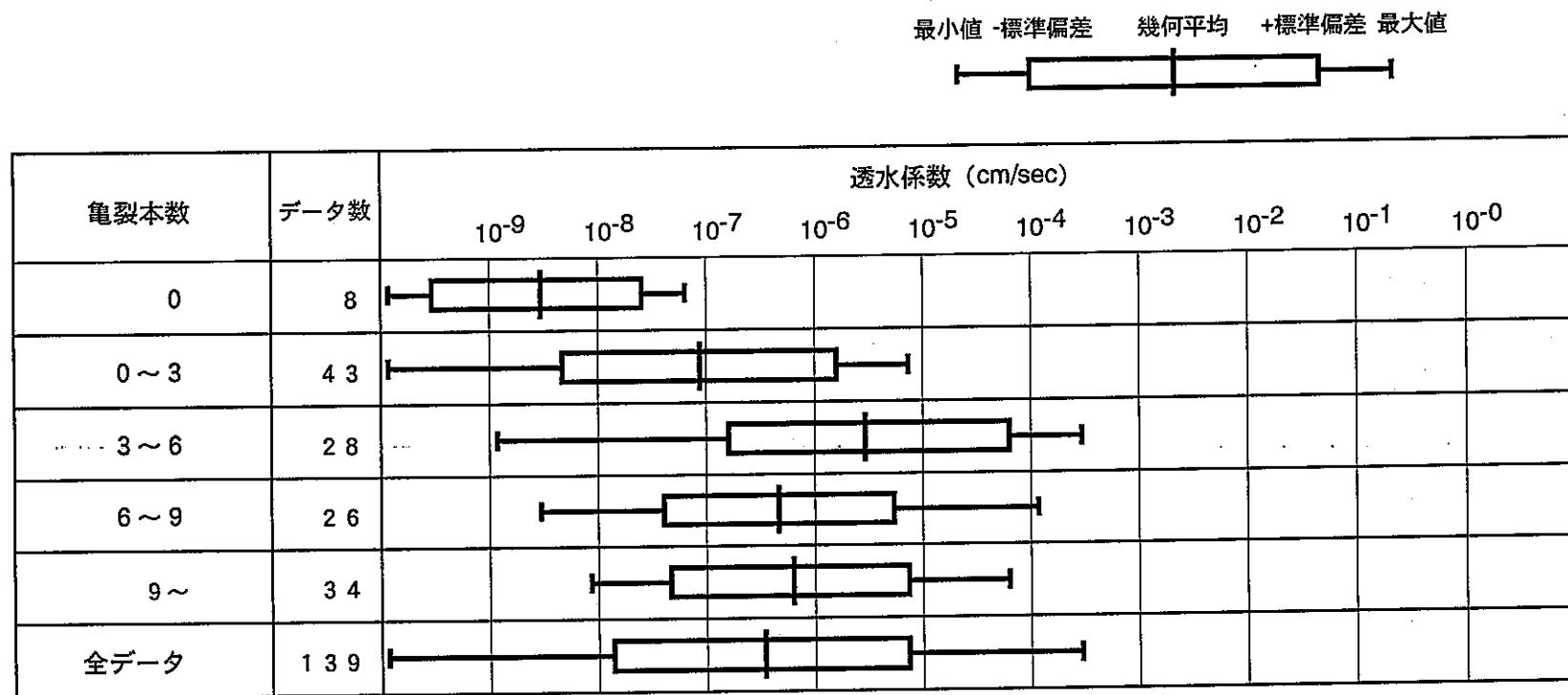
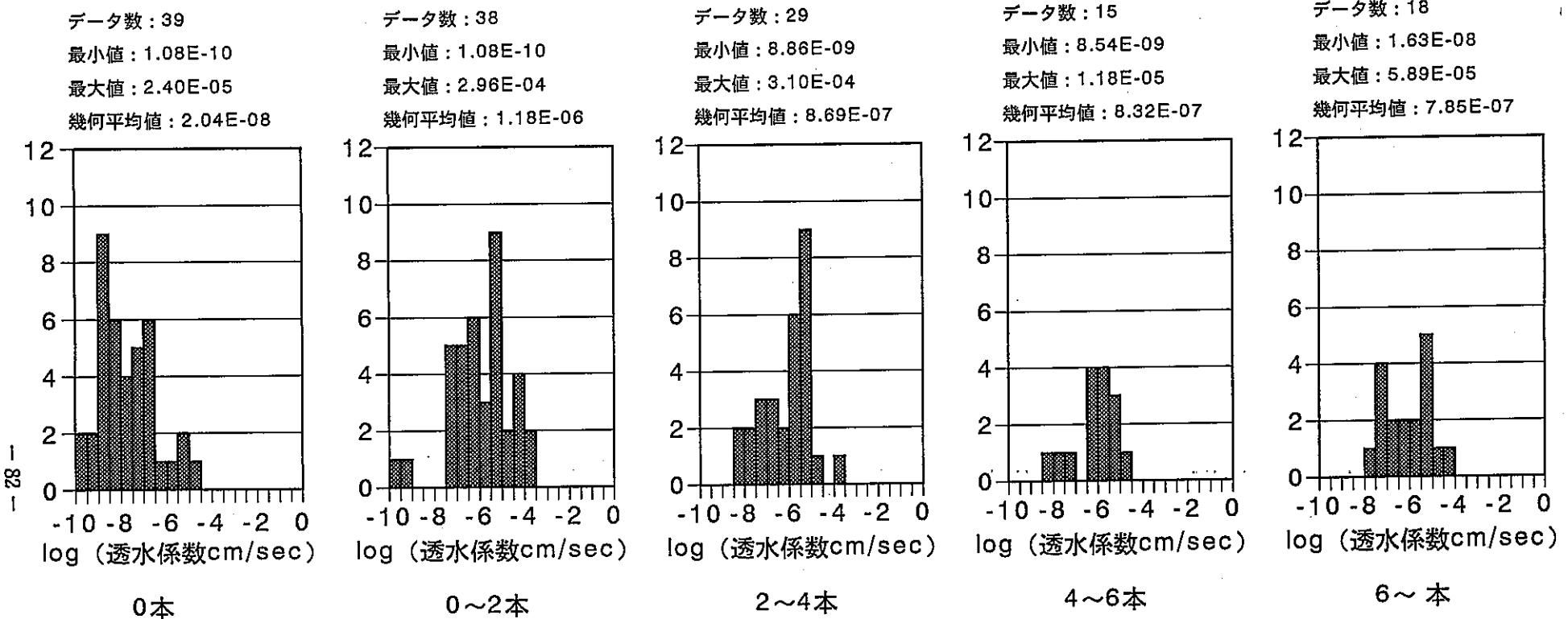


図6-2 亀裂本数別透水係数分布（全亀裂）



本数はmあたり

図6-3 龜裂本数別透水係数ヒストグラム  
(開口亀裂)

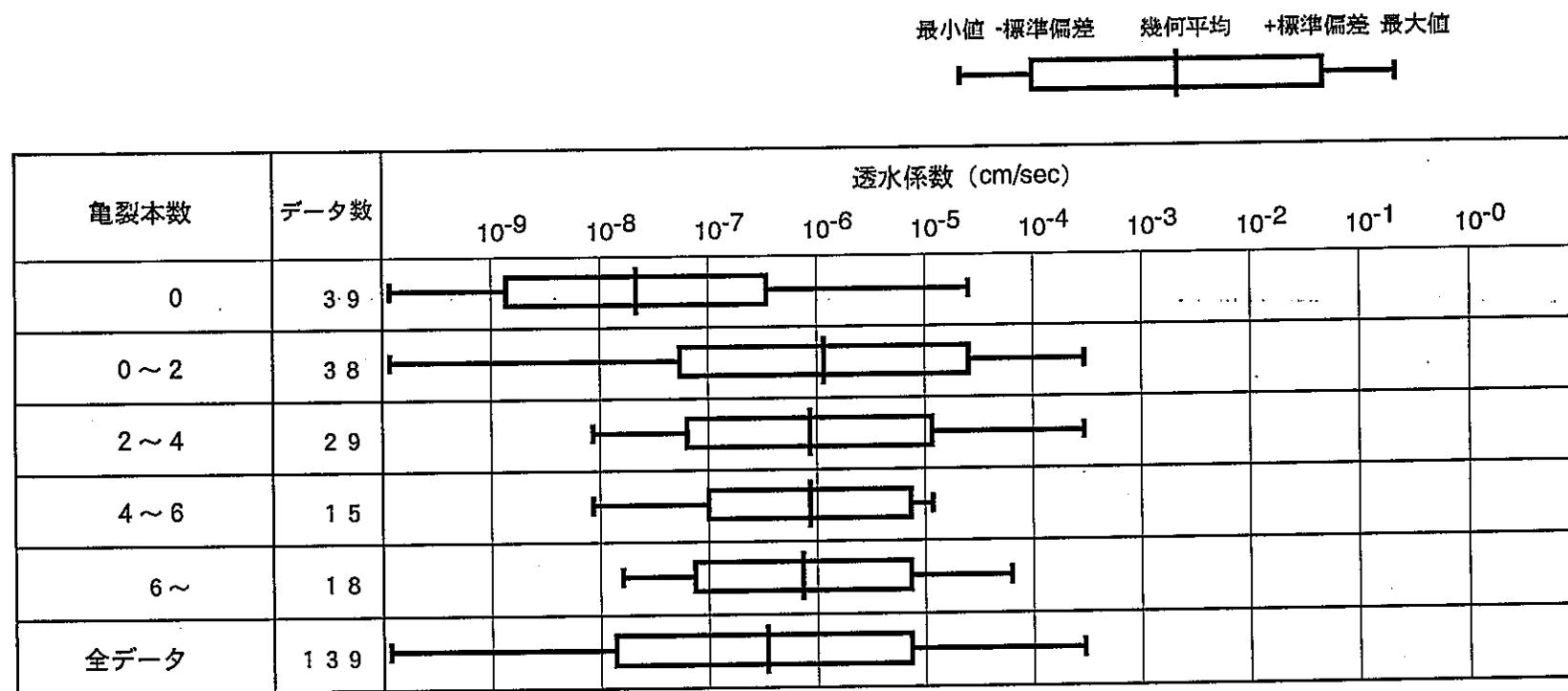


図6-4 亀裂本数別透水係数分布（開口亀裂）

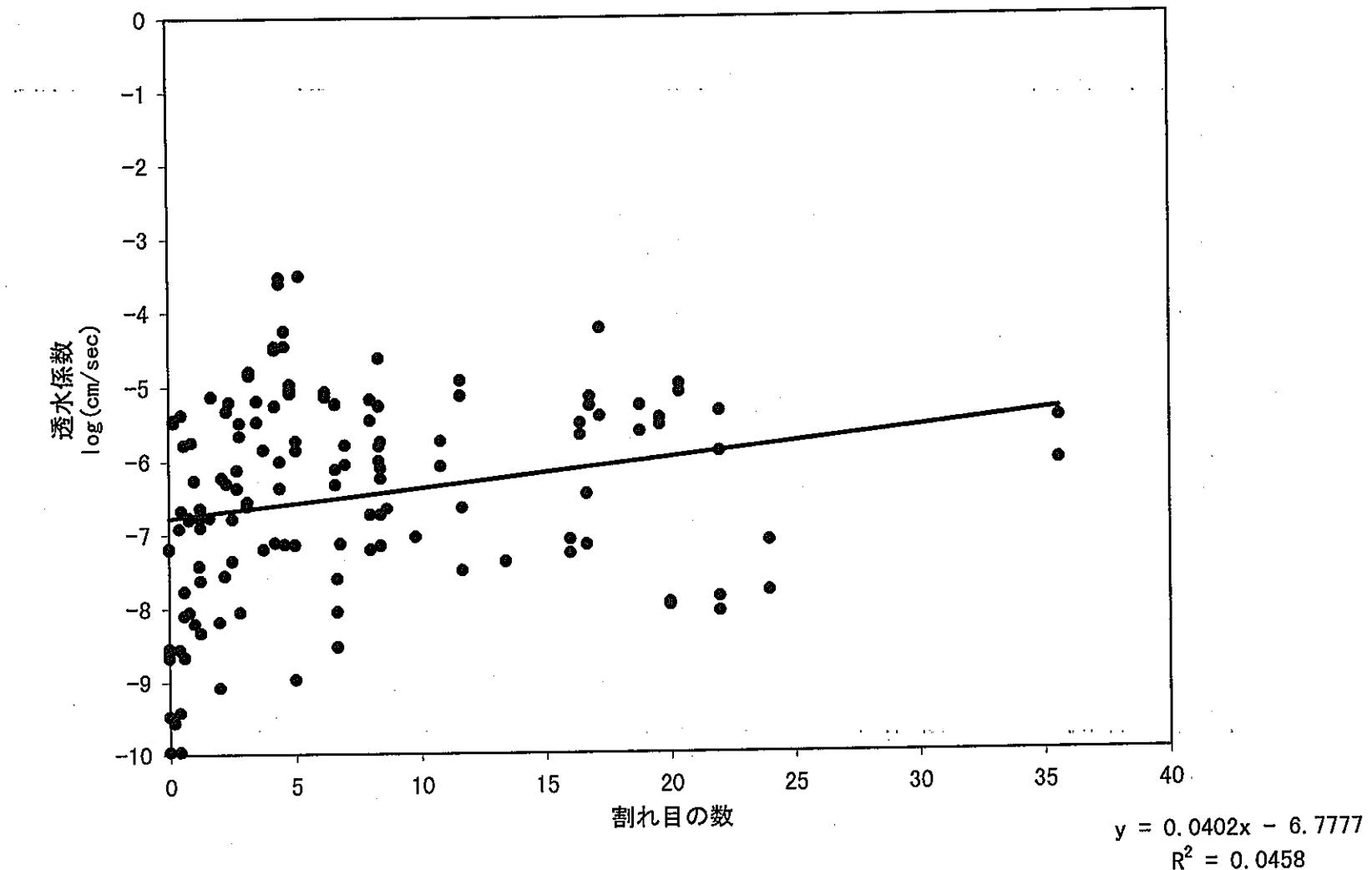


図6-5 割れ目の数と透水係数の関係  
(全亀裂)

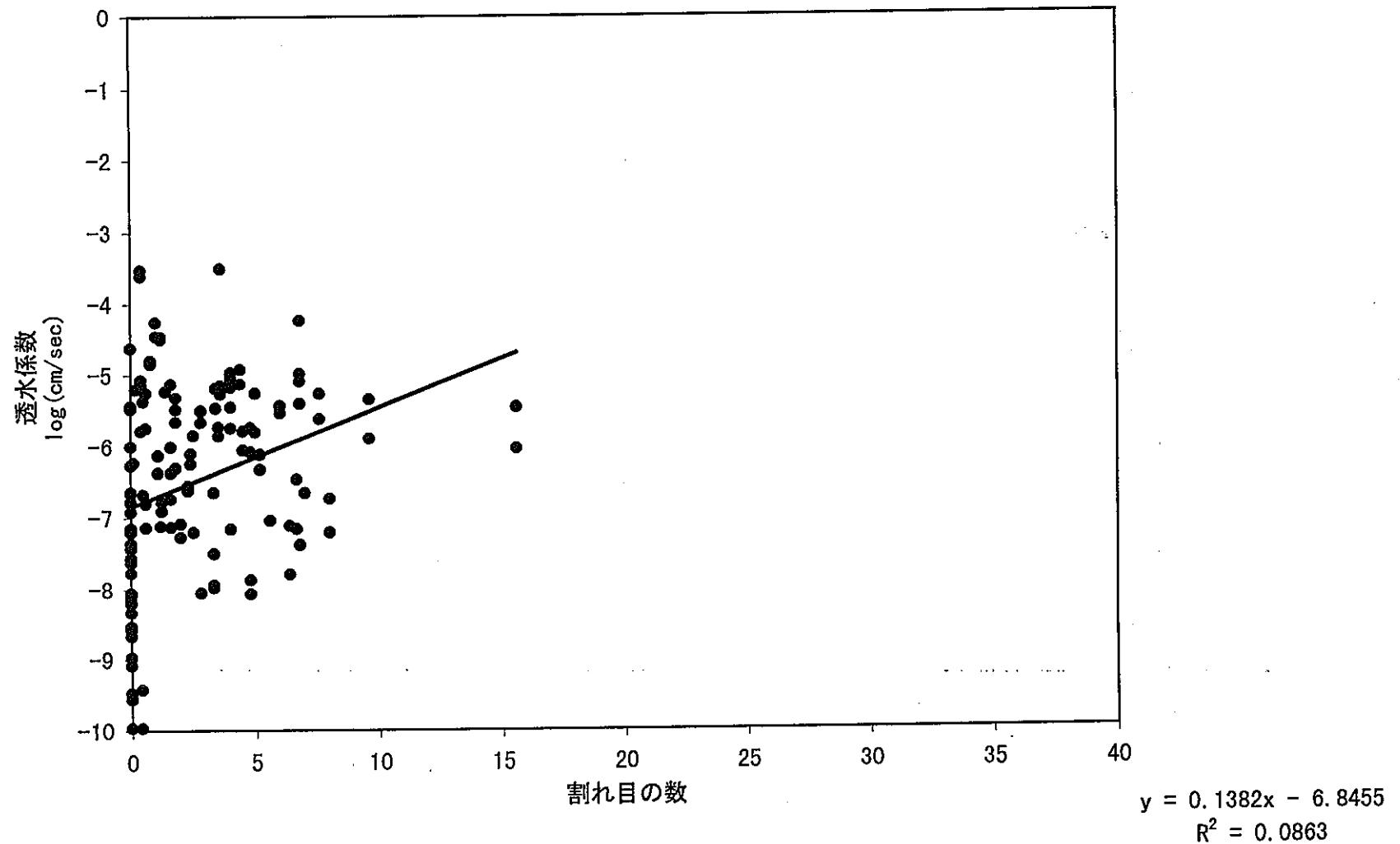


図6-6 割れ目の数と透水係数の関係  
(開口亀裂)

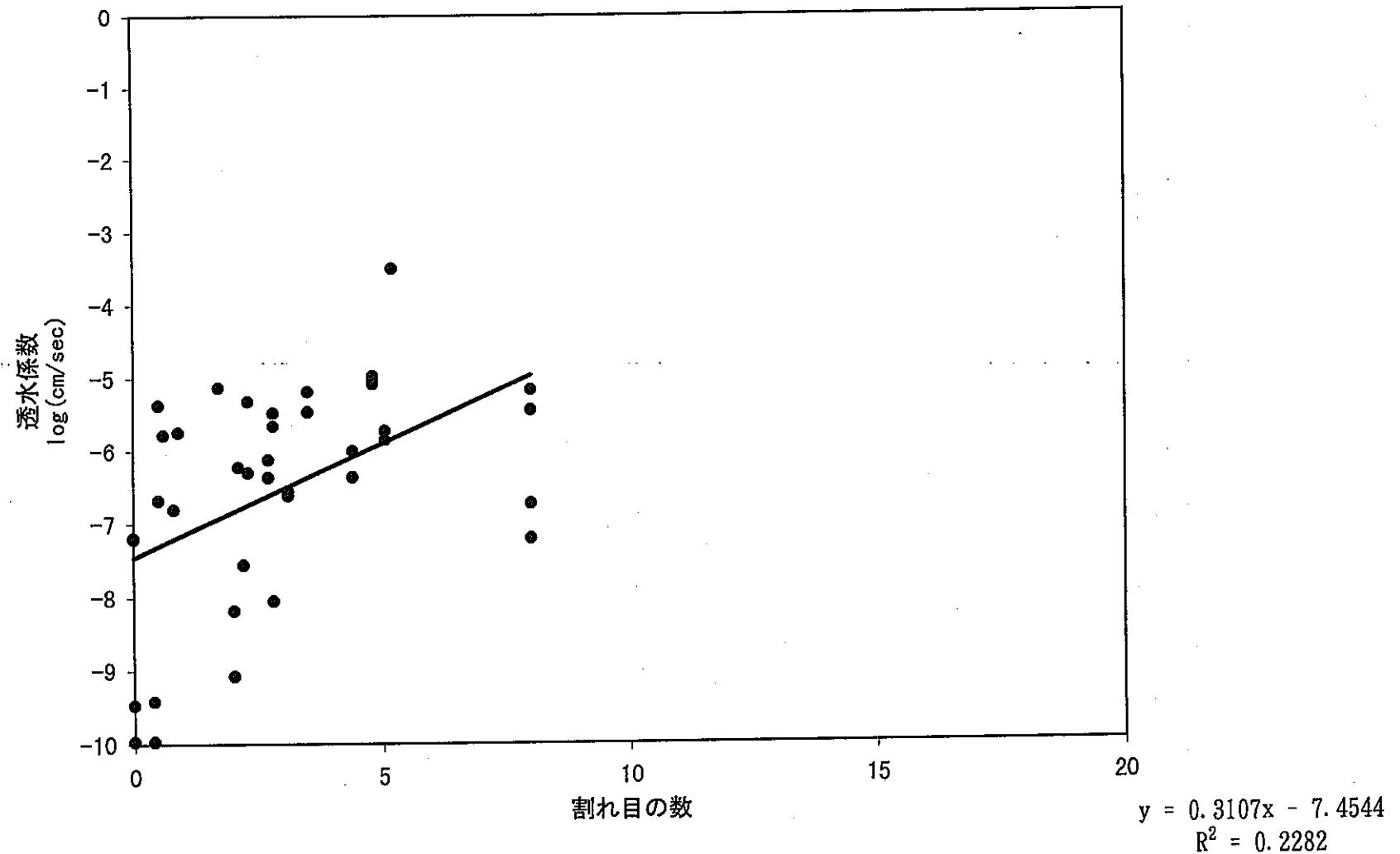


図6-7 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH1孔:全亀裂)

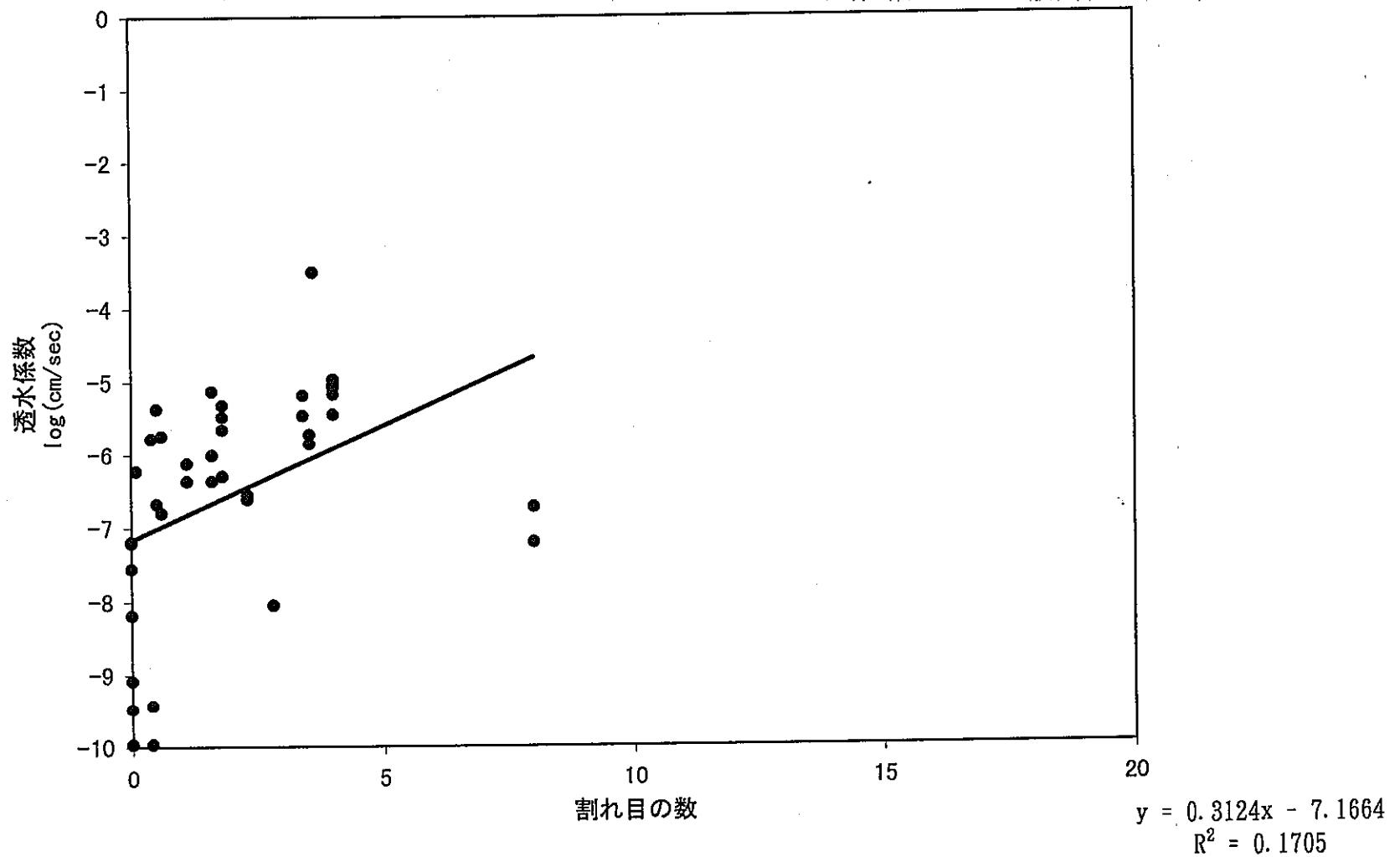


図6-8 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH1孔:開口亀裂)

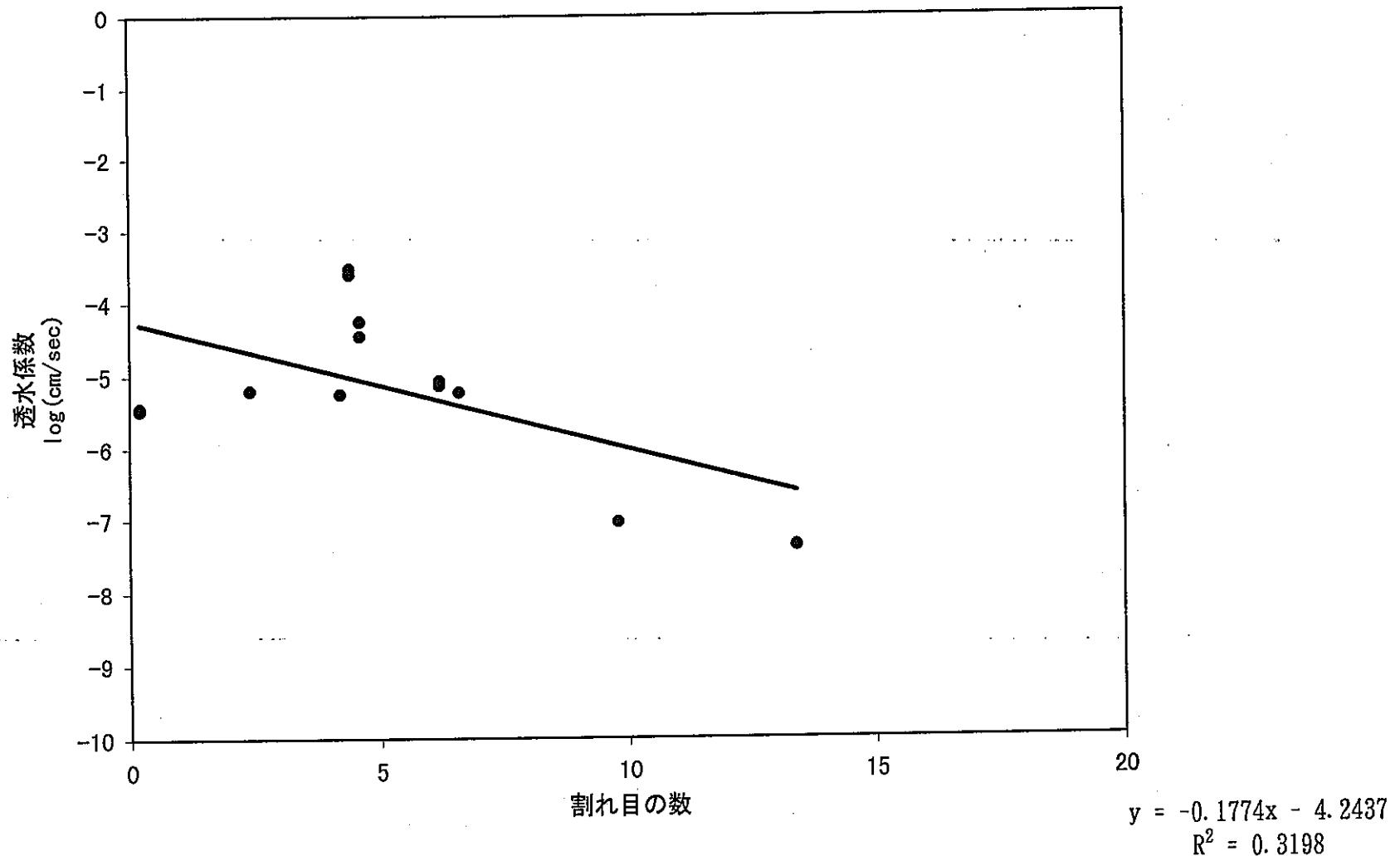


図6-9 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH2孔：全亀裂)

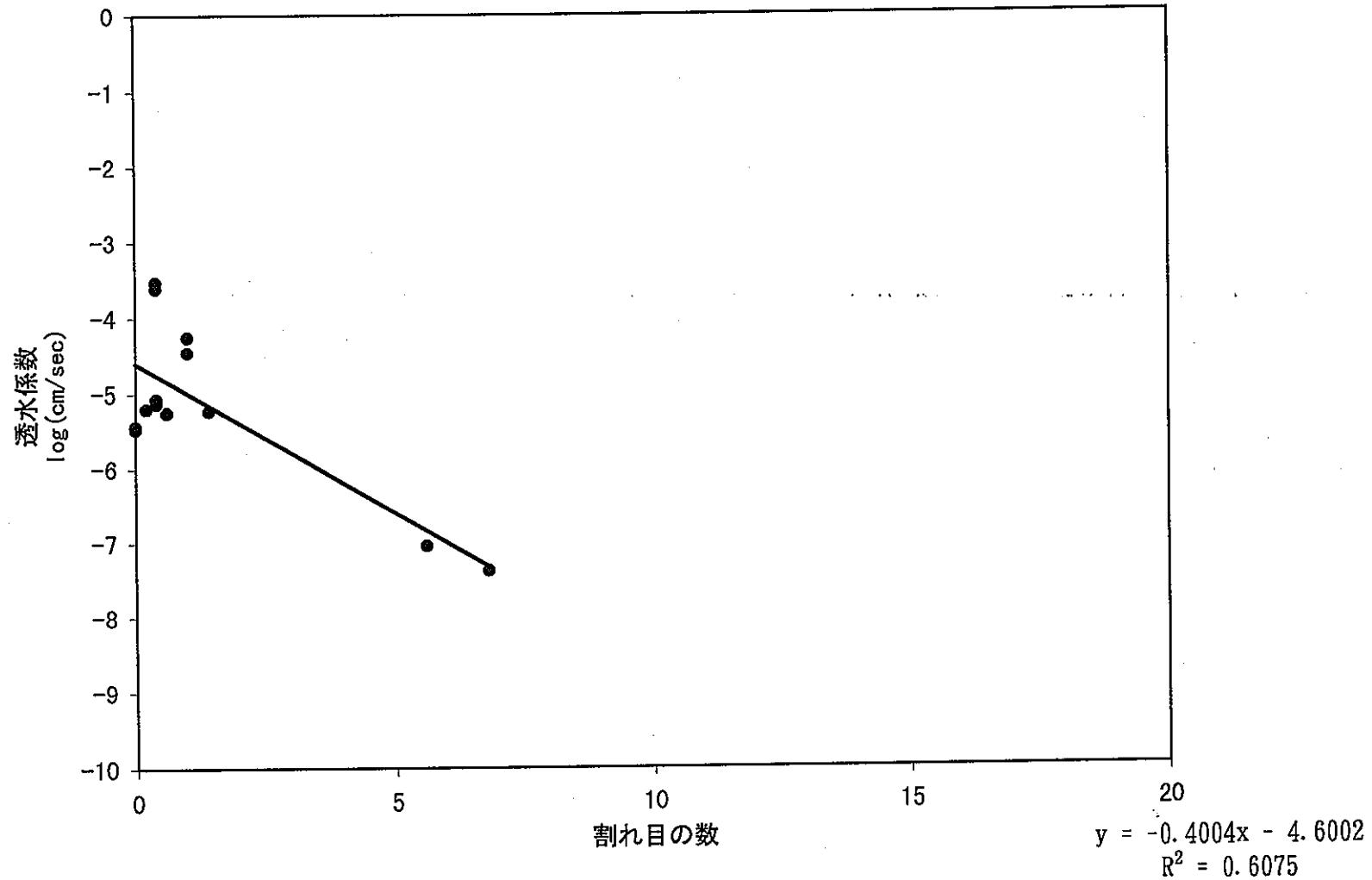


図6-10 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH2孔 : 開口亀裂)

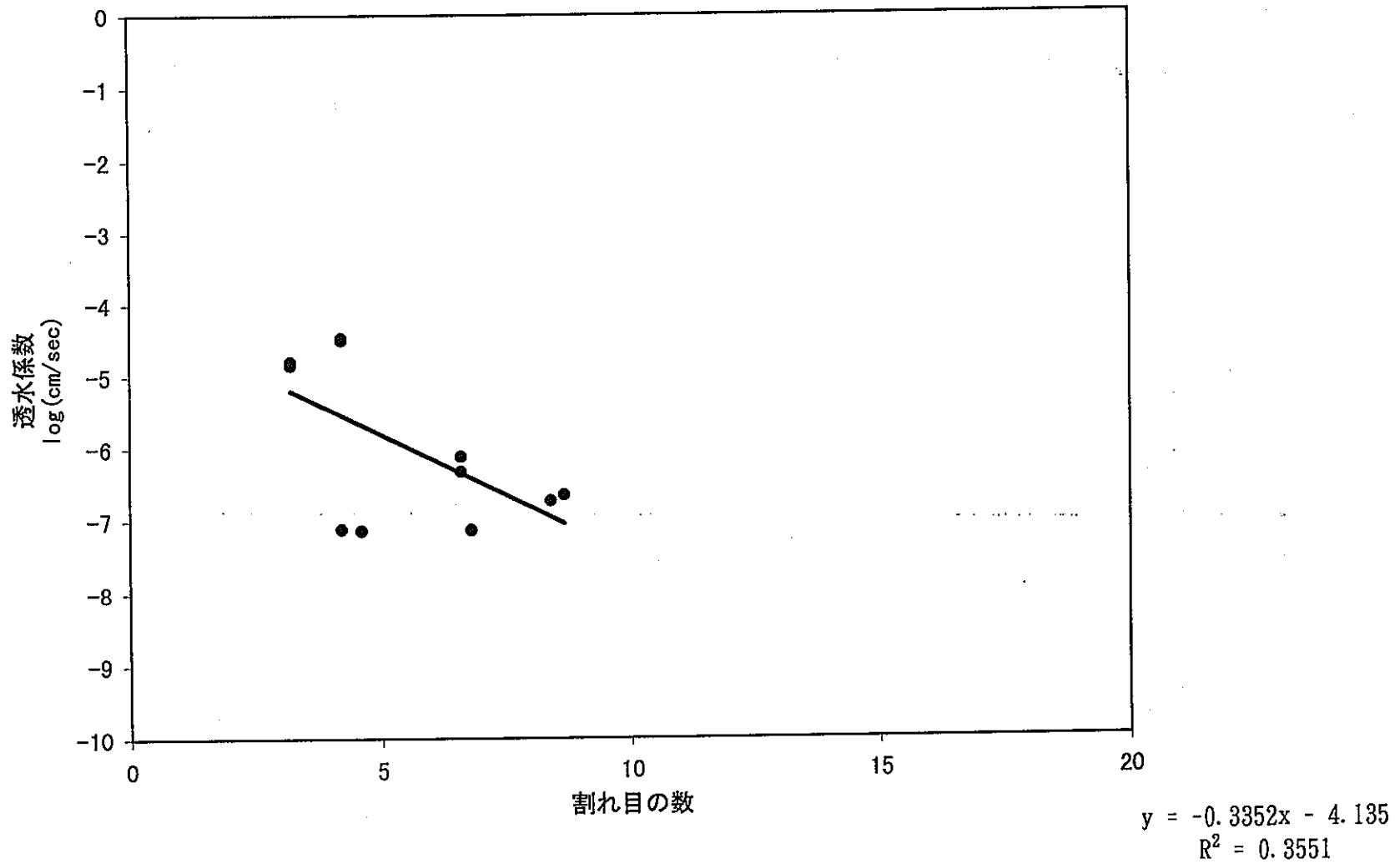


図6-11 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH3孔:全亀裂)

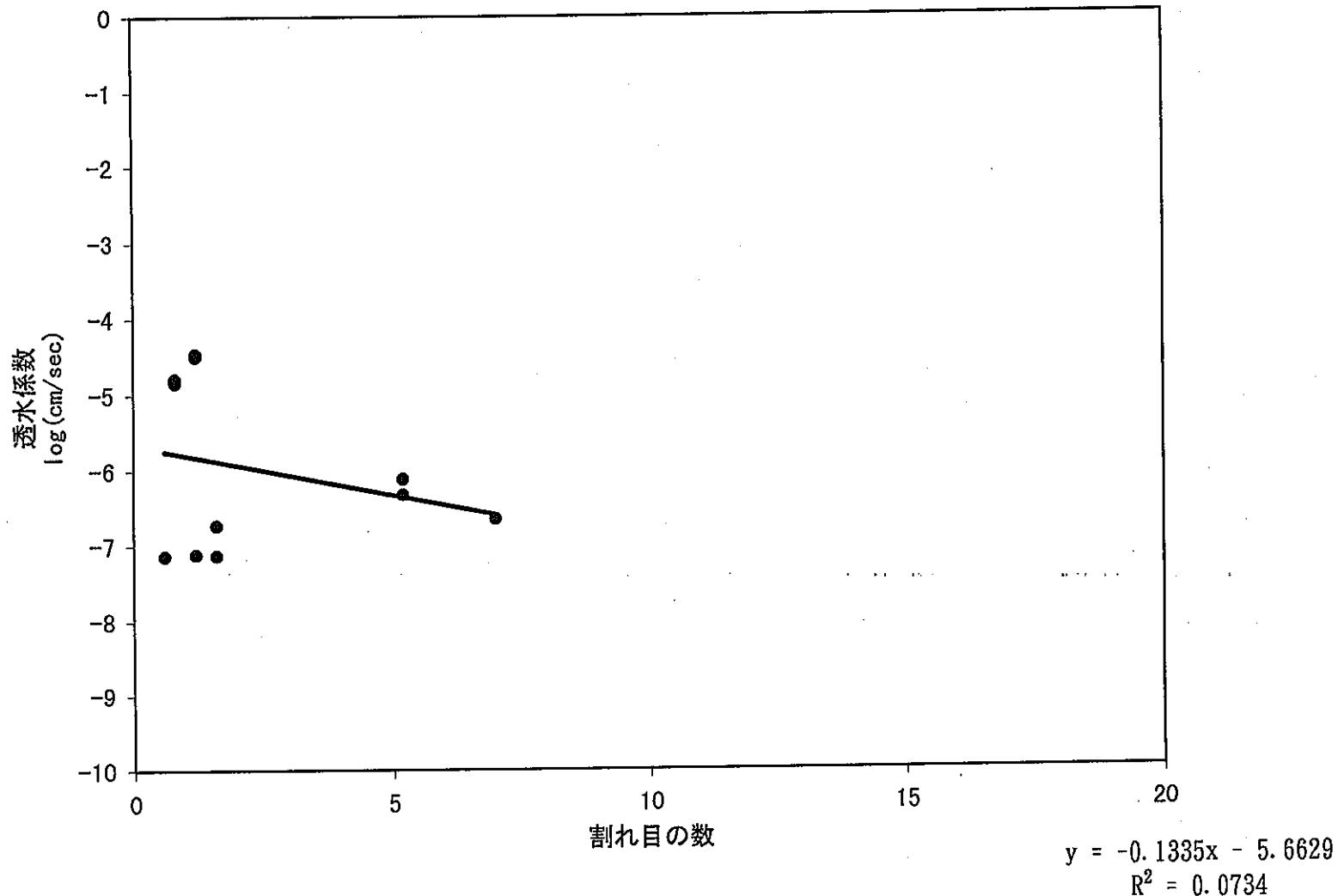


図6-12 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH3孔:開口亀裂)

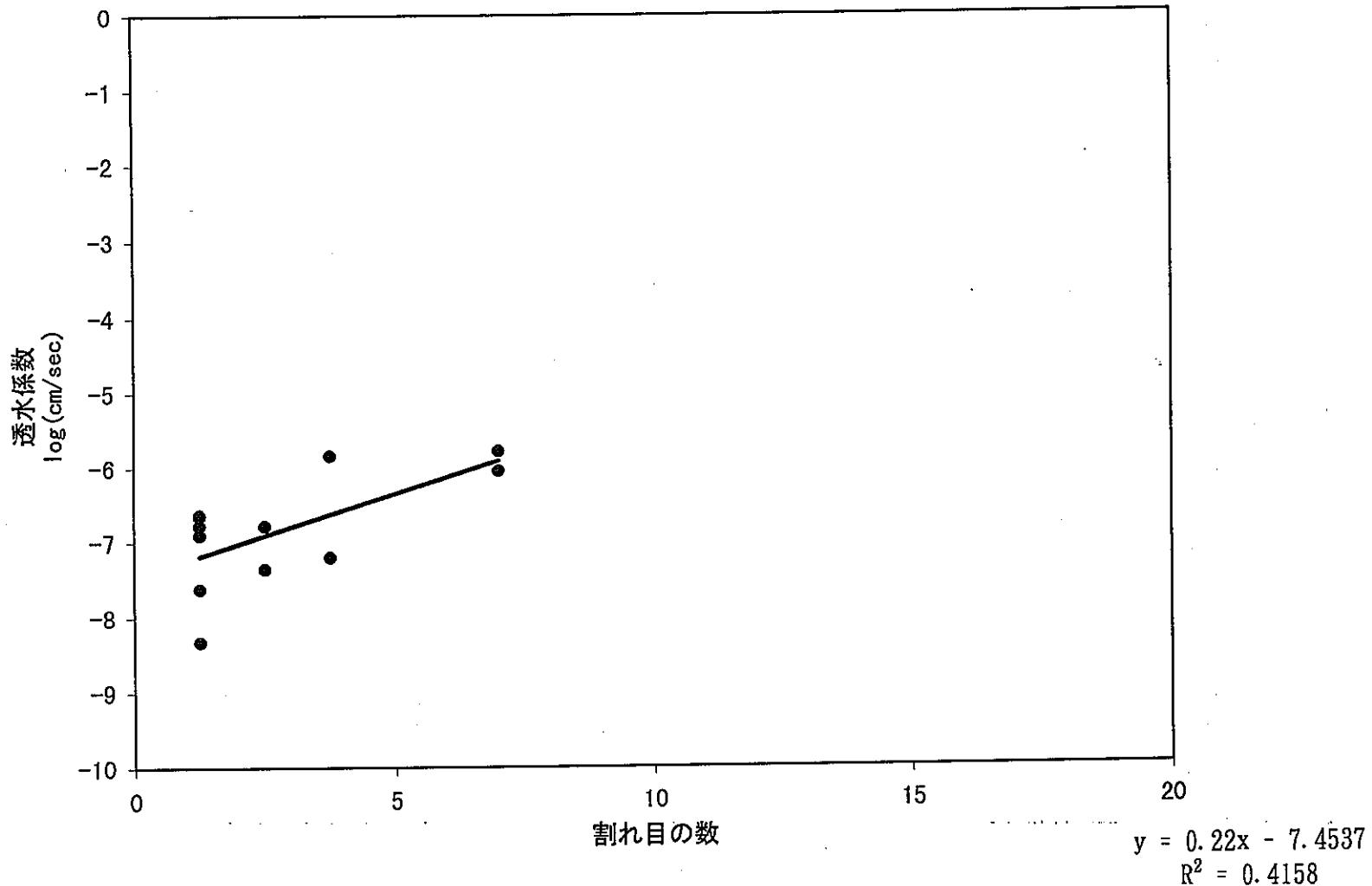


図6-13 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE3孔:全亀裂)

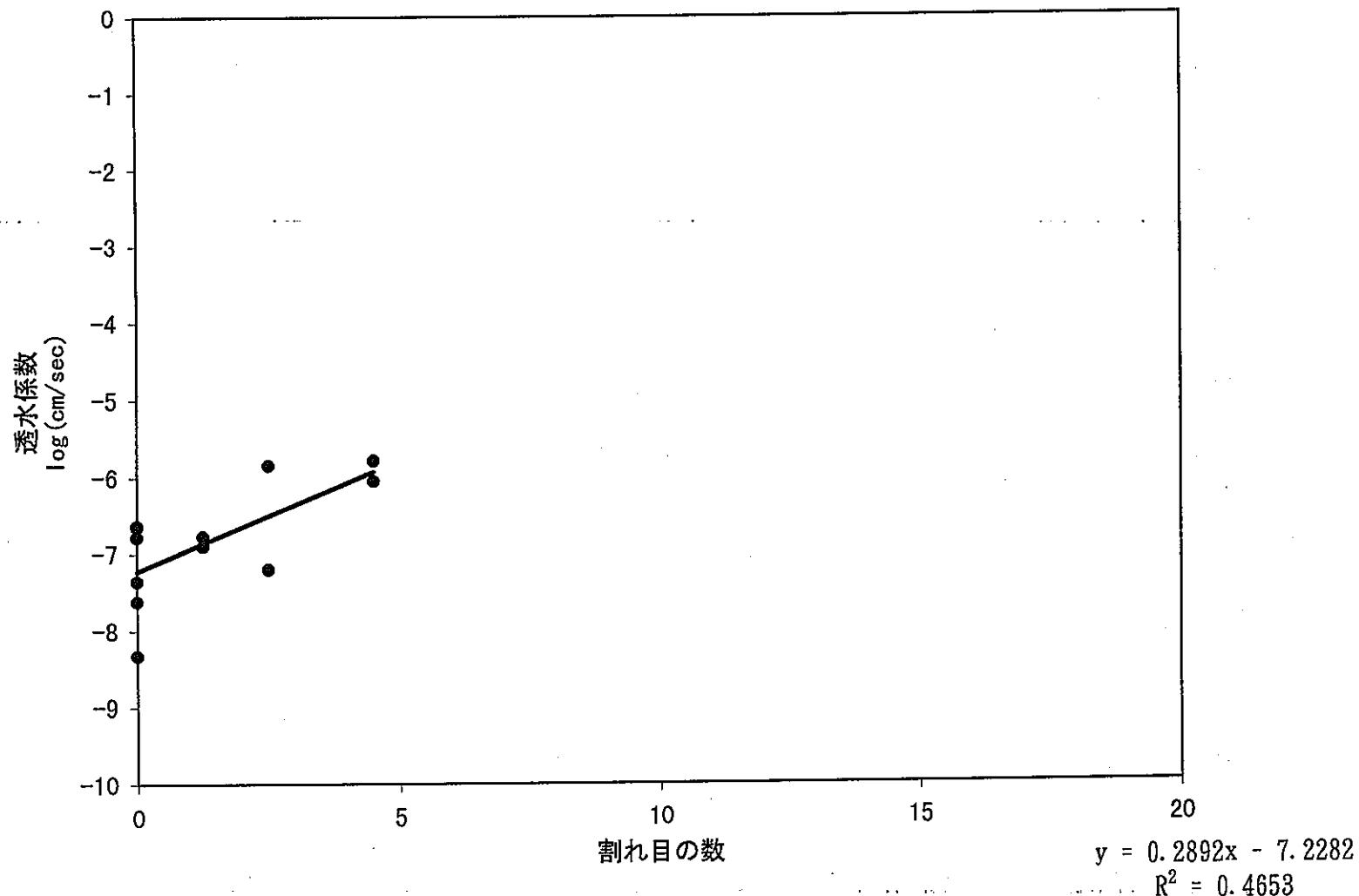


図6-14 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE3孔:開口亀裂)

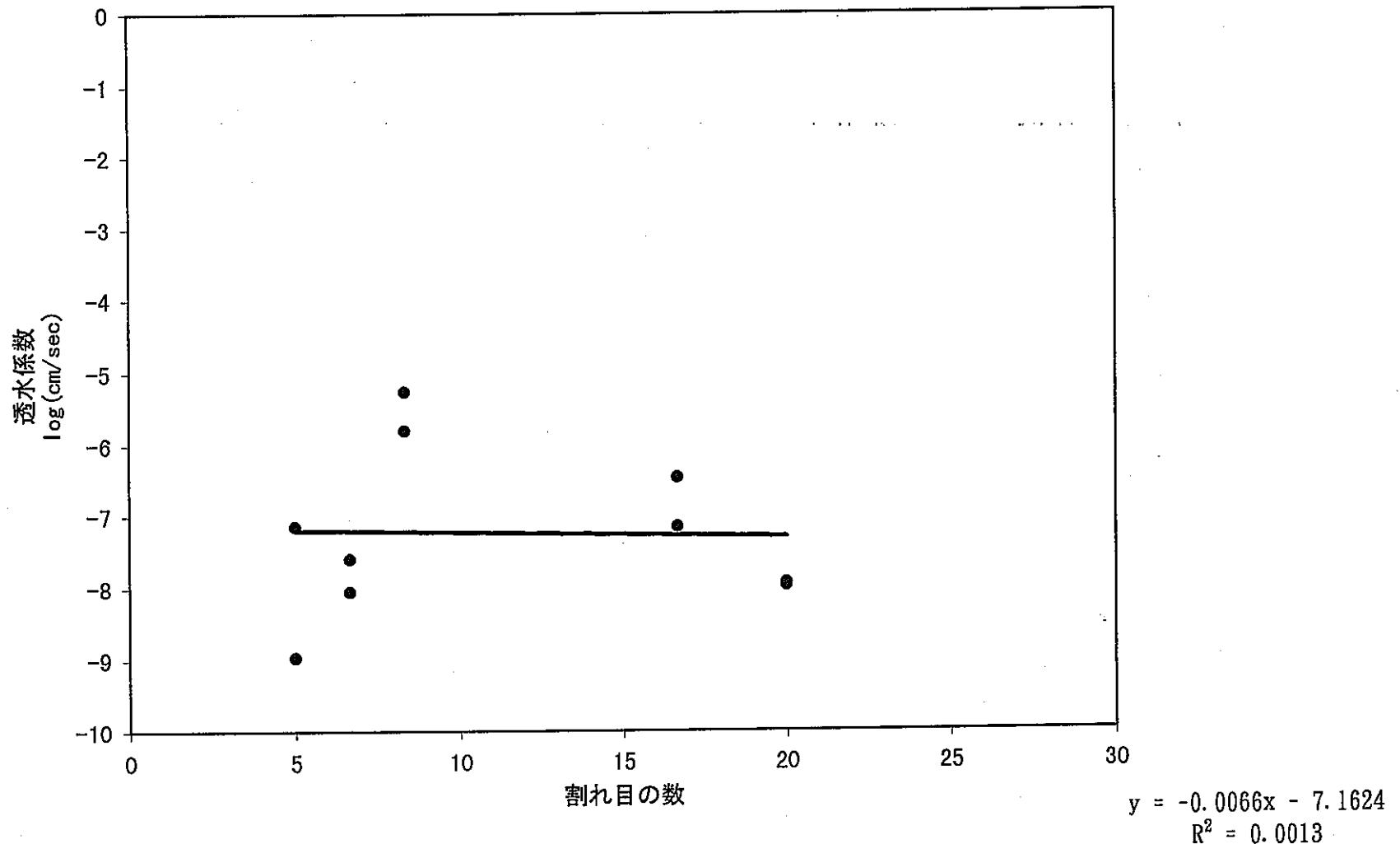
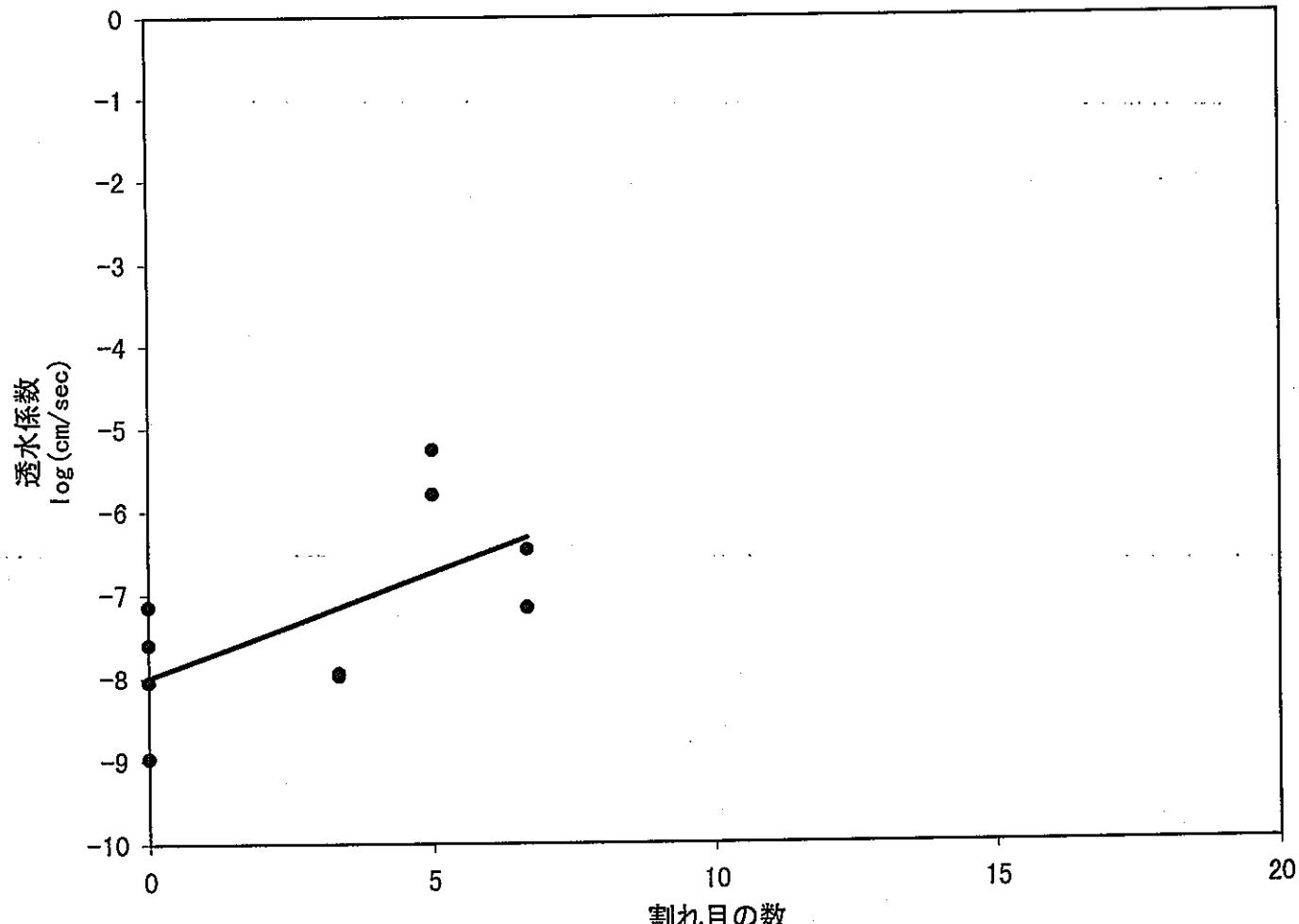


図6-15 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE6孔:全亀裂)



$$y = 0.2518x - 7.9931$$
$$R^2 = 0.3956$$

図6-16 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE6孔:開口亀裂)

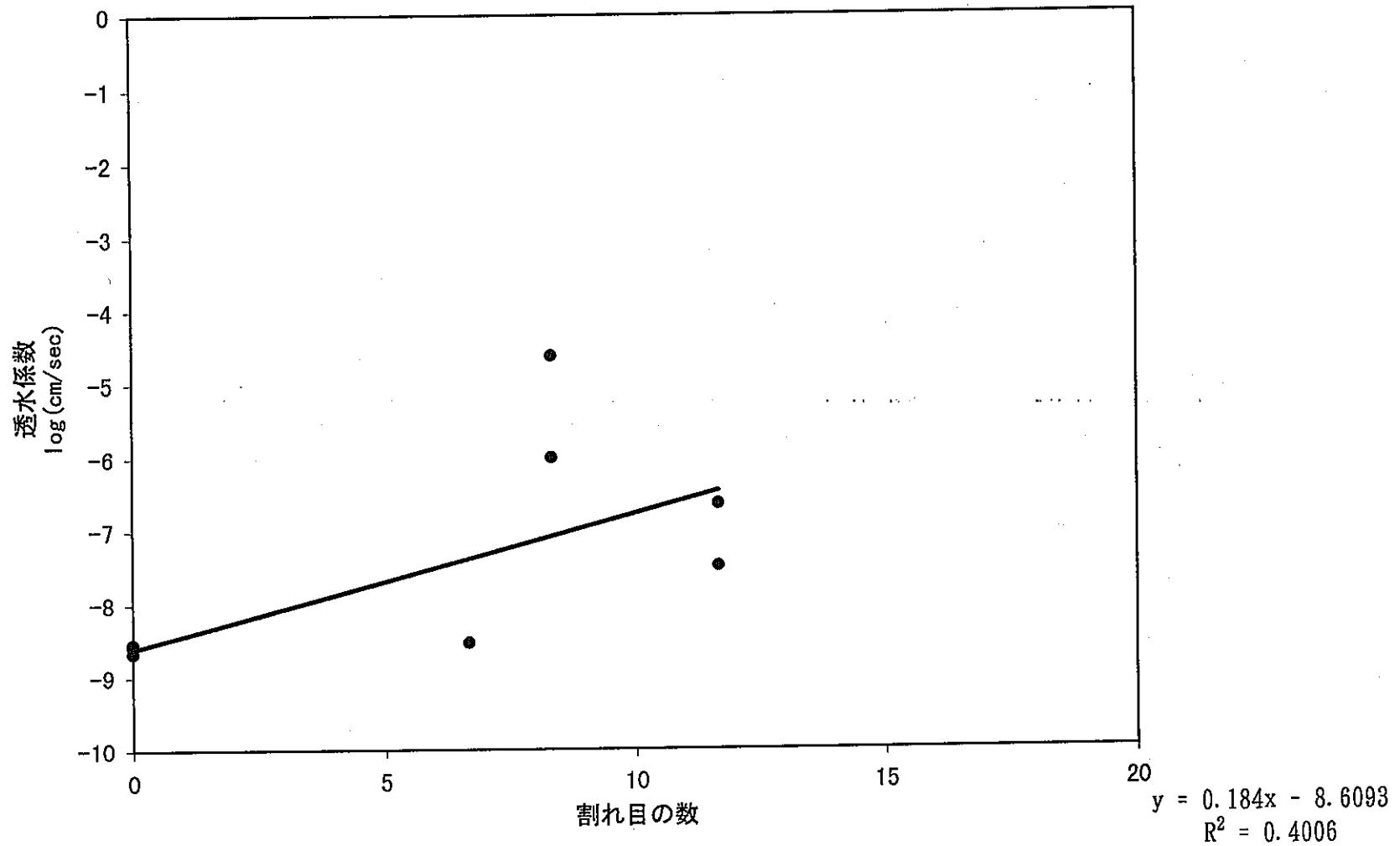


図6-17 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE7孔:全亀裂)

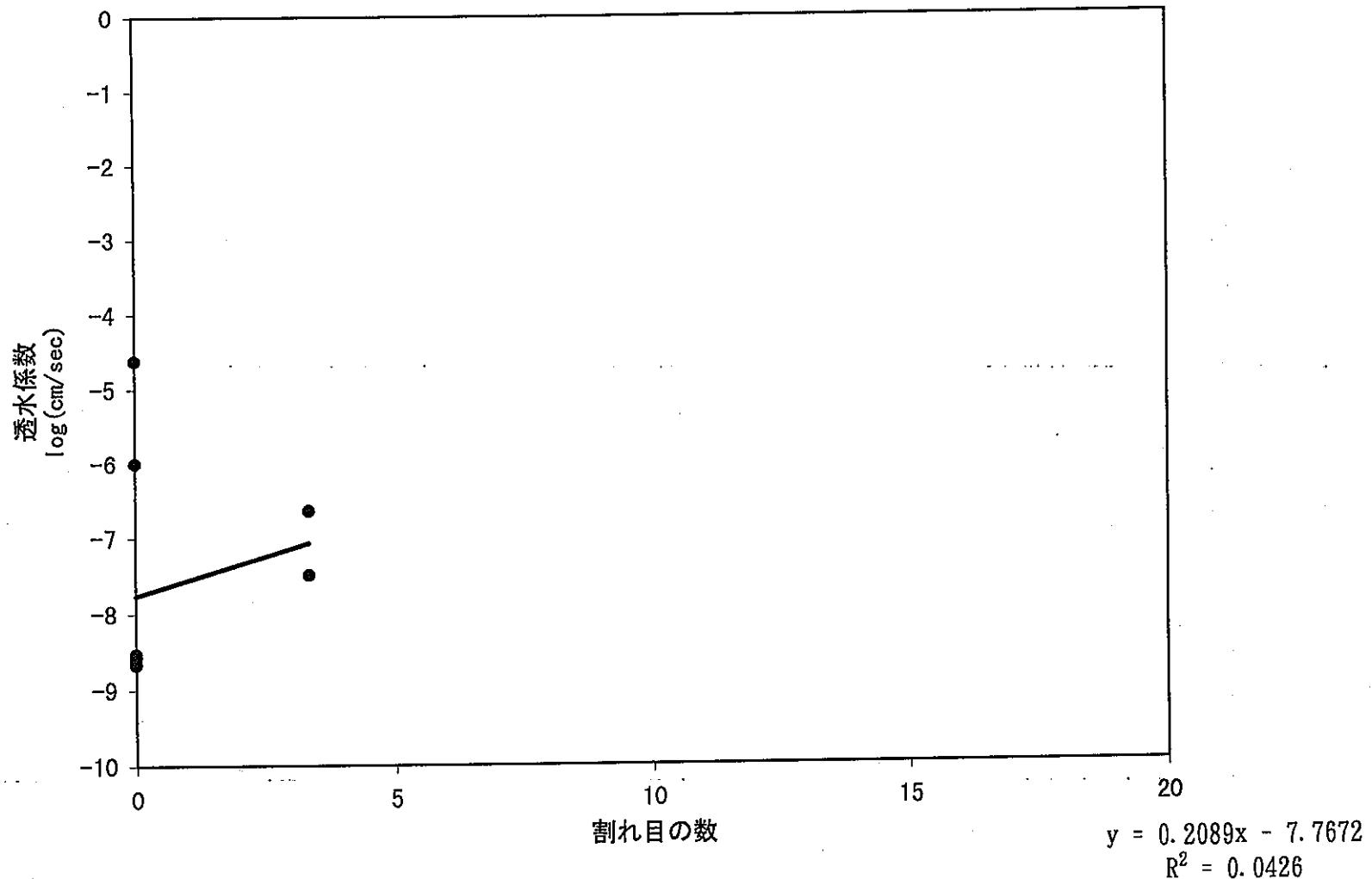


図6-18 割れ目の数と透水係数の関係  
(KE7孔: 開口亀裂)

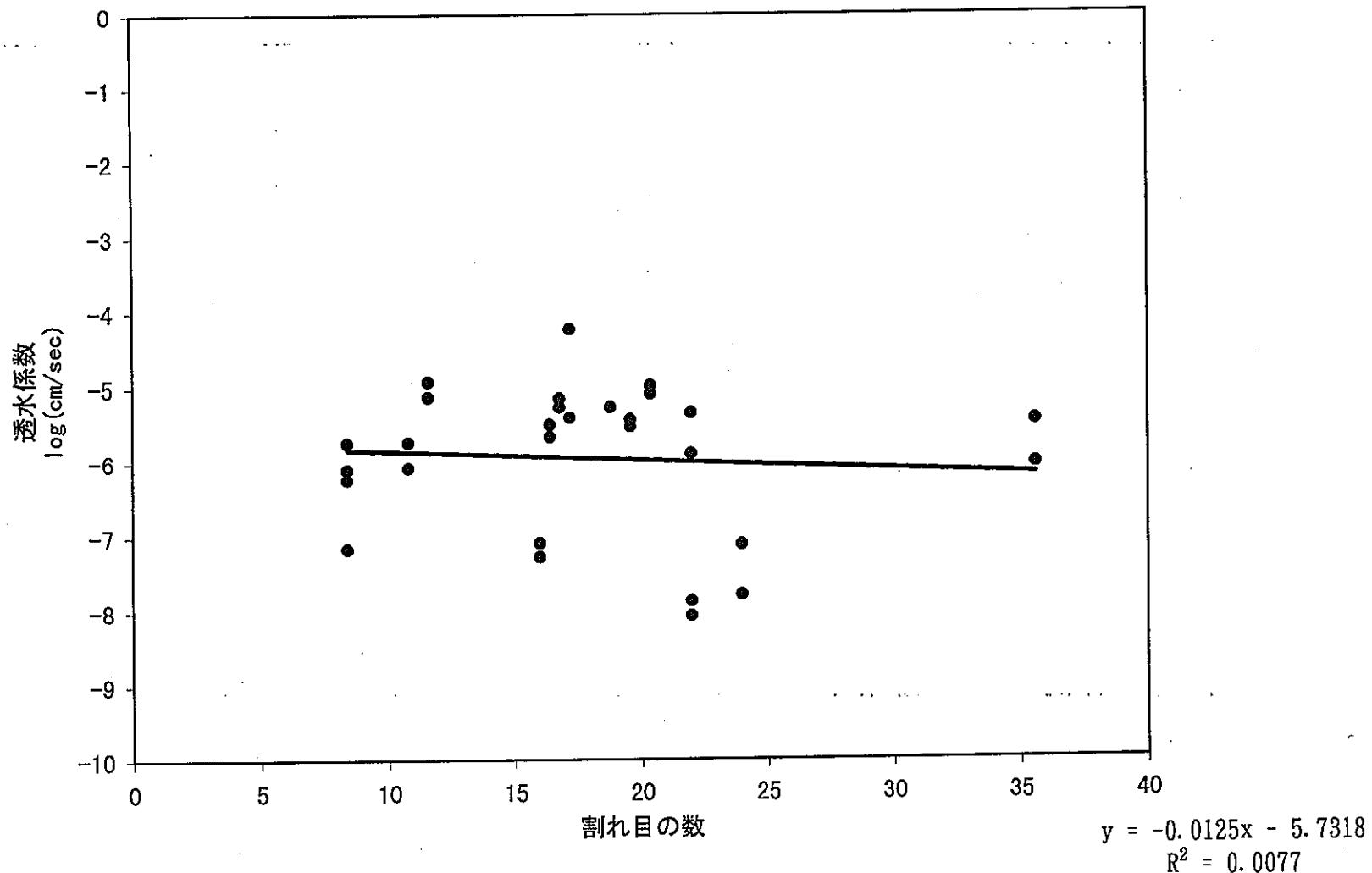


図6-19 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH5孔:全亀裂)

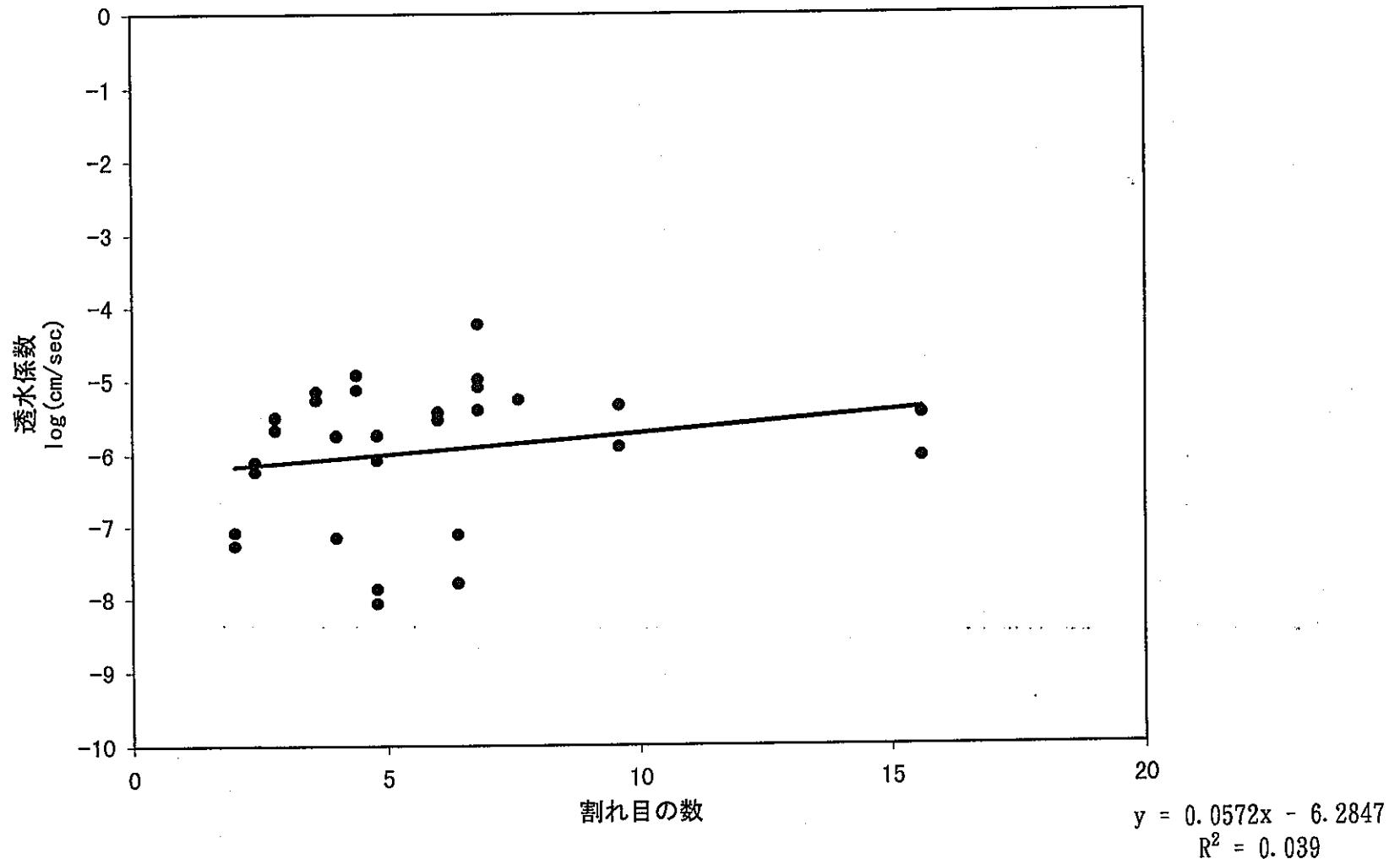


図6-20 割れ目の数と透水係数の関係  
(KH5孔:開口亀裂)

## 7. トンネル湧水量データベースによる透水性の検討

### 7.1. 解析データの概要

解析データの概要を以下の表7-1に示す。

表7-1 解析データ数

	少	多	計
結晶質岩（酸性岩）	92	24	116
結晶質岩（塩基性岩）	6	0	6
新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）	62	2	64
新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	82	10	92
古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）	24	4	28
古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	44	18	62
その他の岩種	84	49	133

### 7.2. 各岩種ごとの破碎状況の違いによる湧水量

#### (1) 結晶質岩（酸性岩）

対象としたデータは116件である。このうち、破碎帶の少ないトンネルの湧水量の平均値は $1.91 \times 10^{-1} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ 、破碎帶の多いトンネルの湧水量の平均値は $7.48 \times 10^{-1} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ と求められ、破碎帶の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

#### (2) 結晶質岩（塩基性岩）

対象としたデータは6件で、全て破碎帶の少ないトンネルである。湧水量の平均値は $3.01 \times 10^{-1} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ と求められる。

#### (3) 新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）

対象としたデータは64件である。このうち、破碎帶の少ないトンネルの湧水量の平均値は $1.21 \times 10^{-1} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ 、破碎帶の多いトンネルの湧水量の平均値は $2.67 \times 10^{-1} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ と求められ、破碎帶の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

#### (4) 新第三紀以降の堆積岩（泥質岩）

対象としたデータは92件である。このうち、破碎帶の少ないトンネルの湧水量の平均値は $6.13 \times 10^{-2} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ 、破碎帶の多いトンネルの湧水量の平均値は $6.50 \times 10^{-2} \text{m}^3/\text{min} * \text{km}$ と求められ、破碎帶の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

$1\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ と求められ、破碎帯の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

(5) 古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）

対象としたデータは28件である。このうち、破碎帯の少ないトンネルの湧水量の平均値は $8.74 \times 10^{-2}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ 、破碎帯の多いトンネルの湧水量の平均値は $8.28 \times 10^{-1}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ と求められ、破碎帯の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

(6) 古第三紀以前の堆積岩（泥質岩）

対象としたデータは62件である。このうち、破碎帯の少ないトンネルの湧水量の平均値は $1.01 \times 10^{-1}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ 、破碎帯の多いトンネルの湧水量の平均値は $2.50 \times 10^{-1}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ と求められ、破碎帯の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

(7) その他の岩種

対象としたデータは131件である。このうち、破碎帯の少ないトンネルの湧水量の平均値は $2.39 \times 10^{-1}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ 、破碎帯の多いトンネルの湧水量の平均値は $5.94 \times 10^{-1}\text{m}^3/\text{min} \cdot \text{km}$ と求められ、破碎帯の多いトンネルの方が湧水量が多い傾向が認められる。

### 7.3. トンネル湧水量の一般的傾向

破碎帯の多少による湧水量の違いについては、全ての岩種において、破碎帯の多いトンネルほど多量の湧水が認められ、その差は $10^{0.5} \sim 10^1$ 程度である。また、岩種の違いによる湧水量の違いはほとんど認められない。

表7-2 岩種区分・破碎状態別湧水量

岩種区分	破碎帶の数	データの数	幾可平均値	最小値	最大値	対数平均値	対数最小値	対数最大値	対数標準偏差
結晶質岩（酸性岩）	少	92	1.91E-01	1.00E-03	2.68E+00	-0.7199	-3.0000	0.4281	0.6866
結晶質岩（酸性岩）	多	24	7.48E-01	1.09E-01	3.75E+00	-0.1260	-0.9626	0.5735	0.4051
結晶質岩（酸性岩）	全データ	116	2.53E-01	1.00E-03	3.75E+00	-0.5970	-3.0000	0.5735	0.6814
結晶質岩（塙基性岩）	少	6	3.01E-01	1.30E-01	7.55E-01	-0.5219	-0.8861	-0.1221	0.3032
結晶質岩（塙基性岩）	全データ	6	3.01E-01	1.30E-01	7.55E-01	-0.5219	-0.8861	-0.1221	0.3032
新第三系以降の堆積岩（砂質岩）	少	62	1.21E-01	1.00E-03	2.20E+00	-0.9171	-3.0000	0.3418	0.7363
新第三系以降の堆積岩（砂質岩）	多	2	2.67E-01	1.21E-01	5.91E-01	-0.5728	-0.9172	-0.2284	0.4871
新第三系以降の堆積岩（砂質岩）	全データ	64	1.24E-01	1.00E-03	2.20E+00	-0.9064	-3.0000	0.3418	0.7296
新第三系以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	少	82	6.13E-02	1.00E-03	4.53E+00	-1.2127	-3.0000	0.6556	0.7110
新第三系以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	多	10	6.50E-01	2.10E-01	1.35E+00	-0.1872	-0.6778	0.1297	0.2633
新第三系以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	全データ	92	7.92E-02	1.00E-03	4.53E+00	-1.1012	-3.0000	0.6556	0.7482
古第三系以前の堆積岩（砂質岩）	少	24	8.74E-02	1.00E-03	6.24E-01	-1.0586	-3.0000	-0.2048	0.7144
古第三系以前の堆積岩（砂質岩）	多	4	8.28E-01	2.11E-01	2.27E+00	-0.0818	-0.6757	0.3558	0.4549
古第三系以前の堆積岩（砂質岩）	全データ	28	1.20E-01	1.00E-03	2.27E+00	-0.9190	-3.0000	0.3558	0.7609
古第三系以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	少	44	1.01E-01	6.00E-03	1.30E+00	-0.9971	-2.2218	0.1136	0.6038
古第三系以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	多	18	2.50E-01	1.00E-03	1.13E+00	-0.6028	-3.0000	0.0519	0.6417
古第三系以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）	全データ	62	1.31E-01	1.00E-03	1.30E+00	-0.8827	-3.0000	0.1136	0.6358
その他の岩種	少	84	2.39E-01	1.00E-03	1.14E+01	-0.6209	-3.0000	1.0586	0.7569
その他の岩種	多	49	5.94E-01	1.00E-03	9.18E+00	-0.2260	-3.0000	0.9630	0.7832
その他の岩種	全データ	133	3.35E-01	1.00E-03	1.14E+01	-0.4754	-3.0000	1.0586	0.7873

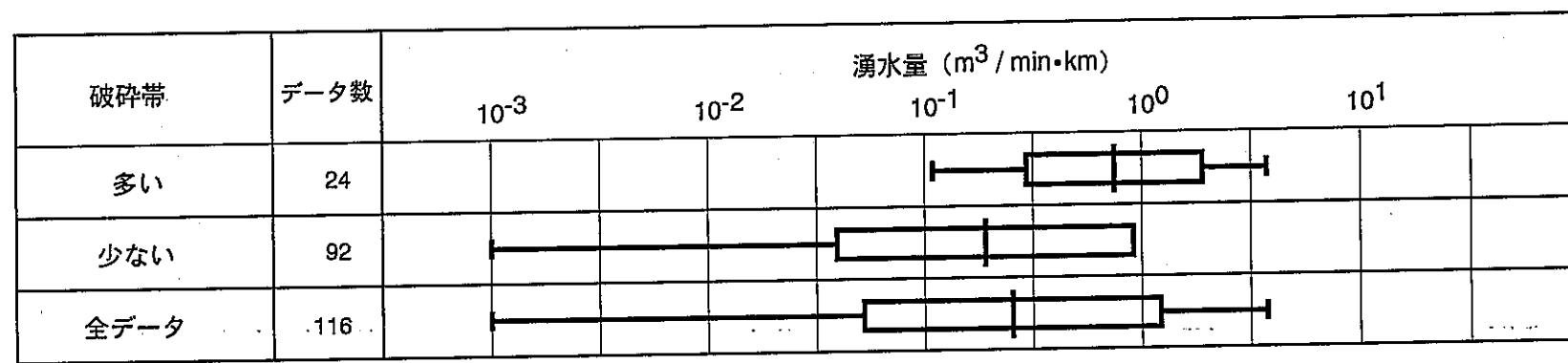


図 7-1 岩種区分・破碎状態別湧水量分布  
結晶質岩（酸性岩）

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値



破碎帶	データ数	湧水量 ( $m^3 / min \cdot km$ )									
		$10^{-3}$	$10^{-2}$	$10^{-1}$	$10^0$	$10^1$					
多い											
少ない	6										
全データ	6										

図 7-2 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

結晶質岩(塩基性岩)

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値

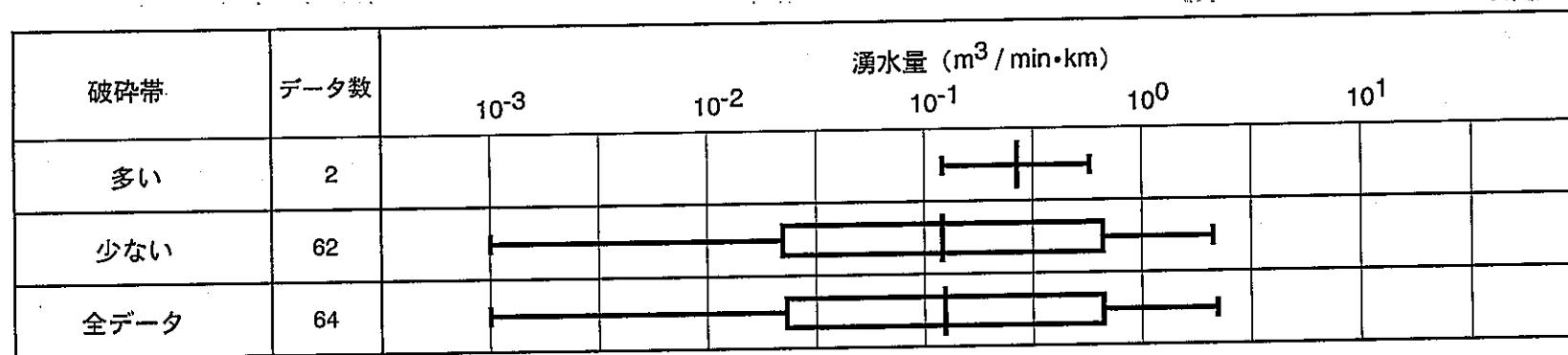
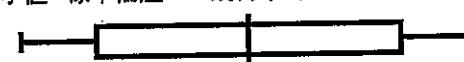


図 7-3 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

新第三紀以降の堆積岩（砂質岩）

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値

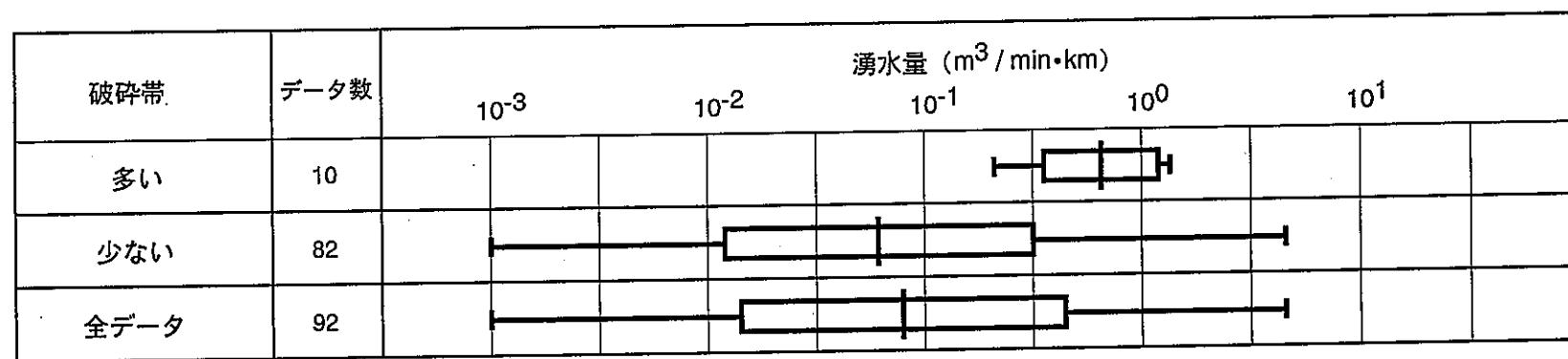


図 7-4 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値

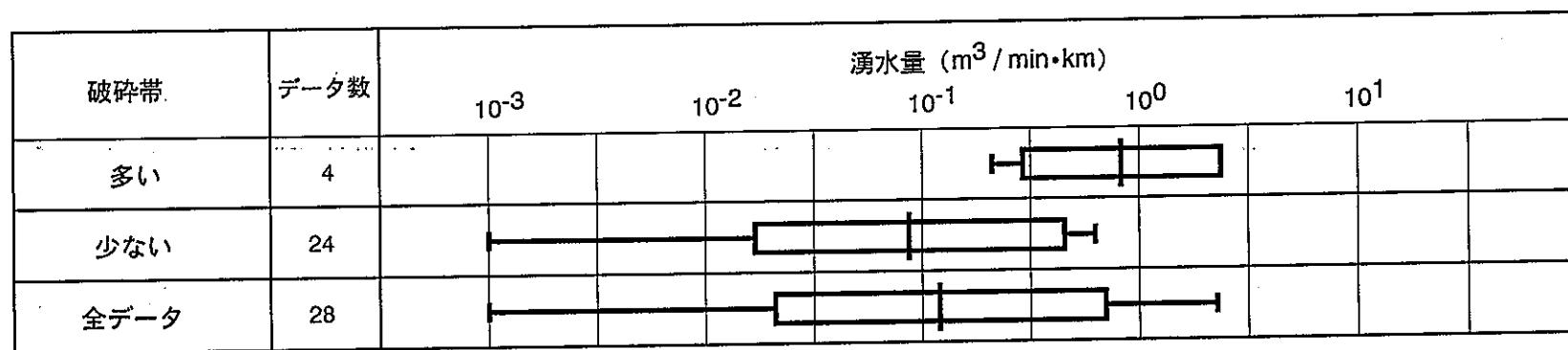


図 7-5 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

古第三系以前の堆積岩（砂質岩）

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値

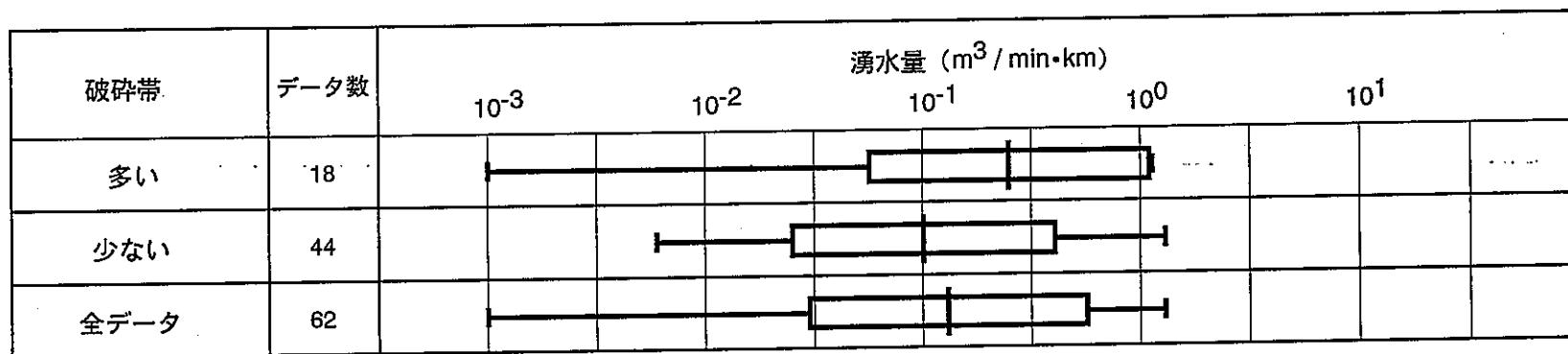


図 7-6 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

古第三系以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値

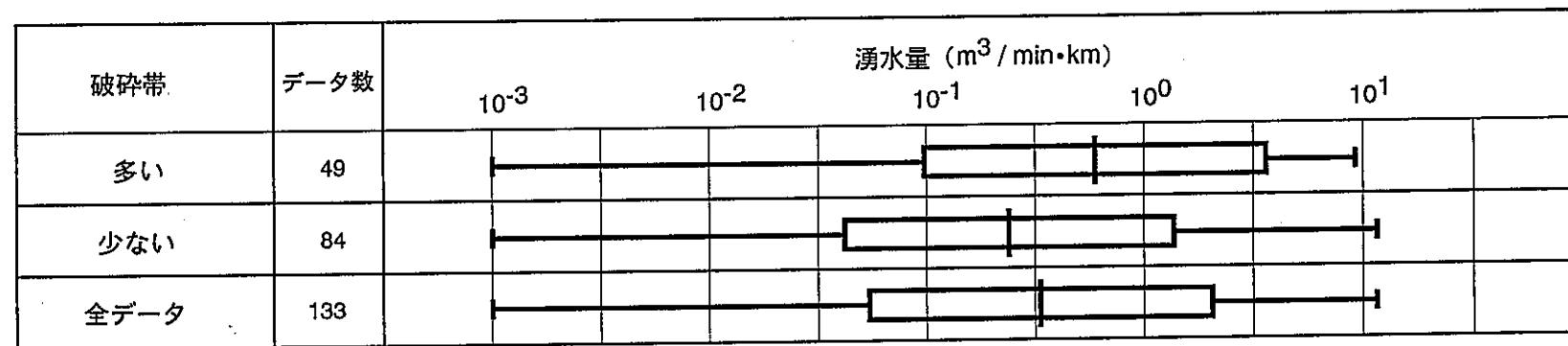
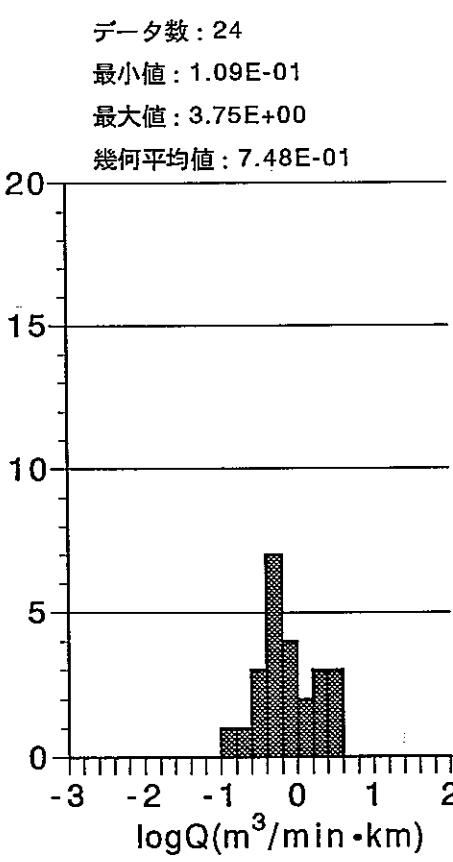
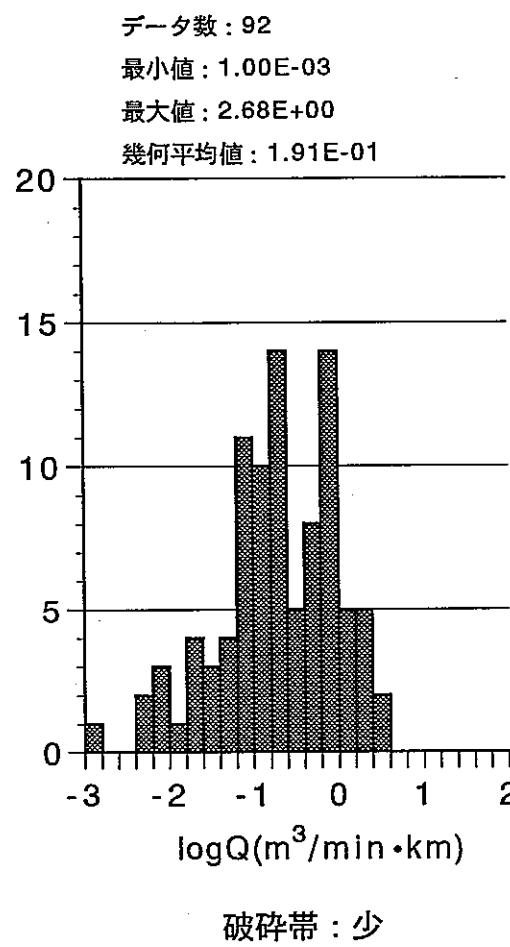
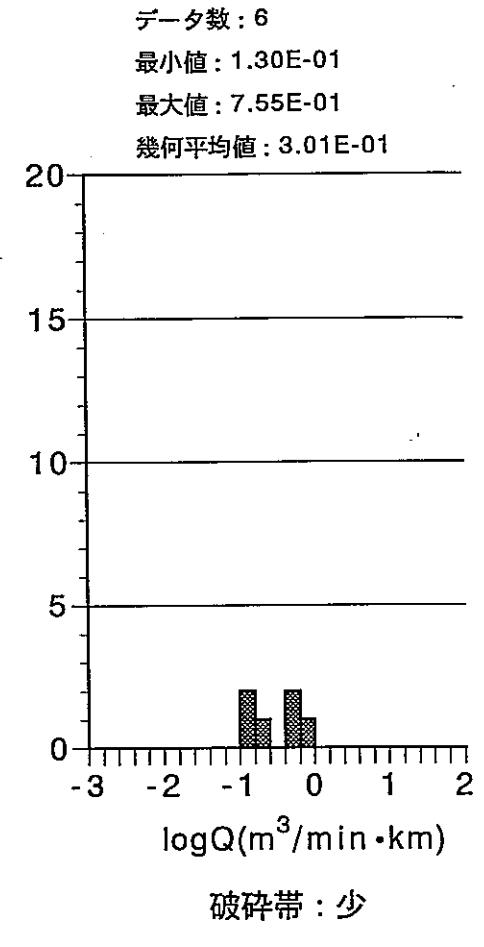


図 7-7 岩種区分・破碎状態別湧水量分布

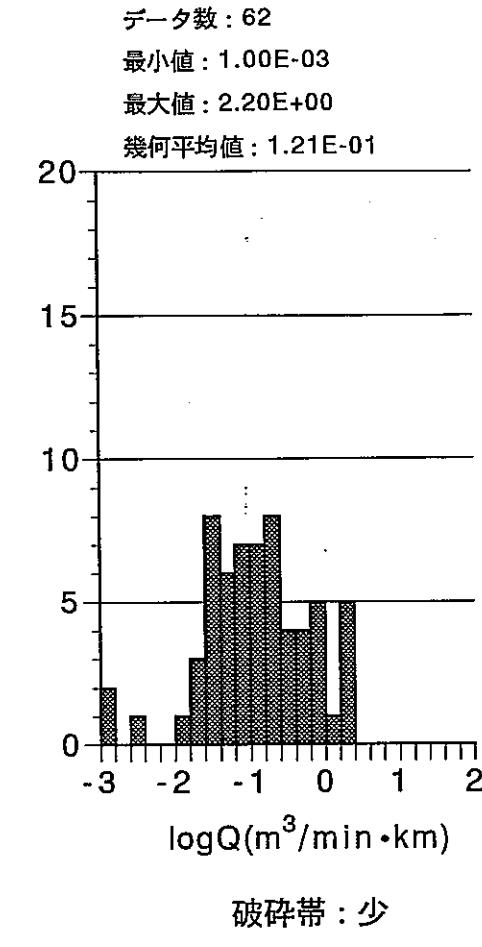
その他の岩種



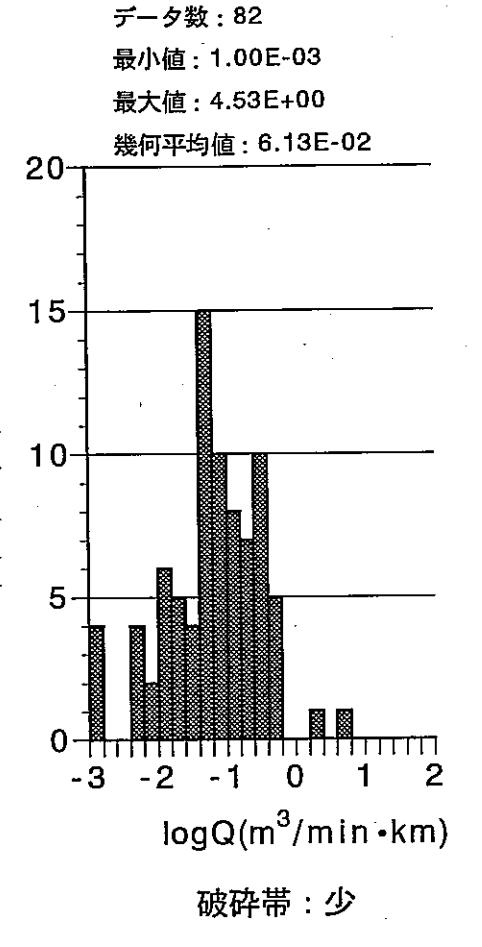
結晶質岩(酸性岩)



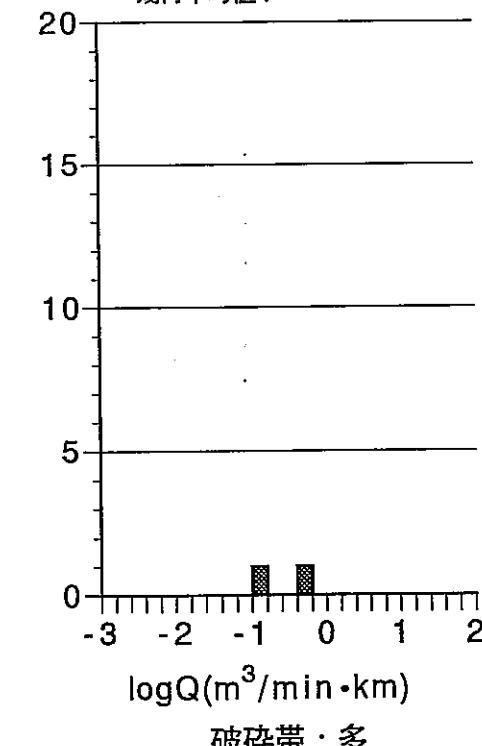
結晶質岩 (塩基性)



新第三紀以降の砂質岩



データ数 : 10  
最小値 : 2.10E-01  
最大値 : 1.35E+00  
幾何平均値 : 6.50E-01



新第三紀以降の泥質岩・凝灰質岩

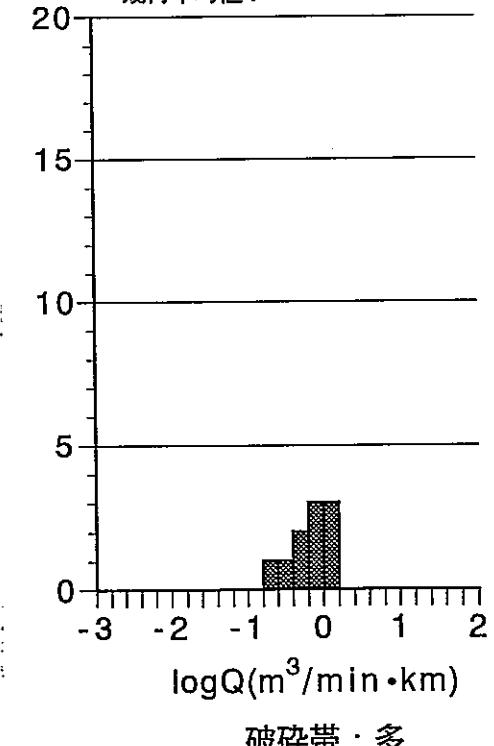
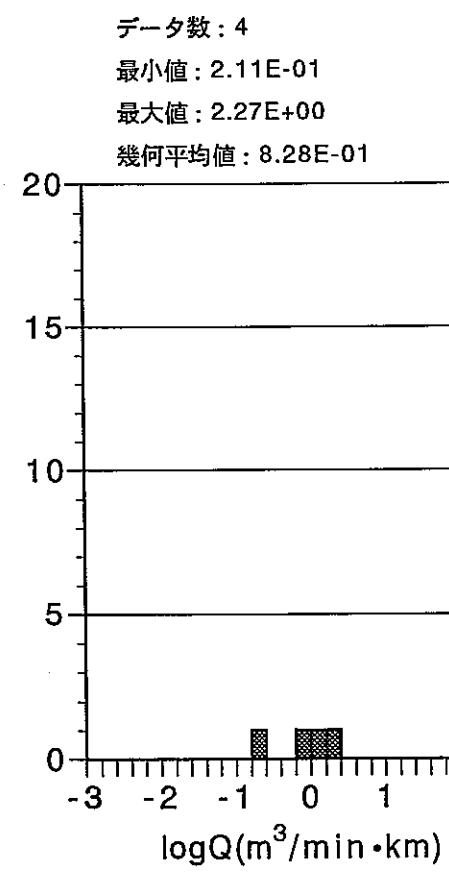
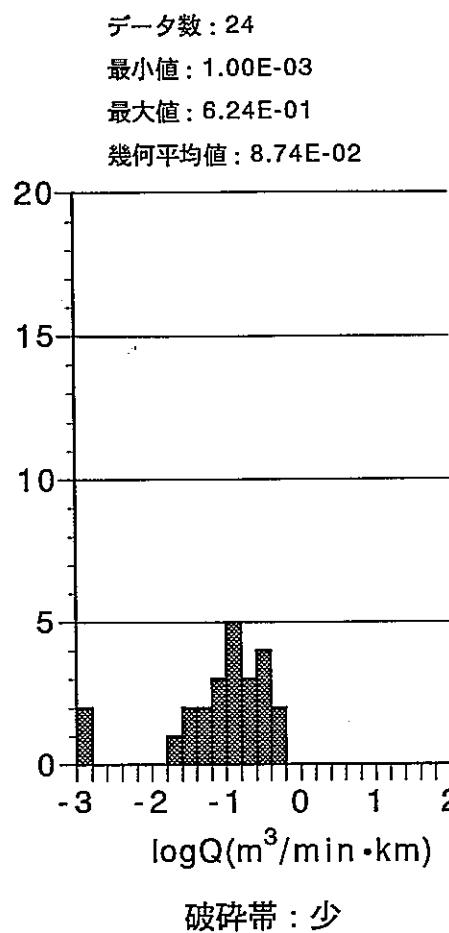
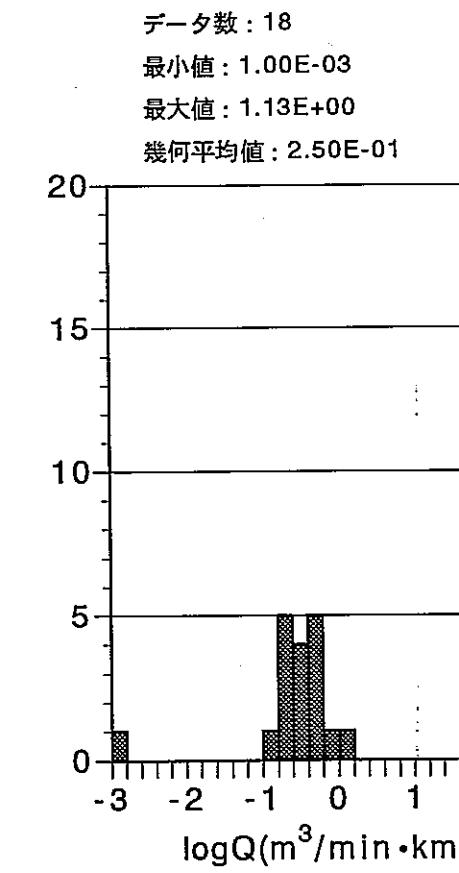
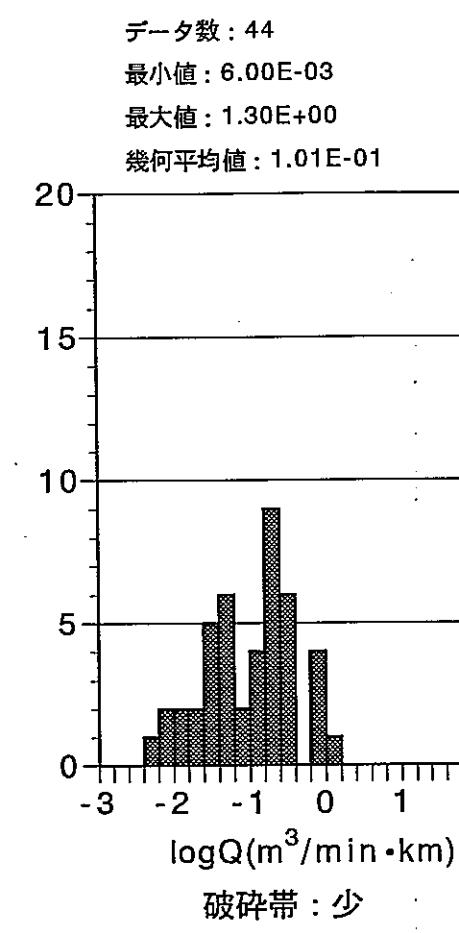


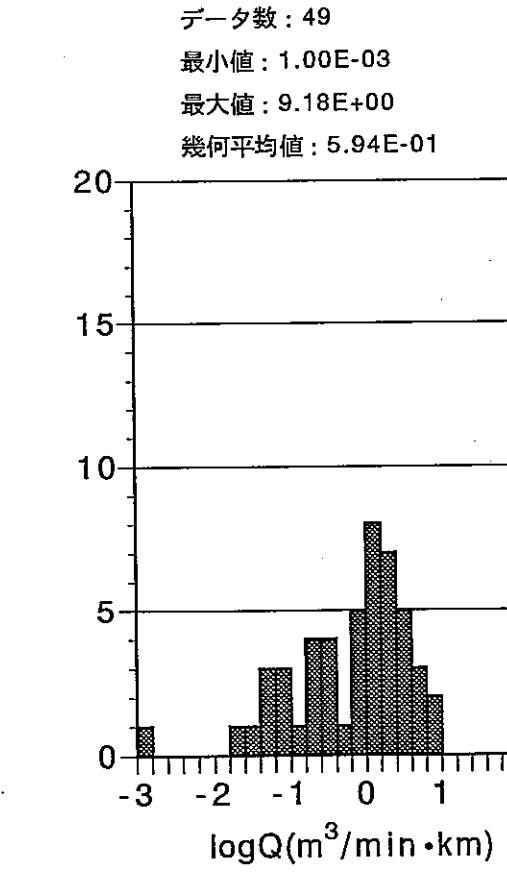
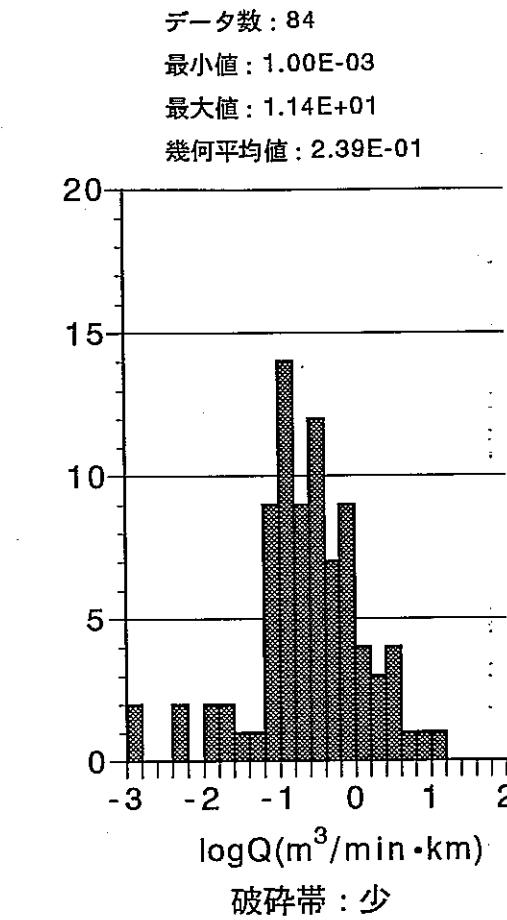
図7-8 岩種・破碎状態別湧水量ヒストグラム



古第三紀以前の砂質岩

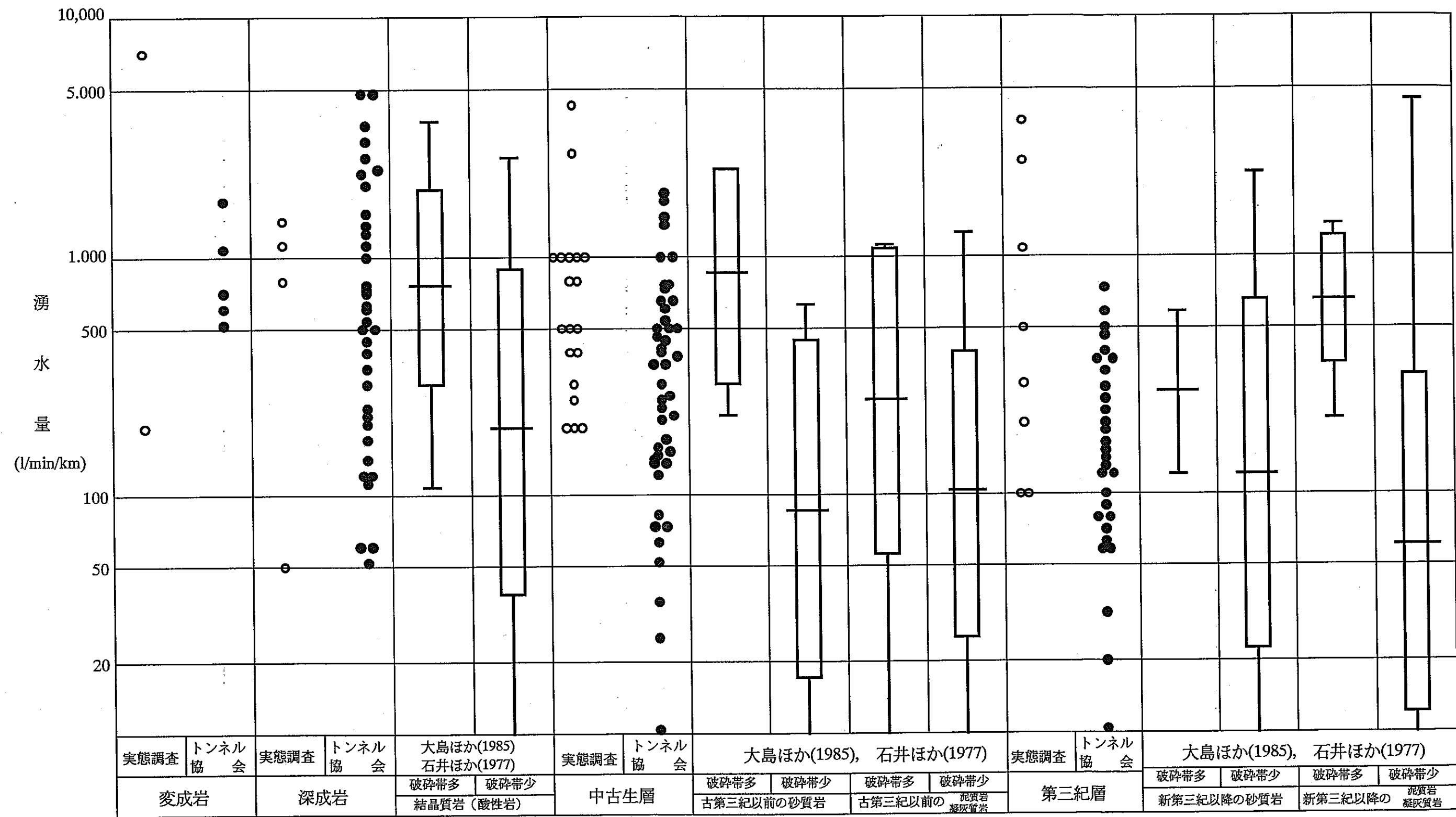


古第三紀以前の泥質岩・凝灰質岩



その他の岩種

図7-9 岩種・破碎状態別湧水量ヒストグラム



● : 日本トンネル技術協会の資料を参照  
 ○ : 実態調査

「トンネル工事と環境保全対策」  
 (社)日本トンネル技術協会(1985)より引用

最小値 - 標準偏差 幾何平均 + 標準偏差 最大値



: 大島ほか(1985)、石井ほか(1977)による結果

図7-10 地質ごとのトンネル湧水量

#### 7.4. トンネル湧水量と透水係数との関係

トンネル湧水量に関する文献のうち、石井・佐久間(1977)によって整理された鉄道トンネルの比湧水量( $Q := m^3/min \cdot km$ )と透水係数( $K: cm/sec$ )についての相関は次式で検討されている。

$$Q = 2\pi k \frac{a}{\ln \frac{4a}{d}} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

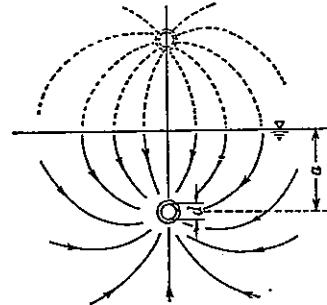
①式の  $a$  を平均土被り高と仮定して、  $d$  を単線、複線トンネルごとに区別し、それぞれの

数値を代入し、  $Q$  と  $\frac{a}{\ln \frac{4a}{d}}$  との関係を図7-12に示す。

$$\text{また, } \textcircled{1} \text{ 式を } k = \frac{q}{2\pi} \times \frac{\ln \frac{4a}{d}}{a}$$

と変形し、各々のトンネルについて  $k$  を求め、

$k=10^{-4}, 10^{-5}$  および  $10^{-6}(cm/sec)$  の線を図7-12中に記入した。



a:水頭 d:トンネル直径

図7-11 トンネル湧水量算定のモデル図

この図から判明することとして、

- 1) トンネル地山の平均土被り高に関係なく、比湧水量は  $3m^3/min \cdot km$  のものが大半を占める。
- 2) 古第三紀以前の泥質岩内を通過するトンネルについては比湧水量は  $1.5m^3/min \cdot km$  以下を示す。
- 3)  $10^{-4} \sim 10^{-6}$  の透水係数の直線を引いて検討すると、地質的分類（岩種）と透水係数上での分類がほぼ一致すると考えられる。

「トンネル施工に伴う湧水・渴水に関する調査研究(その2)報告書」(日本トンネル技術協会、1983)では池田(1969)による地質(岩質)とP波速度によるトンネル地山分類(表7-3)

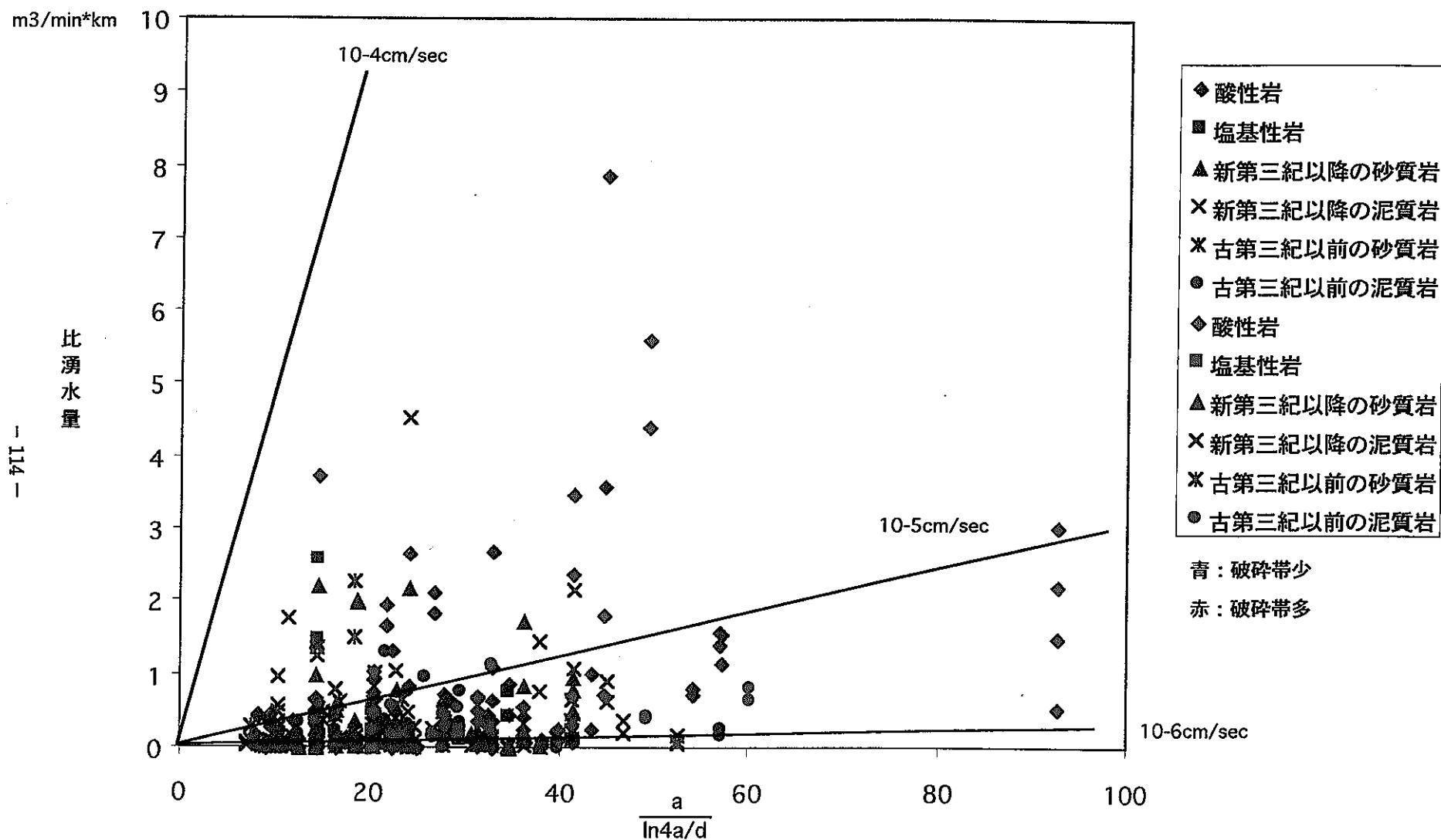


図7-12 トンネル比湧水量と  $\frac{a}{\ln 4a/d}$  との相関 (鉄道トンネル)

を用いて、各地山分類に対応する透水係数を図7-13のフローに従って提案している。

このフローによるとトンネル地山を構成する岩種と弾性波速度が判明している場合には、トンネル地山の平均的な透水係数の把握が可能となる。

図 7-13における基礎資料としての比湧水量のデータは前述の石井・佐久間(1977)の鉄道トンネルの湧水量に基づいており、トンネル地山の平均的な透水係数は岩種、風化状況の度合と対応しているとみなされる。なお、これらのデータはトンネル標準部(一般部)における基盤速度層内に位置するトンネルから抽出している。

要約すると、

- 1) 中・古生層の砂質岩、チャート、花崗岩類、ホルンフェルスなどの塊状硬質岩( $\sigma c \geq 800 \text{kgf/cm}^2$ 、キレツがほとんど認められない地山)から構成されるトンネル地山の透水係数( $k$ )は $1 \times 10^{-7} \sim 1 \times 10^{-6} (\text{cm/sec})$ の範囲内に含まれ、平均値としては $5 \times 10^{-7} (\text{cm/sec})$ の値を示す。
- 2) 上記岩種でキレツがやや発達する地山では、 $k$ は $1 \times 10^{-6} \sim 4 \times 10^{-6} (\text{cm/sec})$ の範囲内に含まれ、平均値としては $2 \times 10^{-6} (\text{cm/sec})$ の値を示す。
- 3) 1)の岩種および新第三紀層の軟質岩( $800 > \sigma c \geq 200 \text{kgf/cm}^2$ )から構成されるトンネル地山では $k$ は $8 \times 10^{-6} \sim 1.2 \times 10^{-5} (\text{cm/sec})$ の範囲に含まれ、平均して $10^{-6}$ オーダーの値を示す。
- 4) 3)と比較してキレツが多く発達した軟質岩( $\sigma c \leq 200 \text{kgf/cm}^2$ )の地山では、 $1.5 \times 10^{-5} (\text{cm/sec})$ 程度の透水係数値を示す。

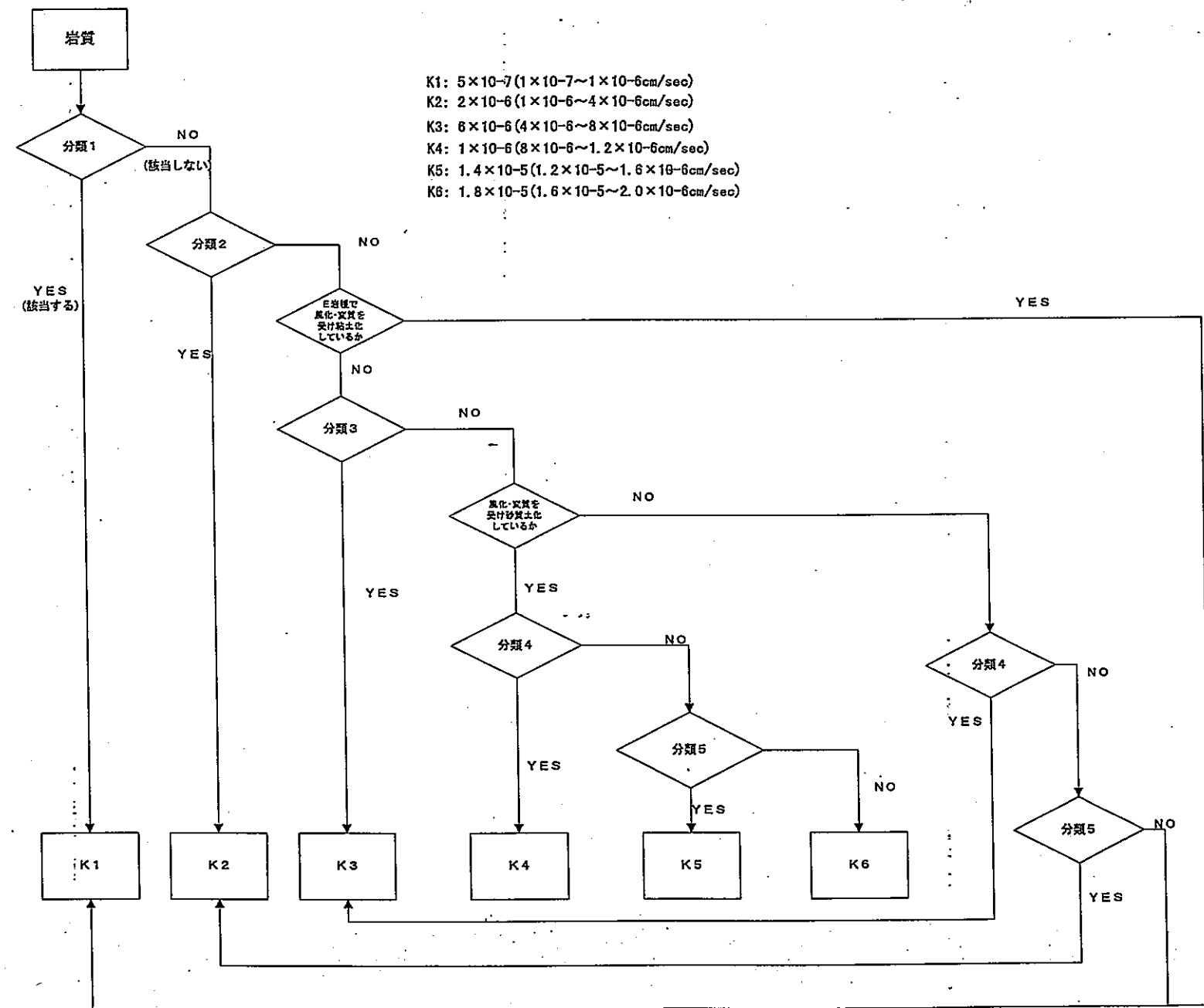


図7-13 地山分類に対応した透水係数



表 7-3 地山分類 (数値は弾性波速度を示す: 単位 km/sec)

分類	1	2	3	4	5	6	7	備考
岩質	A	>5.0	5.0~4.4	4.6~4.0	4.2~3.6	3.8~3.2	<3.4	
	B		>4.8	4.8~4.2	4.4~3.8	4.0~3.4	<3.6	
	C	>4.8	4.8~4.2	4.4~3.8	4.0~3.4	3.6~3.0	<3.2	
	D	>4.2	4.2~3.6	3.8~3.2	3.4~2.8	3.0~2.4	<2.6	
	E			>2.6	2.6~2.0	2.2~1.6	<1.8	<1.4
	F					1.8~1.2	1.4~0.8	<1.0

- 1) 切羽に湧水がついてまわるようであれば分類を一段階おとす。
- 2) 膨張性岩石(蛇紋岩, 変成安山岩, 石墨片岩, 泥岩, ベントナイト質凝灰岩, 温泉余土, など)は速度値にとらわれず7として考える。この場合の速度は 4.0km/sec より小さく, ポアソン比は 0.3 より大きい。
- 3) 風化岩でポアソン比が 0.3 より小さい場合は, 分類を 1, 2 段階あげる。

分類	岩質	地質状況		土圧
		き裂, 風化, 破碎, 固結程度		
1	A, C, D,	マッシブで硬い		
2	A C, D	堅硬で, き裂間隔 50~100cm き裂少ない		作用しない
3	A, B C D E	き裂多い, 破碎質, ところどころ小断層をはさむ 中~軟岩, ところどころ小断層をはさむ, き裂間隔30~70cm き裂少ない, 中~軟岩 マッシブな軟岩		ときどき作用する
4	A, B C D E	破碎質, き裂多く風化進む き裂多い, 破碎質, 軟岩, 小断層多い 破碎質, 軟岩, き裂多い 軟岩, 固結度低い		作用する場合が多い
5	A, B C D E F	破碎質, 風化はなはだしい 破碎質, 小断層多い, 風化進む 破碎質, 軟岩, 風化進む 軟岩 固結度低い 軟岩, 固結度低い		
6	A, B C D, E F	破碎質, 非常に風化している 破碎質, 軟岩, 風化進む, 固結度低い 固結度低い, 風化進む		多くの場合作用する
7	E, F	固結度非常に低い		

注: A. ①古生層, 中生層の粘板岩, 砂岩, れき岩, チャート, 灰岩, 輝緑凝灰岩など ②深成岩(花崗岩, 花崗せん綠岩, せん綠岩, はんれい岩など) ③半深成岩(石英斑岩, 花崗斑岩, ひん岩, 輝緑岩, 蛇紋岩など) ④火山岩(玄武岩) ⑤変成岩(結晶片岩, 千枚岩, 片麻岩, ホルンフェルズなど)  
B. ①はく離の著しい変成岩 ②細層理の発達した中・古生層  
C. ①中生層の一部(けつ岩, 砂岩, 輝緑凝灰岩など) ②火山岩(流紋岩, 安山岩など) ③古第三紀層の一部(火山質凝灰岩, 珪化けつ岩, 砂岩, 凝灰岩など)  
D. 第三紀層(泥岩, けつ岩, 砂岩, れき岩, 凝灰岩, 角れき凝灰岩, など)  
E. 新第三紀層~洪積層(泥岩, シルト岩, 砂岩, 砂れき岩, 凝灰岩, 段丘, 崖錐, 火山碎屑物)  
F. 洪積層~沖積層(粘土, シルト, 砂, 砂れき, 火山噴出物, ローム, 扇状堆積物, 崖錐, 段丘)

を評価することにより、より精度の高い透水係数の評価が可能になると考えている。

表7-4 計算湧水量と実測湧水量との比較

区間 (m)	区間長 (m)	亀裂本数 (本/5m)	推定透水係数 (m/s)			地下水位 からの距 離 (m)	計算湧水量 (ℓ/min)			実測湧水量 (ℓ/min)
			下限値	中央値	上限値		下限値	中央値	上限値	
100 ~192	92	14	$6.67 \times 10^{-8}$	$1.41 \times 10^{-7}$	$2.38 \times 10^{-7}$	34	47	100	169	123
192 ~306	114	11	$6.50 \times 10^{-7}$	$2.87 \times 10^{-6}$	$5.67 \times 10^{-6}$	65	9	41	81	171
306 ~387	31	11	$6.50 \times 10^{-7}$	$2.87 \times 10^{-6}$	$5.67 \times 10^{-6}$	86	3	14	28	389
387 ~372	35	9	$1.21 \times 10^{-7}$	$9.89 \times 10^{-7}$	$2.49 \times 10^{-6}$	95	1	6	15	114
372 ~466	94	16	$2.19 \times 10^{-6}$	$4.09 \times 10^{-5}$	$8.92 \times 10^{-5}$	108	387	723	1,577	467
466 ~510.5	44.5	15	$1.26 \times 10^{-6}$	$2.40 \times 10^{-5}$	$4.40 \times 10^{-5}$	120	115	219	402	216
510.5~569.6	59.1	13	$3.22 \times 10^{-6}$	$8.30 \times 10^{-5}$	$1.40 \times 10^{-4}$	130	42	107	180	180
569.6~590.1	20.5	13	$3.22 \times 10^{-6}$	$8.30 \times 10^{-5}$	$1.40 \times 10^{-4}$	135	15	38	64	85
計	490.1						619	1,248	2,516	1,745

## 8. まとめ

文献資料透水係数データベース、東濃地区データ、釜石地区データおよびトンネル湧水量データを考察し、透水係数について考察した結果を以下にまとめた。

### 8. 1. 文献資料透水係数データベース

文献資料データベースのうちデータ数が多く統計解析が可能であった岩種は結晶質岩（酸性岩）、古第三紀以前の堆積岩（砂質岩）、古第三紀以前の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）であった。透水係数はおおむね新鮮岩（CH級岩盤）と弱風化岩（CM級岩盤）では $10^{-5}$ cm/secオーダー、風化岩（CL級岩盤）と強風化岩（D級岩盤）では $10^{-4}$ cm/secオーダーである。

### 8. 2. 東濃地区

ボーリングで確認した基盤岩（土岐花崗岩）およびそれを覆って分布する新第三紀層の透水性については以下のようにまとめられる。

#### (1) 土岐花崗岩

岩盤の風化状況から透水性を検討した結果、新鮮岩の透水係数の平均値は $5.87 \times 10^{-7}$ cm/secを、風化岩の透水係数の平均値は $3.50 \times 10^{-7}$ cm/secといずれも $10^{-7}$ オーダーを示す。

一方、亀裂状態の違いによる透水係数を比較すると、健全部（RQD $\geq 50$ ）と亀裂部（RQD<50）との差異は認められない。割れ目の数と透水係数の相関は極めて低い。

深度と透水係数の関係は、新鮮岩のみで深度が深くなるほど透水係数が低くなる傾向が認められるが、弱風化岩、風化岩については相関が認められない。

#### (2) 砂質岩

岩盤の風化状況から透水性を検討した結果、新鮮岩の透水係数の平均値は $8.77 \times 10^{-8}$ cm/secを、弱風化岩の透水係数の平均値は $8.02 \times 10^{-7}$ cm/secを、風化岩の透水係数の平均値は $1.10 \times 10^{-6}$ cm/secをそれぞれ示しており、砂質岩の場合は風化の程度が進むほど透水係数が高くなると判断される。

一方、亀裂状態の違いによる透水係数を比較すると、健全部（RQD $\geq 50$ ）と亀裂部（RQD<50）との差異は認められない。割れ目の数と透水係数の相関は極めて低い。

深度と透水係数の関係は、新鮮岩のみで深度が深くなるほど透水係数が低くなる傾向が認められるが、弱風化岩、風化岩については相関が認められない。

### (3)泥質岩

泥質岩についてはデータの数が少なく、風化、亀裂状態と透水性の関係についての解析はできなかった。

## 8. 3. 釜石地区

釜石地区（花崗閃緑岩）のボーリング孔内で実施された現位置試験のうち、亀裂状況が判明しているデータについて考察した。

全ての亀裂と透水係数の平均値との関係をみると、メートルあたりの亀裂の本数が0本の区間では $10^{-9}$ cm/secオーダー、亀裂の本数が0～3本の区間では $10^{-8}$ cm/secオーダー、亀裂の本数が3以上の区間では $10^{-7}$ cm/secオーダーであった。

また、開口亀裂と透水係数の平均値との関係をみると、メートルあたりの亀裂の本数が0本の区間では $10^{-8}$ cm/secオーダーであるのに対し、亀裂が存在する区間では $10^{-7}$ cm/sec～ $10^{-6}$ cm/secという結果が得られた。

このことから、開口亀裂が存在する区間において透水係数が大きくなるという結果が得られた。

## 8. 4. トンネル湧水量

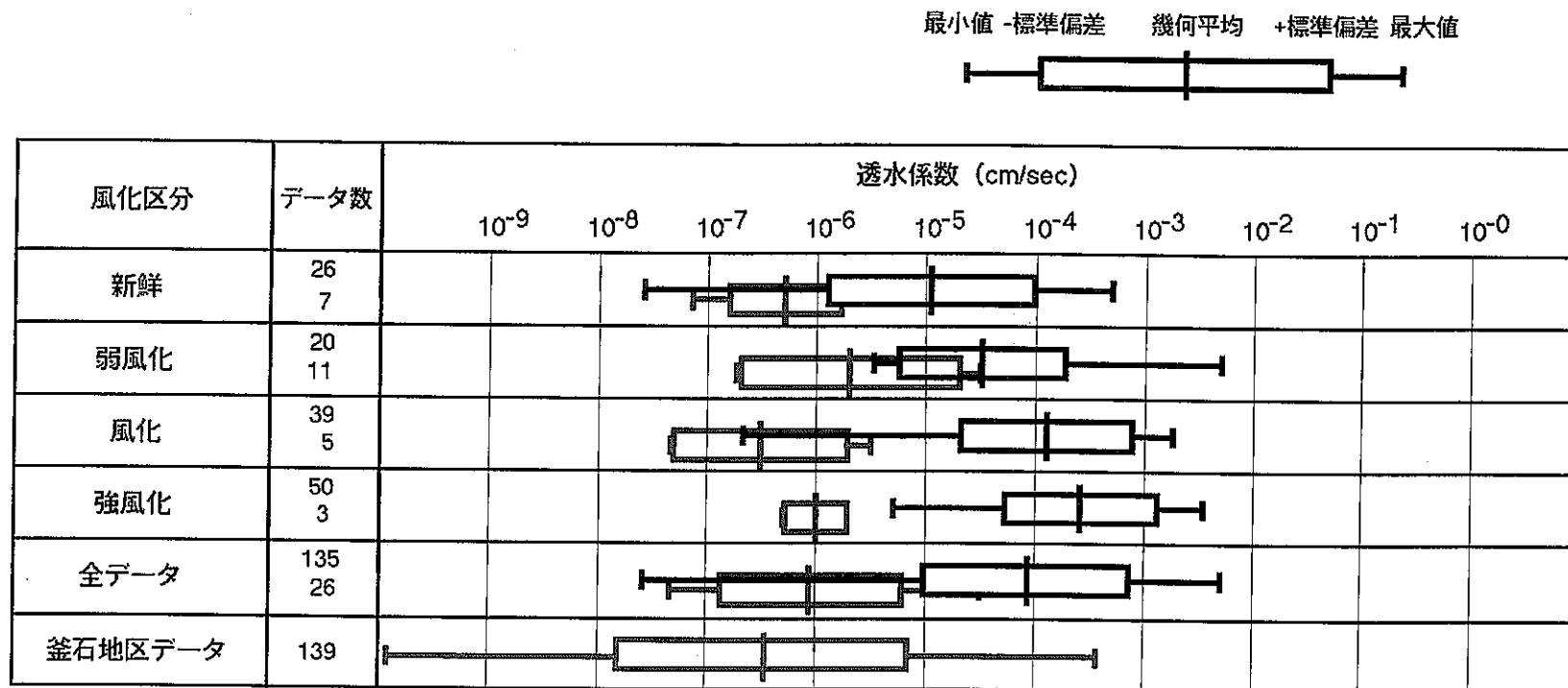
破碎帯の多少による湧水量の違いについては、全ての岩種において、破碎帯の多いトンネルほど多量の湧水が認められ、その差は $10^{0.5} \sim 10^1$ 程度である。また、岩種の違いによる湧水量の違いはほとんど認められない。

### 8.5. 文献データと東濃地区原位置試験の比較

文献データと東濃地区原位置試験データを比較すると、すべての岩種、風化区分で東濃地区のデータの方が $10^{-1} \sim 10^{-2}$ オーダー低い値を示す。これについては、文献データが低圧ルジョン試験やJFT試験で得られたデータであり、試験方法の違いを反映している可能性が高い。

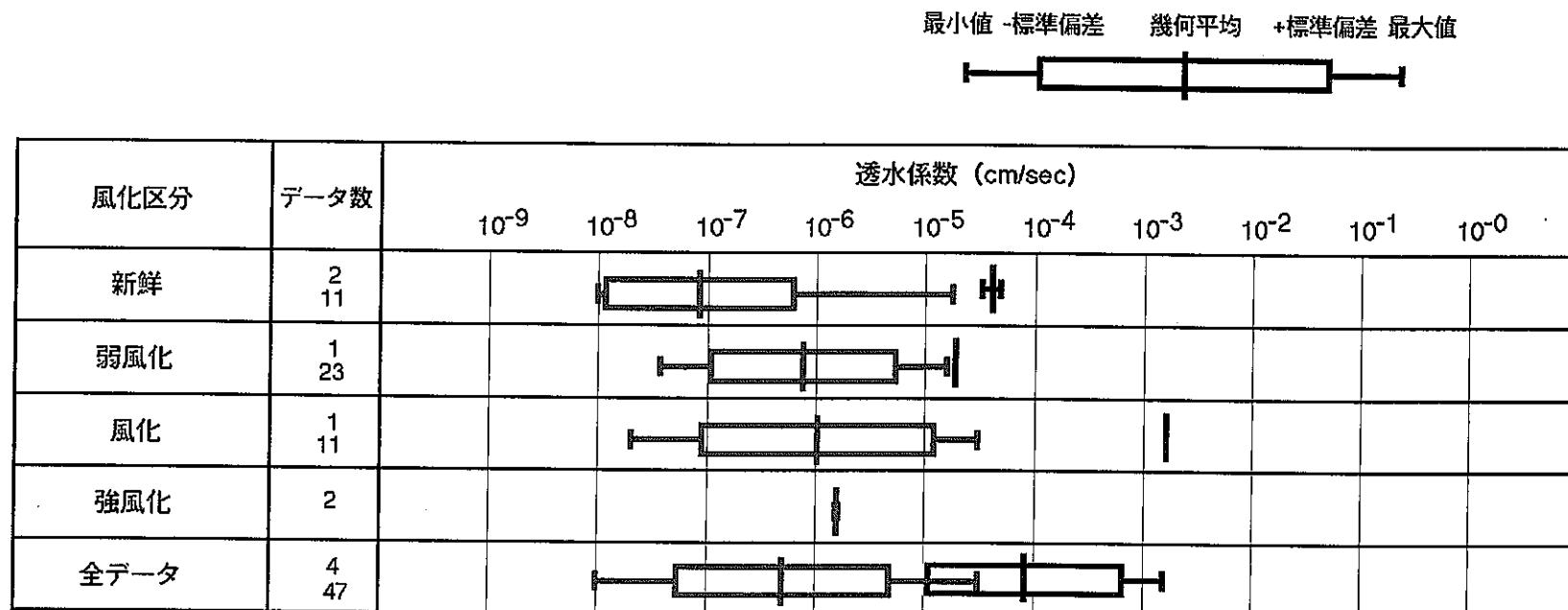
### 8.6. 深度依存性について

深度と透水係数の関係については、深度0～100mの区間においては文献データベースが大部分を占め、100～200mの区間については東濃地区のデータが大部分を占める。透水係数分布についてみると、0～200mの区間では、深度が深くなるほど透水係数が低くなる傾向が若干認められるが、試験方法の違いを反映している可能性も考慮しておく必要がある。深度200m以深の区間については釜石地区のデータが大部分を占めるが、深度と透水係数の相関は認められない。



黒：文献データ  
赤：東濃地区データ

図8-1 風化区別透水係数分布  
結晶質岩（酸性岩）



黒：文献データ  
赤：東濃地区データ

図8-2 風化区別透水係数分布  
新三紀以降の堆積岩（砂質岩）

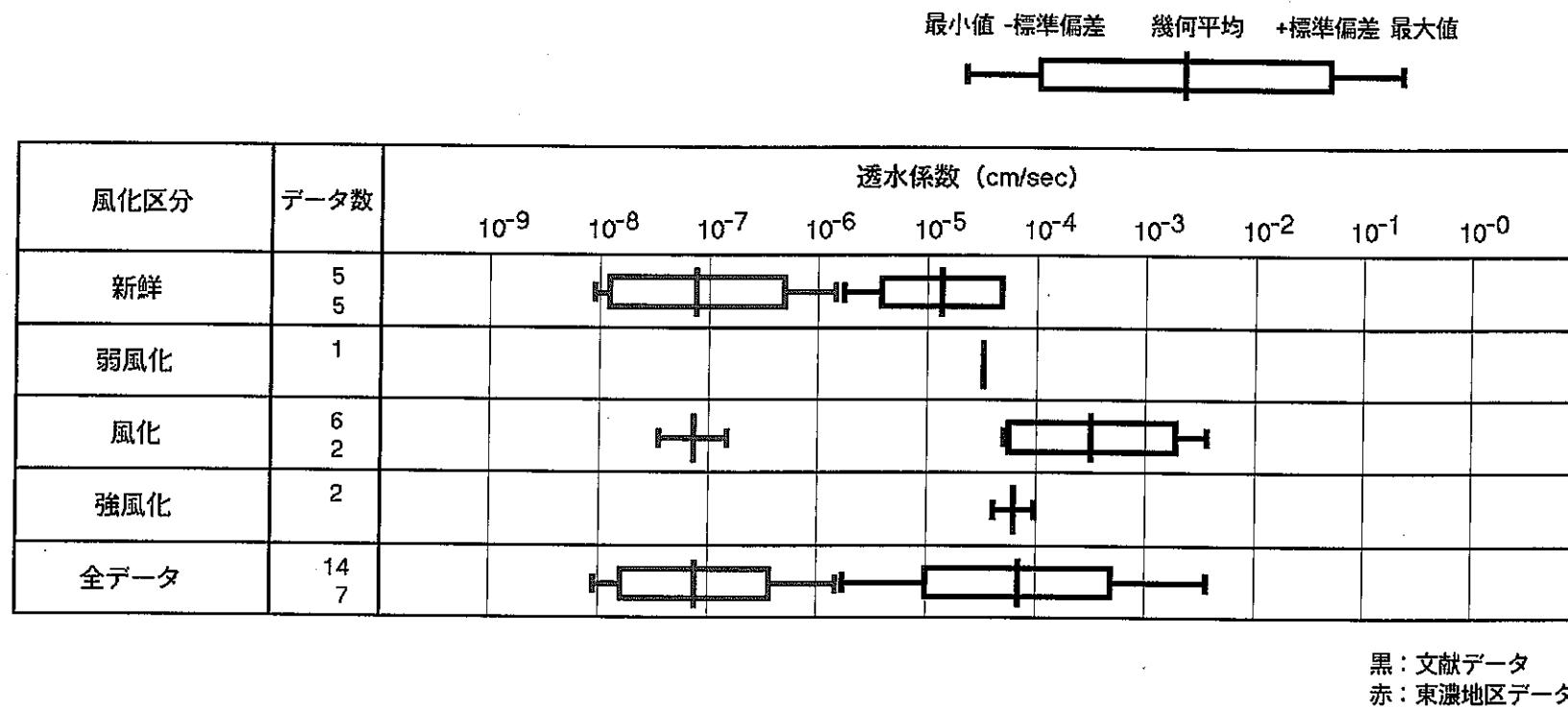


図8-3 風化区別透水係数分布  
新第三紀以降の堆積岩（泥質岩・凝灰質岩）

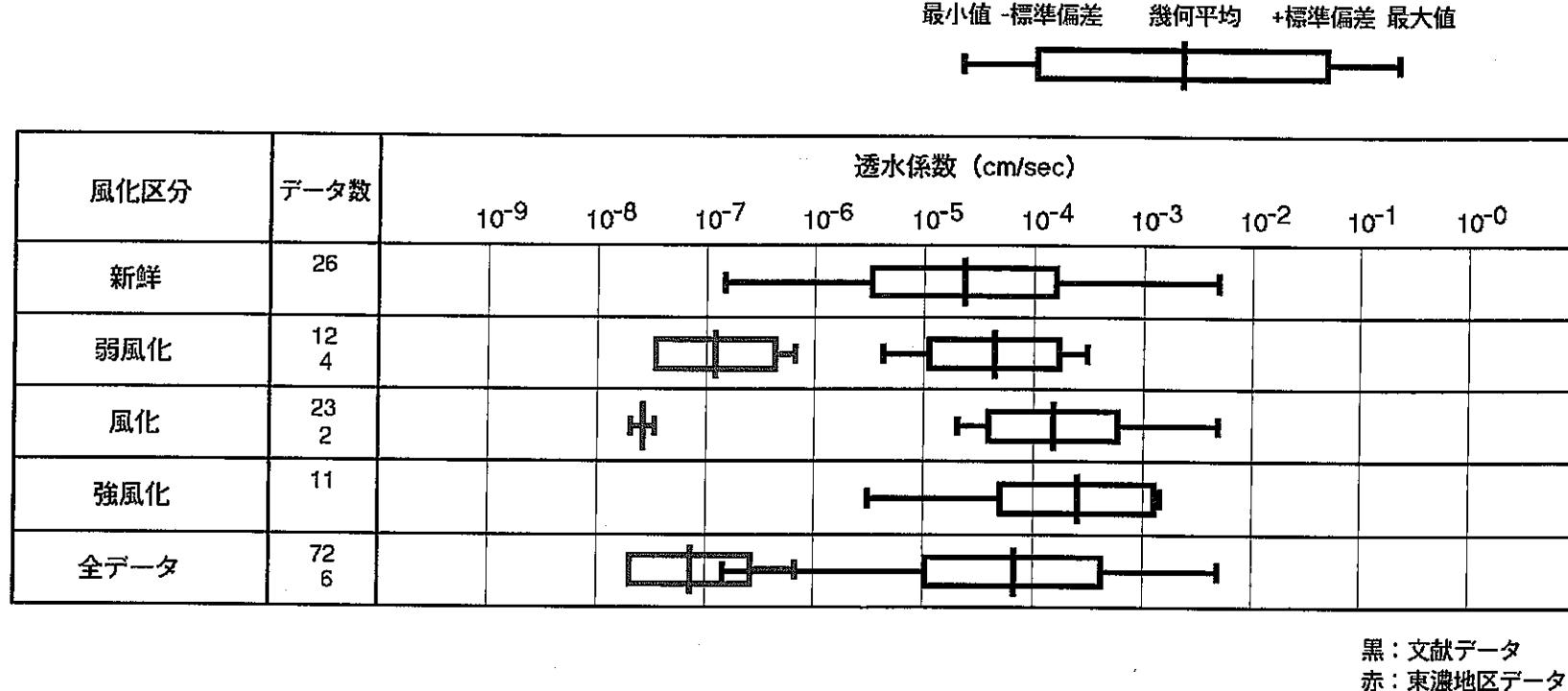
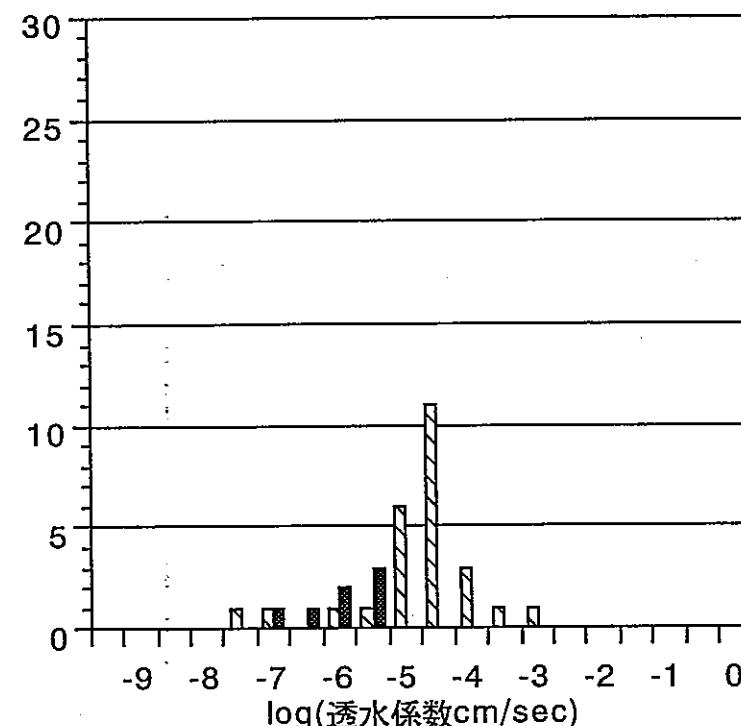
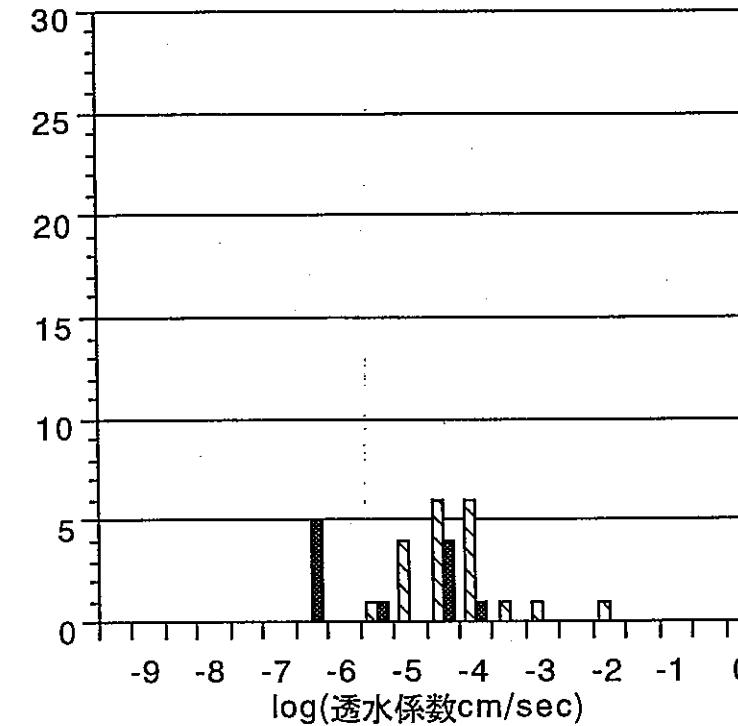


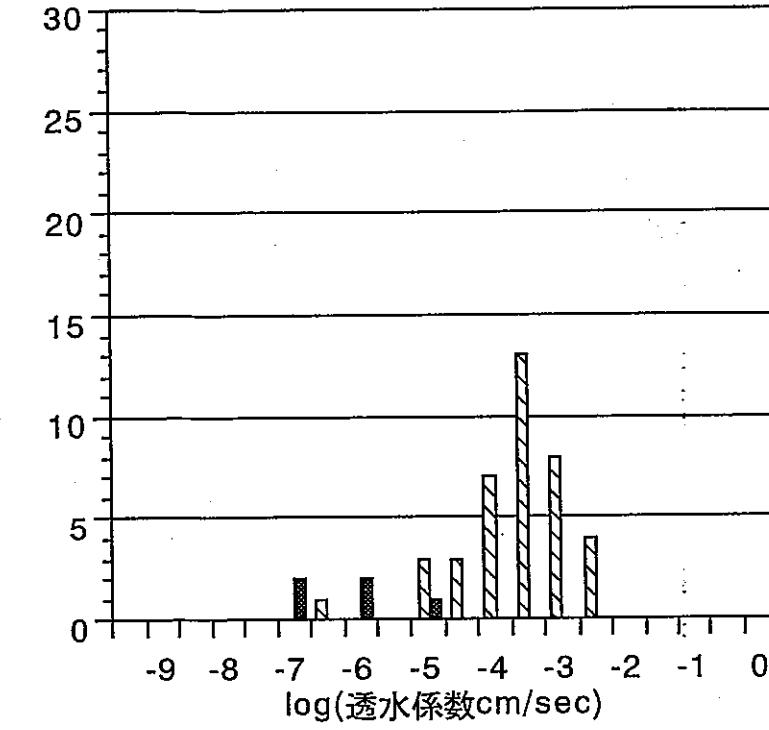
図8-4 風化区別透水係数分布  
その他の岩種



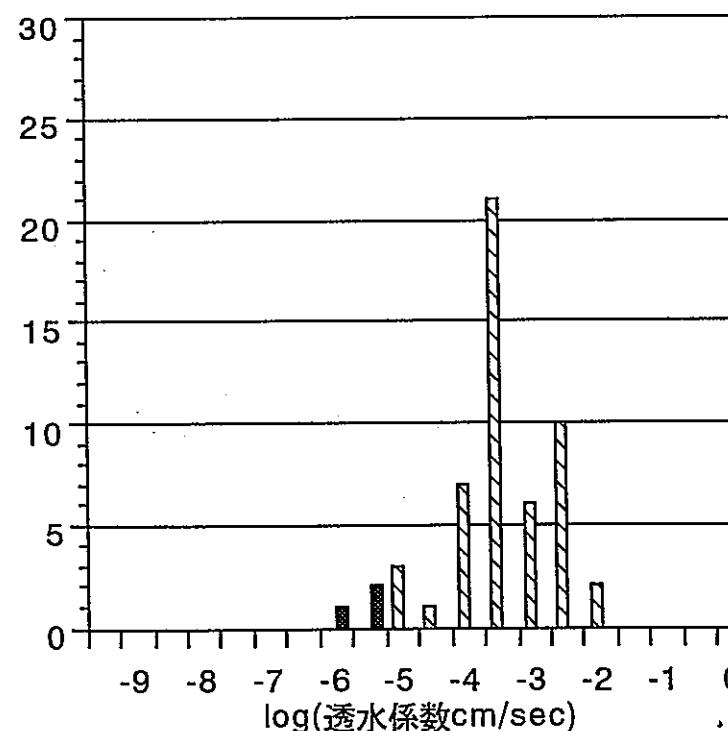
新鮮



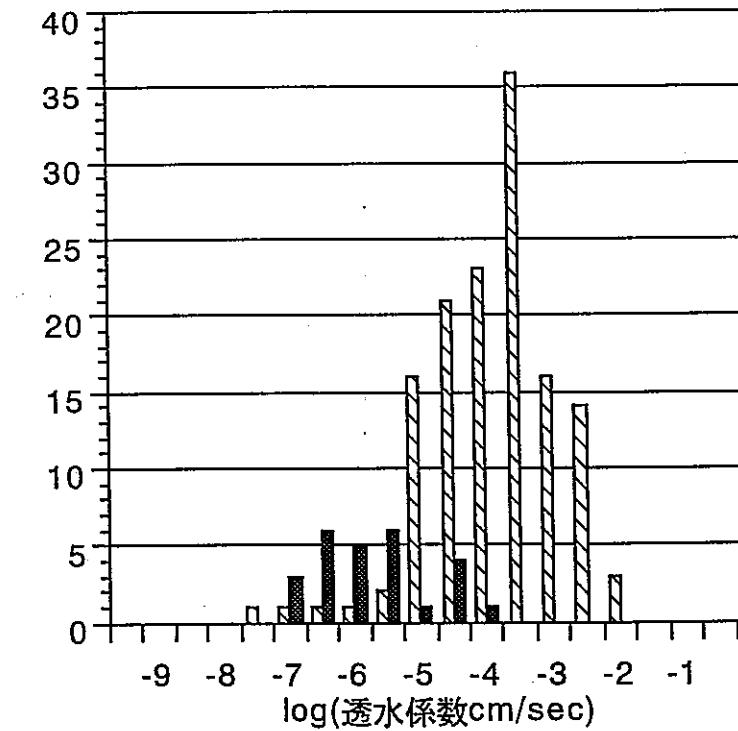
弱風化



風化



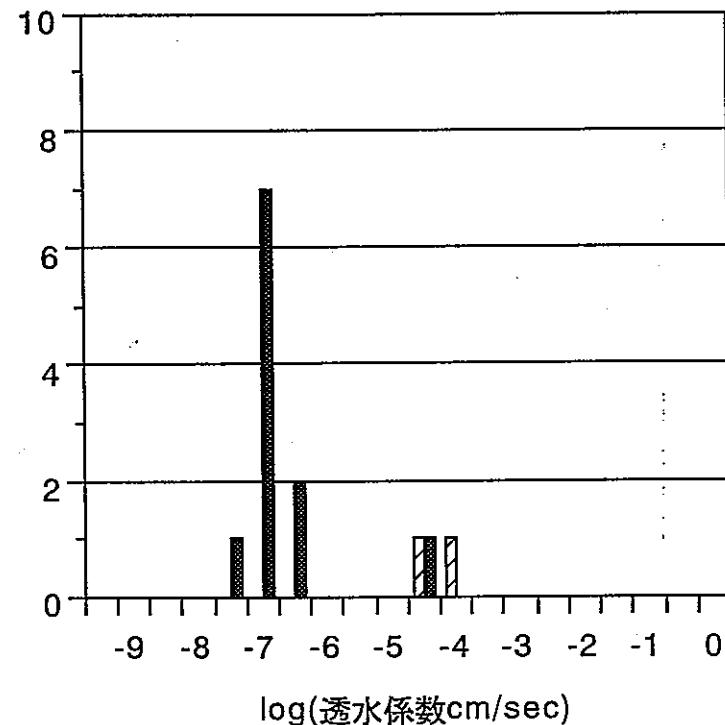
強風化



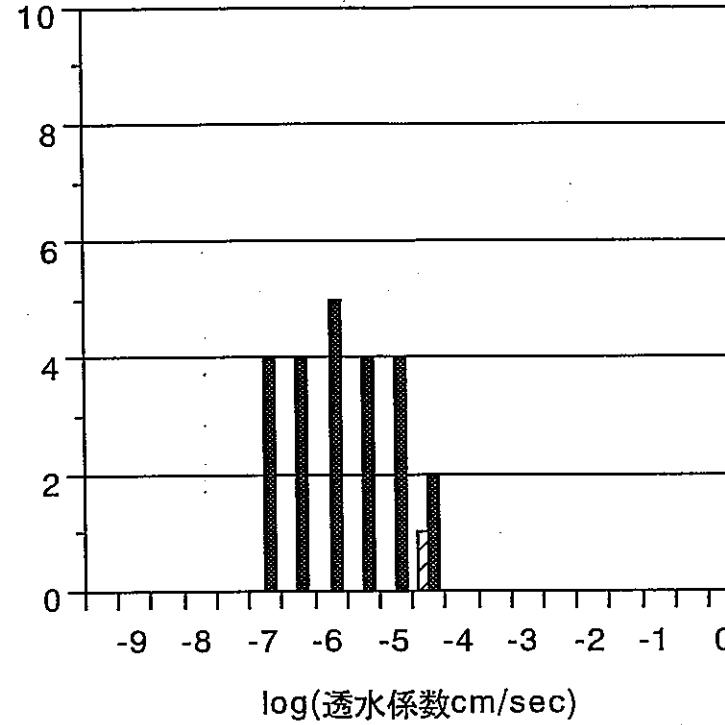
全データ

文献データ  
 東濃地区原位置試験データ

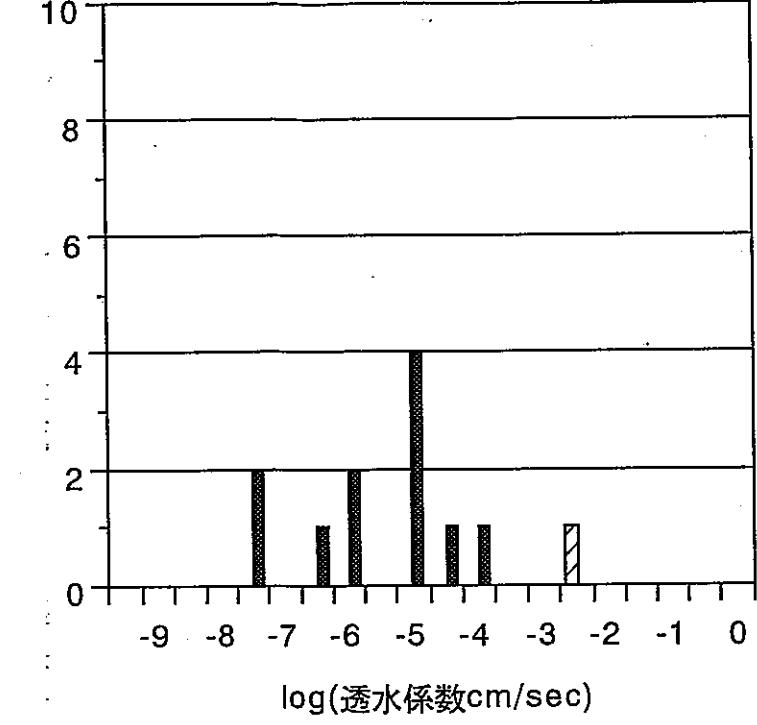
図8-5 風化区分別透水係数ヒストグラム（酸性岩）



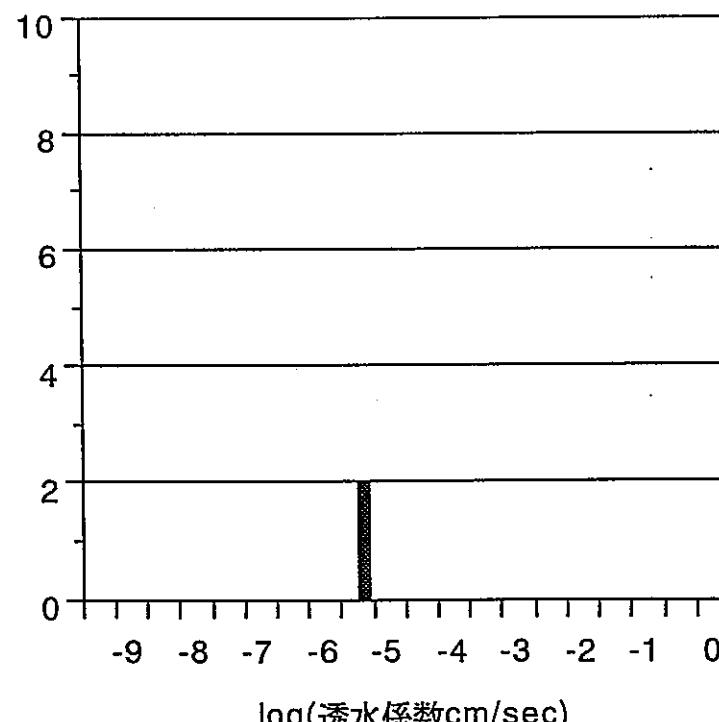
新鮮



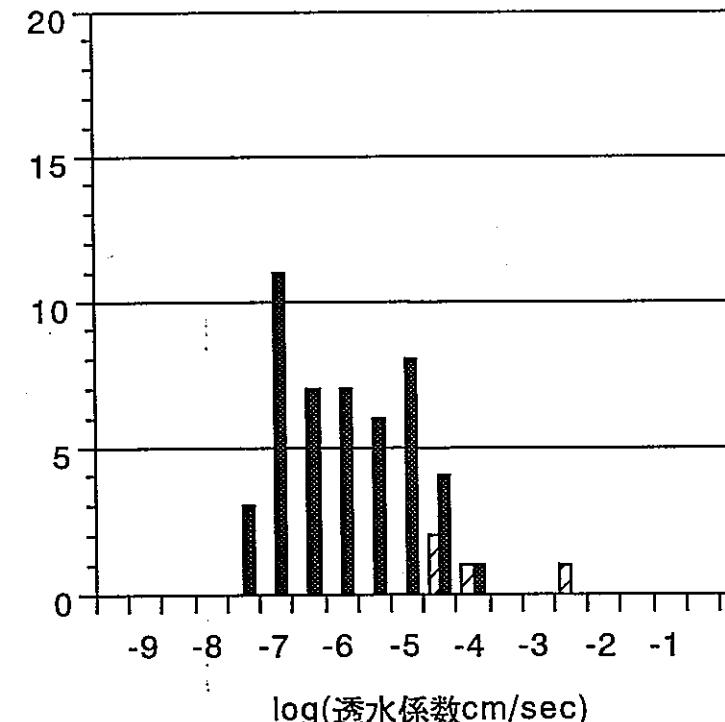
弱風化



風化



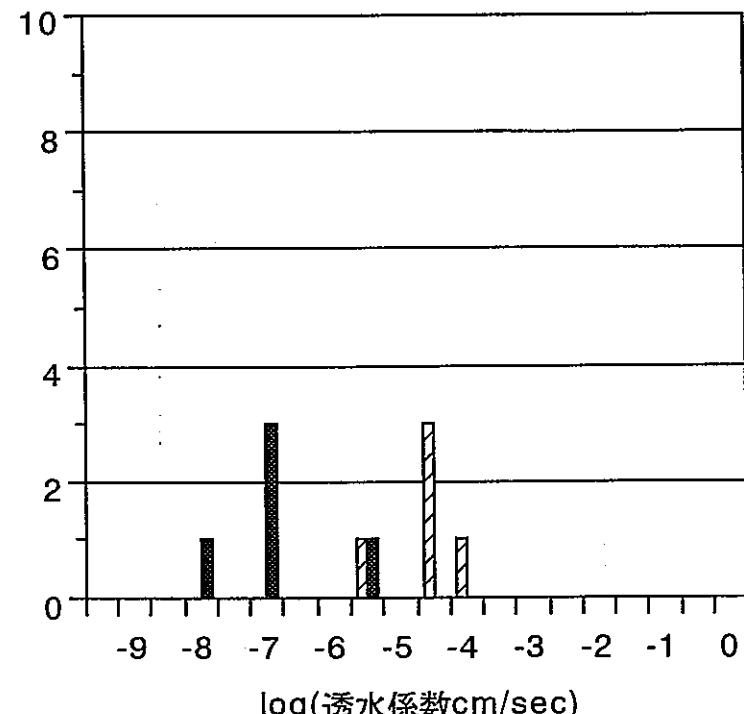
強風化



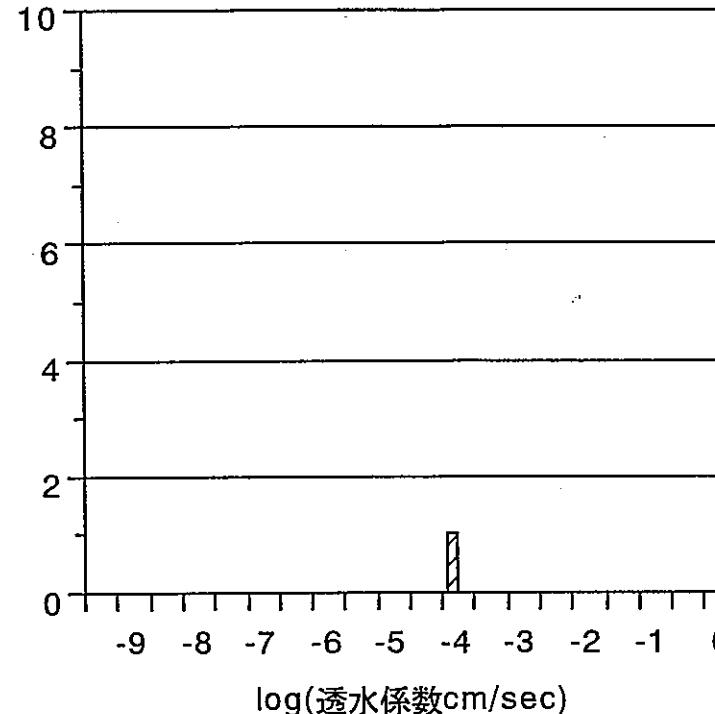
全データ

□ 文献データ  
■ 東濃地区原位置試験データ

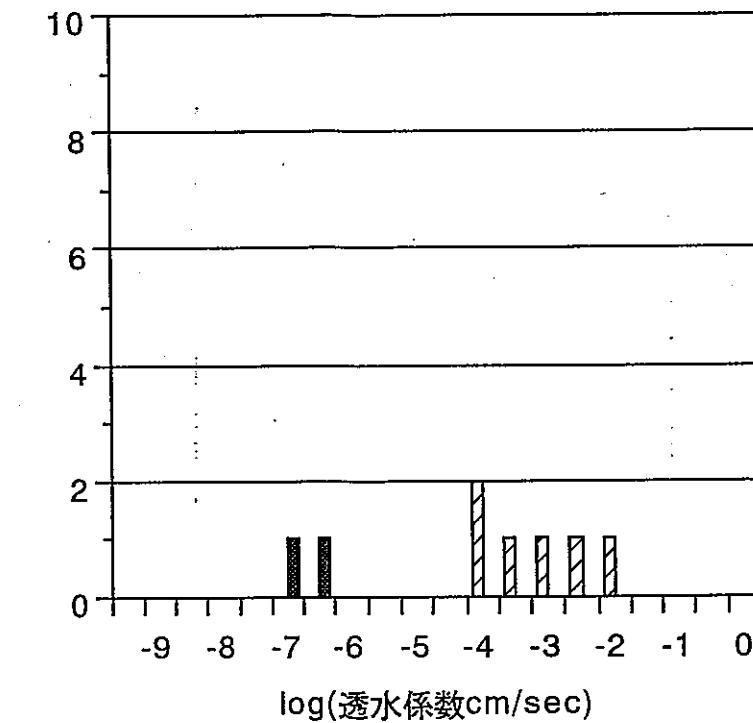
図8-6 風化区分別透水係数ヒストグラム（新第三紀以降の砂質岩）



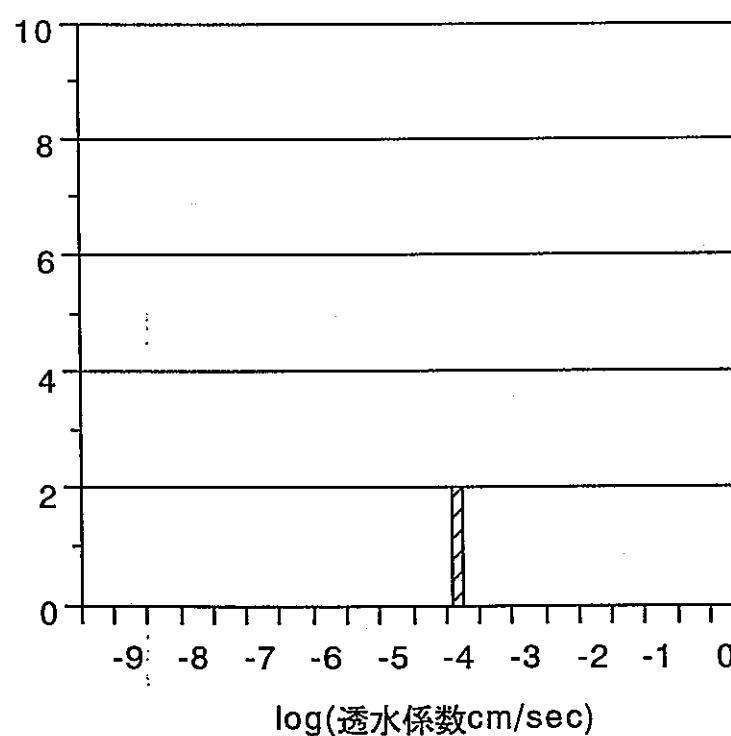
新鮮



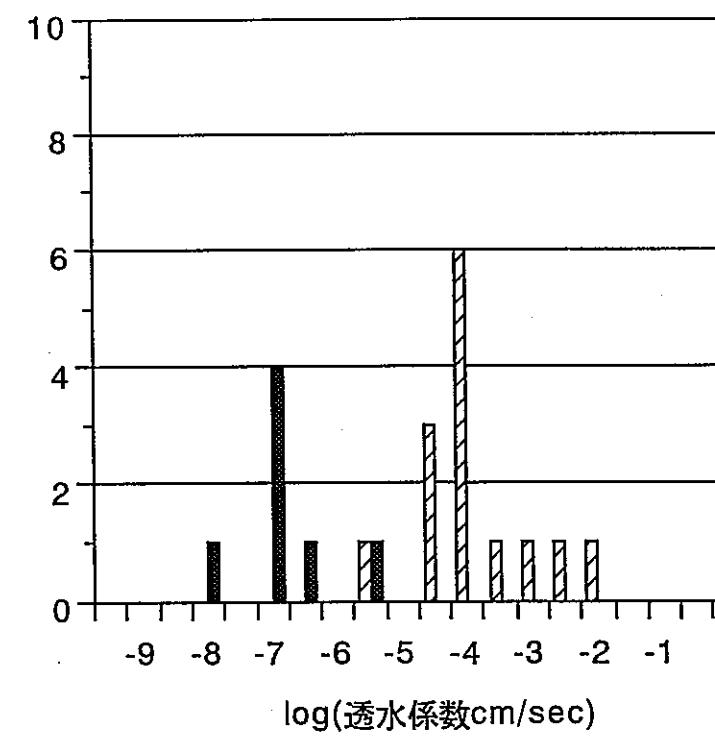
弱風化



風化



強風化



全データ

□ 文献データ  
■ 東濃地区原位置試験データ

図8-7 風化区分別透水係数ヒストグラム（新第三紀以降の泥質岩・凝灰質岩）

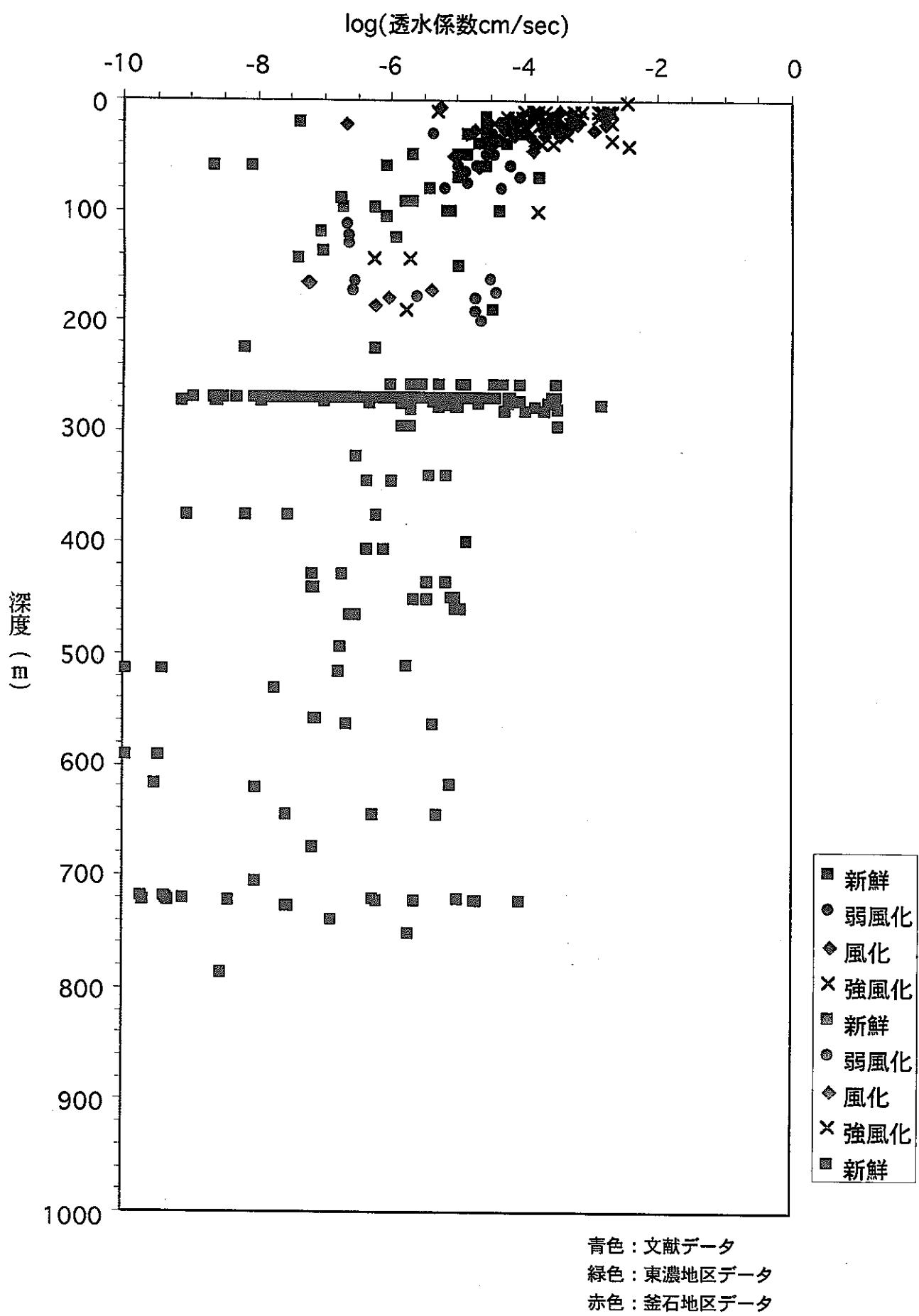


図8-8 深度別透水係数分布(1)

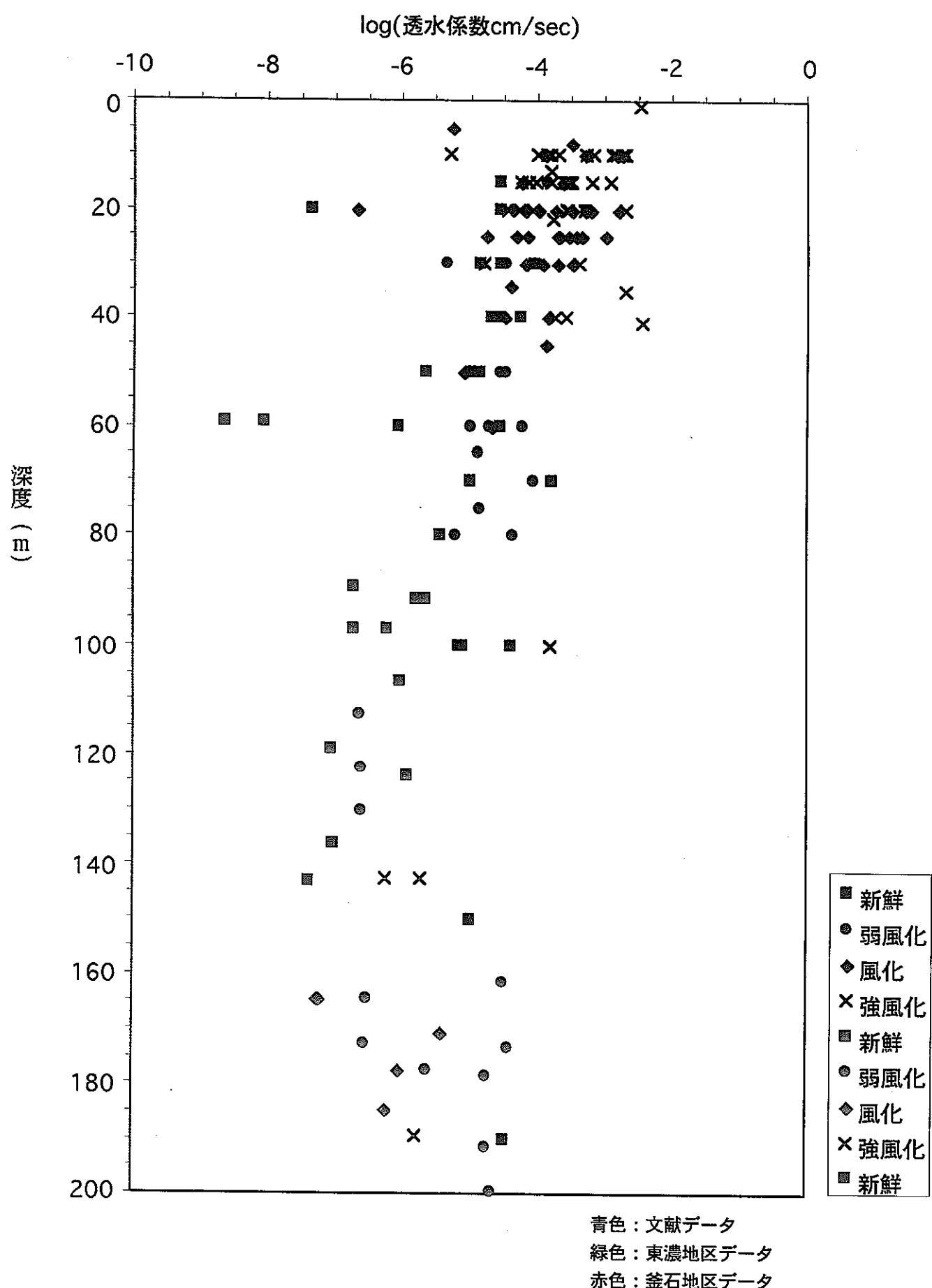


図8-9 深度別透水係数分布(2)

## **東濃地区原位置試験データ**











東濃地区透水係数一覧表

測定結果 番号	孔名	上限深度(m)	下限深度(m)	測定区間長 (m)	代表深度 (m)	代表標高 (m)	地層名	岩種 番号	岩相1	岩相2 状況	風化 状況	割れ目 RQD	開口 割れ目	剥離 割れ目	密着 割れ目	充填 割れ目	間隙水頭 (GL-m)	間隙水圧 (kgf/cm <sup>2</sup> )	透水係数 (cm/sec)	試験方法	解析方法	備考	
291	DH-4	472.00	475.00	3.00	473.50	-206.92	土岐花崗岩	1	花崗岩	中粒黒雲母							64.70		2.30E-07	パルス法	Hvorslev	割れ目帯, 孔径拡大部	
292	DH-4	494.00	497.00	3.00	495.50	-228.92	土岐花崗岩	1	花崗岩	中粒黒雲母							63.00		1.10E-08	パルス法	Hvorslev	割れ目帯	

## **釜石地区原位置試験データ**





釜石地区透水係数一覧表

孔番	実施年度	上限	下限	代表深度	試験区間長	地表から の深度	海拔	岩種	亀裂 総数	開口 亀裂	RQD	透水係数 (cm/sec)	試験方法	初期間隙水圧 (kgf/cm²)	区間状況		
KH-5(水平)	H. 1	17. 8	20. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	43	17	87. 6	3. 88E-06	低圧ルジオン試験	0. 419		1回目
KH-5(水平)	H. 1	15. 3	17. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	47	19	70. 4	5. 38E-06	低圧ルジオン試験	0. 394		1回目
KH-5(水平)	H. 1	48	50. 5			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	55	12	89. 6	1. 34E-08	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	47	49. 5			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	60	16	88. 8	7. 60E-08	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	44. 5	47			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	42	9	92. 8	7. 00E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	42. 8	45. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	29	11	95. 2	1. 18E-05	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	40. 3	42. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	51	17	84	1. 04E-05	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	37. 8	40. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	41	7	95. 6	3. 12E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	35. 3	37. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	49	15	89. 2	2. 91E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	32. 8	35. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	21	6	96. 8	7. 88E-07	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	30. 3	32. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	40	5	97. 6	5. 42E-08	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	27. 8	30. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	27	12	98. 8	1. 82E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	25. 3	27. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	55	24	78	4. 48E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	22. 8	25. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	89	39	56. 8	3. 41E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	20. 3	22. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	21	10	95. 2	1. 79E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	17. 8	20. 3			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	43	17	87. 6	5. 89E-05	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-5(水平)	H. 1	15. 3	17. 8			2. 5	270. 4	575. 6	花崗閃綠岩	47	19	70. 4	2. 40E-06	湧水圧湧水量試験			2回目
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 76E-06	簡易低圧ルジオン	0. 39		間隙水圧が安定するまで 充分な時間をとっている
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 97E-04	簡易低圧ルジオン	0. 38		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				1. 28E-05	簡易低圧ルジオン	0. 74		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				3. 37E-05	簡易低圧ルジオン	0. 77		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				1. 84E-06	簡易低圧ルジオン	0. 76		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 56E-06	簡易低圧ルジオン	0. 7		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				4. 95E-06	簡易低圧ルジオン	1. 11		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 07E-06	簡易低圧ルジオン	1. 45		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 82E-06	簡易低圧ルジオン	1. 43		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				8. 41E-05	簡易低圧ルジオン	1. 24		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				2. 10E-06	簡易低圧ルジオン	0. 23		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				4. 75E-05	簡易低圧ルジオン	0. 42		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				3. 62E-05	簡易低圧ルジオン	0. 42		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				1. 08E-05	簡易低圧ルジオン	0. 32		
KH-7(水平)	H. 4					3	258. 4	587. 6	花崗閃綠岩				9. 41E-07	簡易低圧ルジオン	0. 13		
KG-1	H. 4	57	62	59. 5	5	59. 5	725. 36	花崗閃綠岩	3	0		8. 00E-09	Perm-10を用いた定常試験	4. 95	亀裂部		
KG-1	H. 4	87	92	89. 5	5	89. 5	695. 36	花崗閃綠岩	8	0		1. 70E-07	Perm-10を用いた定常試験	0. 18	亀裂部		
KG-1	H. 4	141	146	143. 5	5	143. 5	641. 36	花崗閃綠岩	6	0		3. 80E-08	Perm-10を用いた定常試験	5. 52	亀裂部		
KG-1	H. 4	223	228	225. 5	5	225. 5	559. 36	花崗閃綠岩	5	0		6. 20E-09	Perm-10を用いた定常試験	10. 87	亀裂部	間隙水圧が一定値になら なかった	
KG-1	H. 4	490	495	492. 5	5	492. 5	292. 36	花崗閃綠岩	4	0		1. 70E-07	Perm-10を用いた定常試験	34. 91	亀裂部	間隙水圧が一定値になら なかった	
KG-1	H. 4	529	534	531. 5	5	531. 5	253. 36	花崗閃綠岩	3	0		1. 70E-08	Perm-10を用いた定常試験	36. 07	亀裂部		
KG-1	H. 4	615	620	617. 5	5	617. 5	167. 36	花崗閃綠岩	1	0	*		Perm-10を用いた定常試験	48. 95	健全部	*有効水圧と注入量の関 係が一定にならなかっ た。最小値と最大値で示 すと、3. 0E-10~7. 0E- 10 間隙水圧が一定値に	
KG-1	H. 4	703	708	705. 5	5	705. 5	79. 36	花崗閃綠岩	4	0		8. 90E-09	Perm-10を用いた定常試験	53. 4	亀裂部		
KG-1	H. 4	737	742	739. 5	5	739. 5	45. 36	花崗閃綠岩	2	0		1. 20E-07	Perm-10を用いた定常試験	57. 71	亀裂部		
KG-1	H. 4	785	790	787. 5	5	787. 5	-2. 64	花崗閃綠岩	2	0	*		Perm-10を用いた定常試験	78. 78	亀裂部	*有効水圧と注入量の関 係が一定にならなかっ た。最小値と最大値で示 すと、2. 9E-9~2. 6E-8。 間隙水圧が一定値になら なかった	
KG-1	H. 4	57	62	59. 5	5	59. 5	725. 36	花崗閃綠岩	3	0		2. 20E-09	Perm-10を用いた非定常試験	5. 01	亀裂部	地下水の容積係数を1、 粘土1 cPとして換算	
KG-1	H. 4	223	228	225. 5	5	225. 5	559. 36	花崗閃綠岩	5	0		5. 40E-07	Perm-10を用いた非定常試験	10. 75	亀裂部	地下水の容積係数を1、 粘土1 cPとして換算	
KG-1	H. 4	615	620	617. 5	5	617. 5	167. 36	花崗閃綠岩	1	0		2. 76E-10	Perm-10を用いた非定常試験	47. 9	健全部	地下水の容積係数を1、 粘土1 cPとして換算	



## **トンネル湧水量データ**















トンネル湧水量一覧表

番号(1)	番号(2)	線名	駅間	トンネル名	延長 (m)	形式	竣工年月	岩種 番号	岩種記号	破碎 帶の 有無	断層 の数	土被り (max)	土被り (ave)	総湧水量 (m <sup>3</sup> /min) (1977年文献)	総湧水量 (m <sup>3</sup> /min) (1985年文献)	キロ当たり 湧水量(1977 年文献)	キロ当たり 湧水量(1985 年文献)	備考
446	SKO-006	山陽新幹線	新神戸-西明石	高塚山	3264	新幹線	S46.02	4	Tms, ss, tf, Dcg	2	1	80	50		0.12		0.037	
447	SKOK-001	山陽新幹線	相生-岡山	相生	3988	新幹線	S44.12	1	Mrh, tf, an	2		172	77		0.66		0.166	
448	SKOK-002	山陽新幹線	相生-岡山	帆坂	7588	新幹線	S45.10	1	Mrh, tf, an	2		300	120		1.77		0.233	
449	SKOK-003	山陽新幹線	新倉敷-福山	金光	2712	新幹線	S50.03	1	Mgd	2		80	40		0		0	ポンプ排出のため測定できず
450	SKOK-004	山陽新幹線	新倉敷-福山	笠岡	2622	新幹線	S50.03	6	Psch, sl	2		100	57					
451	SKOK-005	山陽新幹線	新倉敷-福山	明知	3033	新幹線	S50.03	1	Mgr, sl	2	6	100	70		0.432		0.142	
452	SKOK-006	山陽新幹線	福山-三原	福山	4235	新幹線	S48.12	4	Tsl, gr	2	3	130	73		1.234		0.291	
453	SKOK-007	山陽新幹線	福山-三原	第二松永	1290	新幹線	S48.07	1	Mgr	2		35	20		0.312		0.242	
454	SKOK-008	山陽新幹線	福山-三原	尾道	3800	新幹線	S50.03	1	Mgr, Phf, sl	2		125	60		0.618		0.163	
455	SKM-001	山陽新幹線	三原-広島	備後	8900	新幹線	S50.03	1	Phf, sl, rh, Mgr	1	7	290	170	2.24	0.97	0.252	0.109	溜池有り
456	SKM-002	山陽新幹線	三原-広島	第二高山	3207	新幹線	S48.03	1	Mgr	0	3	110	55	0.48	0.23	0.15	0.072	溜池有り
457	SKM-003	山陽新幹線	三原-広島	本郷	3683	新幹線	S49.01	1	Mgr	0		195	130	0.26	0.2	0.071	0.054	
458	SKM-004	山陽新幹線	三原-広島	安芸	13030	新幹線	S49.03	1	Mgp, gr, Dta	1	12	382	150	7.55	2.23	0.579	0.171	溜池有り
																	降水量はS52-58.1までの記録。貯水	
459	SKH-001	山陽新幹線	広島-新岩国	己斐	5960	新幹線	S49.03	1	Mgr	0		160	20	1.7	2.03	0.285	0.441	池有り
460	SKH-002	山陽新幹線	広島-新岩国	五日市	6585	新幹線	S49.03	1	Mgr	0	3	90	40	4.5	3.4	0.683	0.516	水田、貯水池有り（可愛川）
461	SKH-003	山陽新幹線	広島-新岩国	大野	5389	新幹線	S49.03	1	Mgr	0		250	110	3.4	1.14	0.631	0.212	
462	SKH-004	山陽新幹線	広島-新岩国	岩国	5132	新幹線	S49.03	6	PsI, ch, ss	0		310	170	1.01	0.27	0.197	0.053	
463	SKI-001	山陽新幹線	新岩国-徳山	新欽明路	6822	新幹線	S49.03	6	PsI, ch	1		230	100	1.02	1.37	0.201	0.15	
464	SKI-002	山陽新幹線	新岩国-徳山	野口	1008	新幹線	S49.03	6	PsI	2		80	40		0.2		0.198	
465	SKI-003	山陽新幹線	新岩国-徳山	第二玖珂	821	新幹線	S49.03	1	Mgr	0		50	30	0.13	0.3	0.158	0.365	
466	SKI-004	山陽新幹線	新岩国-徳山	周東	2040	新幹線	S49.03	1	Mgr	0		120	70	0.67	1.39	0.328	0.681	
467	SKI-005	山陽新幹線	新岩国-徳山	大崎	3065	新幹線	S49.03	1	Mgr, PsI	0		180	150	0.82	1.3	0.268	0.424	
468	SKI-006	山陽新幹線	新岩国-徳山	樋口山	955	新幹線	S49.03	1	Mgd	0		30	15	0.4	0.42	0.419	0.44	水田有り
469	SKI-007	山陽新幹線	徳山-小郡	第一桜谷	1787	新幹線	S49.03	99	Psct, Mgr	0		150	90	1.5	1.06	0.839	0.593	
470	SKI-008	山陽新幹線	徳山-小郡	富田	5543	新幹線	S49.03	99	Psct, Mgd	0		170	130	3.1	1.9	0.559	0.343	水田多数
471	SKI-009	山陽新幹線	徳山-小郡	大平山	6640	新幹線	S49.03	99	Psct, Mgr	0	3	570	450	5	6.3	0.753	0.949	河川横断
									P, MsS, sh, MgD, Tss,									
472	SKK-001	山陽新幹線	新下関-小倉	新関門	18713	新幹線	S50.03	5	cg	2	20	408	125		9.1		0.486	
473	SKK-002	鹿児島新幹線	小倉-博多	北九州	11746.8	新幹線	S50.03	5	Mss, sh, gr, Tsh, ss	2	23	406	122		9.26		0.788	
474	SKK-003	鹿児島新幹線	小倉-博多	石坂	947	新幹線	S50.03	1	Mgr, Tsh, ss	2		19	10		0		0	
475	SKK-004	鹿児島新幹線	小倉-博多	鞍手	1016	新幹線	S50.03	5	Mss, sh, gr	2		80	40		0.2		0.197	
476	SKK-005	鹿児島新幹線	小倉-博多	室木	1163	新幹線	S50.03	4	Tsh, ss, Mgr	2		83	41		0.05		0.043	トンネル下部に古洞③
477	SKK-006	鹿児島新幹線	小倉-博多	四郎丸	695	新幹線	S50.03	4	Tsh, ss, Mgr	2		28	13		0.1		0.144	
478	SKK-007	鹿児島新幹線	小倉-博多	稻光	796	新幹線	S50.03	1	Mgr	2		20	10		0.02		0.025	
479	SKF-001	鹿児島新幹線	小倉-博多	福岡	8474	新幹線	S50.03	99	Psct, Mgr	2	20	470	160		10.83		1.278	福岡の降水量は過去30年の平均
480	SKF-002	鹿児島新幹線	小倉-博多	久山	405	新幹線	S50.03	99	Psct	2		40	15		0		0	福岡の降水量は過去30年の平均